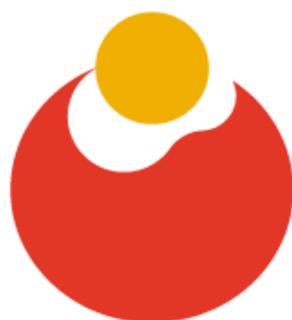


平成 28 年度 施策評価結果

(施策マネジメントシート)



雲南市

施策体系

基本構想		前期基本計画	… 目次
基本理念	H27～36年度 まちづくりの将来像(政策)	H27～31年度 施策	
「生命と神話が息づく 「課題先進地」から「課題解決先進地」へ 新しい日本のふるさとづくり」	I みんなで築くまち 《協働・行政経営》	1 市民が主役のまちづくりの推進	… P. 3
		2 移住・交流の推進	… P. 5
		3 市民と行政の情報の共有化	… P. 7
		4 男女共同参画の推進	… P. 9
		5 時代にあった行政サービスの実現	… P. 11
		6 職員の育成・確保	… P. 13
		7 計画的なまちづくり	… P. 15
		8 財政の健全化	… P. 17
	II 安全・安心で快適なまち 《定住環境》	9 都市・住まいづくりと土地利用の推進	… P. 19
		10 自然と地域環境の保全	… P. 21
		11 地域情報化の推進	… P. 23
		12 生活道路の整備	… P. 25
		13 広域幹線道路の整備	… P. 27
		14 公共交通ネットワークの充実	… P. 29
		15 上水道の整備	… P. 31
		16 下水道の整備	… P. 33
		17 消防・防災対策の推進	… P. 35
		18 交通安全の推進	… P. 37
		19 消費者保護・防犯対策の推進	… P. 39
	III 支えあい健やかに暮らせるまち 《保健・医療・福祉》	20 地域医療の充実	… P. 41
		21 健康づくりの推進	… P. 43
		22 高齢者福祉の充実	… P. 45
		23 障がい者(児)福祉の充実	… P. 47
		24 生活困窮者の支援	… P. 49
		25 地域福祉の充実	… P. 51
		26 子育て支援の充実	… P. 53
	IV ふるさとを学び育つまち 《教育・文化》	27 学校教育の充実	… P. 55
		28 生涯学習の推進	… P. 57
		29 青少年健全育成の推進	… P. 59
		30 平和と人権の尊重	… P. 61
		31 生涯スポーツの振興	… P. 63
		32 地域文化の振興	… P. 65
	V 挑戦し活力を産みだすまち 《産業》	33 地域資源を活かした産業の創出	… P. 67
		34 雇用機会の充実と安定	… P. 69
		35 工業の振興	… P. 71
		36 農業の振興	… P. 73
		37 林業の振興	… P. 75
		38 観光の振興	… P. 77
		39 商業の振興	… P. 79

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 30 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	地域振興課
	施策名		01.市民が主役のまちづくりの推進	主管課長名
			関係課	政策推進課,総務課,健康福祉総務課,社会教育課,自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市民	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472	
	B		見込						
			実績						
	C		見込						
			実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
目的 まちづくりの課題を主体的に解決する。	A まちづくりに関心がある市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0	
			実績	73.8					
	B 過去1年間に地域活動に参加した市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	78.0	78.0	80.0	80.0		
			実績	82.1	77.3	74.7	73.7	72.5	
	C 地域課題を地域主体で解決できていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0	
			実績	71.6					
	D	%	目標	70.0	72.0	73.0	74.0	75.0	
			実績	69.9	73.9	69.3	69.6	66.9	
	E	%	目標	50.0	50.0	55.0	58.0	60.0	
			実績	45.4					
				目標	56.0	59.0	62.0	65.0	
				実績	57.1	47.4	45.5	46.0	45.1
				目標					
				実績					
				目標					
			実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① まちづくり活動の参加推進	市民	活動に参加・参画する。	a) [施策成果指標B] 過去1年間に地域活動に参加した市民の割合	%	実績	73.9	69.3	69.6	66.9	71.6
② まちづくりの人材確保	活動している市民	活動のリーダー・担い手を確保する。	a) 地域づくり発表会・円卓会議の参加者数	人・人	実績	H26年度より調査			360・400	390・42
			b) 幸雲南塾の参加者数	人	実績	13	11	11	25	18
③ まちづくり活動の拠点整備	活動している市民	活動しやすい場所がある。	a) 交流センターが活動しやすい拠点になっていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	実績	64.3	68.6	65.1	62.6	68.0
④ 地域に応じた体制整備	活動している市民	地域特性に応じた体制や仕組みをつくる。	a) 収益事業に取り組む地域自主組織数	組織	実績	7	11	14	19	19
			b) まちづくり活動団体との協働活動を行っている中間支援組織数	組織	実績	H26年度より調査			1	2

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動に関心をもち、積極的に参加し、協力・連携・交流する。 ●個人や家族、自治会単位では解決できない地域課題を地域自主組織などで話し合い、解決に向け行動する。 ●行政と協働で、地域を越えた幅広いまちづくり活動に取り組む。 ●まちづくり活動を担うリーダーをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり活動に関する情報を提供する。 ●関係団体等との連携・調整を行い、地域活動を支援する。 ●まちづくり活動を担う次世代のリーダー育成を支援する。 ●地域が主体的な活動に取り組むための活動支援とともに、その活動の拠点を整える。 ●地域を越えた幅広いまちづくり活動を支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> ○国の地方創生の基本方針では「小さな拠点」の推進が謳われ、自治体への広がりが見られている。地域福祉の分野においても、地域での支え合いを制度的に進められている。 ○地域運営組織を全国で3,000組織、小さな拠点を1,000カ所形成するKPIが国として定められ、また内閣府において、地域の課題解決のための地域運営組織に関する有識者会議がH28.3月に設置され、質的向上と量的拡大等について精力的に協議されている。 ○地域貢献や社会起業を志す都会地の若者などが増加している。 ○各地域自主組織と雲南市において、地域と行政の協働のまちづくりに関する基本協定を締結し、協働でまちづくりを担っていくことが明文化された。 ○地域の主体的な活動を促す事業等が各省庁で創設されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域自主組織主体の活動を推進するにあたって、市からの育成支援を求める意見がある。 ○まちづくりに意欲ある若者の活動する場づくりや青年層による住民自治活動への参加促進を求める意見が市議会等から出ている。 ○各地域での活動の後継者(担い手)の育成に関する意見が多くなってきた。 ○各地域自主組織から、市役所に対し、各部署の更なる連携強化が求められている。

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較(近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度(目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○成果指標A, B, CともにH26年度と比べ向上している。地方創生の取組みが市内に浸透しつつあり、とりわけ若者のチャレンジに関心・意欲・参画する割合が高くなってきていると考えられる。また、地域自主組織の体制が整い、地域の課題解決に向けた主体的な活動が継続的に行われており、解決に向けた取組みが停滞することなく進められていると考えられる。</p>	<p>○他団体と比較できる資料がないため、比較できない。</p>	<p>○成果指標A, Cは、目標値を下回ったが、成果指標Bは目標値を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① まちづくり活動の参加推進	・地域自主組織をはじめとする様々な活動団体が、地域の課題解決に向けた活動を行うための支援を行うとともに、訪問による意見交換を行うなど活動状況の把握に努めた。
② まちづくりの人材確保	・地域自主組織取組発表会(春・秋年2回)は、地域間の学び合いの場となっているが、もう少し深化できるものを求められている。 ・社会起業や地域貢献を志す若者を対象とした「幸雲南塾(H27年度で第5期目)」の実施などを通じて、チャレンジしようとする若者が雲南市に集まり出している。 ・課題解決スキルをもつ人材の育成・確保に向け、本気で学びたい大学生に地域課題解決の現場を学ぶフィールドワーク等の学習プログラムを試行的に実施した。
③ まちづくり活動の拠点整備	・旧中野幼稚園を改修し、交流センターにするとともに、日登交流センターの改修、その他交流センターの小規模修繕などにより、交流センターの機能回復・強化を図った。 ・三刀屋まちづくり協議会、就労支援A型事業所「エコカレッジ」及び訪問看護ステーション「コミケア」の三者が共同運営を行う世代間交流施設「ほほ笑み」(空き店舗活用)の立ち上げにあたり、計画づくり等の支援を行った。
④ 地域に応じた体制整備	・地域と行政の協働のまちづくりに関する基本協定書を30組織と行政の間で締結し、地域代表制、役割の明確化、情報共有などを明文化した。 ・小規模多機能自治推進ネットワーク会議として全国121自治体との連名により、法人制度の創設を求める提言書を国へ提出した結果、H28.3月から内閣府で有識者会議による検討が始まった。 ・地域課題解決型の外部人材を、地域自主組織の雇用で地域に配置することによって定住を目指す「地域づくり応援隊配置事業」を開始した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○行政とともに地域自主組織や活動団体等が主体的な課題解決に取り組んでいく必要がある。 ○主体的に行われる地域活動を支援する中間支援組織を育成・確保する必要がある。 ○多世代・多様な主体による活動の担い手づくり、場づくりを推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な地域づくりに向けて、行政とともに地域自主組織や活動団体等が主体的な課題解決に取り組む。 ○起業や地域貢献を志す人材、若者、地域及び行政等をつなぎ、地域活動を支援する中間支援組織を育成・確保する。 ○次世代を担う若者のまちづくりへの参画を促進し、多世代・多様な主体による活動の担い手づくり、場づくりを推進する。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① まちづくり活動の参加推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域自主組織をはじめとする活動への理解、参画を促進する必要がある。 ○新たに若者をはじめとする多世代・多様な市民・団体等が活動に参画していく環境をつくる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域自主組織及び活動団体等の活動発表や紹介等を行うとともに活動への理解、参画を促進する。 ○親しみやすい活動の場や地域貢献を志す若者の活動との連携の機会をつくり、新たに若者をはじめとする多世代・多様な市民・団体等が活動に参画していく環境をつくる。
② まちづくりの人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりを担うリーダー等を育成する必要がある。 ○地域課題解決の実践や持続可能なビジネスモデル化への支援を通じて、課題解決人材を育成していく必要がある。 ○地域や地域課題の解決を本気で学びたい大学生に学習プログラムを提供して、課題解決スキルをもつ人材の育成・確保を図る必要がある。 ○地域が求める人材を確保していく必要がある。 ○雲南市の次世代を担う子どもたちを育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりに関する講座や研修会の開催により、まちづくりを担う人材を育成する。 ○関係各部署との連携を強化するとともに、分野別の地域円卓会議を有効に活用し、地域間の情報交換や意識向上を図っていく。 ○NPOとの協働により、起業や地域貢献を志す若者の学び・ネットワークづくりの場を提供し、地域課題解決の実践や持続可能なビジネスモデル化への支援を通じて、課題解決型の人材を育成する。 ○雲南コミュニティキャンパスの取組を通じて、課題解決スキルを持つ人材の育成確保を図る。 ○外部人材を活用し、地域ニーズに応じた人材確保に努める。 ○雲南市のキャリア教育を通じて、次世代を担う子どもたちの育成に努める。 ○子どもたちと地域を支えている大人とのつながりを強化することにより、次世代を担う人材を安定的に確保していく。
③ まちづくり活動の拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり活動の拠点を計画的に整備・維持していく必要がある。 ○地域資源を活用した活動の場づくりを推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり活動の拠点となる交流センターを計画的に整備・維持していく。 ○空き家等の地域資源を活用した活動の場づくりを支援する。
④ 地域に応じた体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ○地域自主組織の各々の実情に合った仕組みづくりや活動環境の向上を支援する必要がある。 ○地域や若者の活動を支援する中間支援組織を育成・確保する必要がある。 ○持続可能な地域づくりに向けて、地域づくり活動、地域福祉活動、生涯学習活動のさらなる充実を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域自主組織の法人格取得環境整備等のため、内閣府の有識者会議での検討状況も注視しつつ、小規模多機能自治推進ネットワーク会議の会員拡大と組織力により、課題解決策を見出していく。 ○地域や若者の活動を支援する中間支援組織を担う人材を育成・確保する。 ○持続可能な地域づくりに向け、組織・運営力、課題解決力、協働力等の向上に向けた研修機会の提供、情報の提供を行っていく。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 14 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	うんなん暮らし推進課
	施策名		02.移住・交流の推進	主管課長名
			関係課	政策推進課,情報政策課,子ども政策課,産業推進課,農林振興課,農業委員会事務局,建設総務課,建築住宅課,教育総務課,自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市外の人・市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B 定住相談件数	件	見込	(実績) 282	202	225	247	270
			実績	113	178	176	185	212
	C		見込					
	実績							
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
雲南市を好きになり、移住・定住してもらう。	A 転入者人口	人	目標	923	959	993	1,027	1,061
			実績	963				
		目標		1,200	1,200	1,200	1,200	
		実績	951	796	877	911	830	
	B 市外から移住した世帯数・人数(定住推進員がワンストップ窓口として関わるもの)	世帯・人	目標	36・94	43・108	50・123	57・137	64・151
			実績	43・80				
			目標					
			実績	11・24	19・52	23・60	22・55	22・44
	C		目標					
		実績						
	目標							
	実績							

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 移住に向けた魅力の発信と交流の促進	市外の人・市民	雲南市の魅力を知ってもらう。	a) 定住サイト「ほっこり雲南」アクセス数	件	実績	—	15,556	10,882	16,768	23,347
			b) UIターンフェア来場者数(ふるさと定住財団主催分)	人	実績	522	578	782	1,122	1,280
			c) ふるさと納税者数	人	実績	164	72	86	140	233
② 移住のための相談・支援体制の充実	市外の人・市民	安心して移住・定住してもらう。	a) 定住相談件数	件	実績	178	176	185	212	282
			b) 定住推進員が関わった定住数(市内移動を含む)	世帯・人	実績	30・83	34・90	30・76	36・87	53・112
			c) 空き家バンク成約数	世帯・人	実績	28・81	26・74	29・75	35・83	37・81
③ 定住に向けた環境整備	市外の人・市民	良好な環境で暮らしてもらう。	a) 空き家バンクの登録件数(年度増加数)	件	実績	85	20	10	23	41
			b) 固定資産税課税免除件数(当該年度の前年中新築取得件数)	件	実績	H26申請分はH27に課税免除(H27以降調査)				

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●移住してきた人への地域情報の提供などにより、移住者が地域にとけ込みやすい環境をつくる。 ●移住してきた人は、自治会への加入、地域活動への参加などにより、近隣住民との良好な関係をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と連携し、移住し定住されている方からの意見聴取などを行い、移住者が定住していくために支援するとともに、これから移住してくる人にも住みやすい環境を整える。 ●移住希望者が定住するために空き家情報、公営住宅などの必要な情報を提供する。 ●雲南市を好きになり、応援してもらえるように市民とともに取り組む。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国はまち・ひと・しごと創生法により、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって日本社会を維持するとした。</p> <p>○雲南市は第2次総合計画及び総合戦略において、「人口の社会増」を主要テーマに掲げ政策推進している。</p> <p>○島根県の移住拡大施策の強化や県・市町村・ふるさと島根定住財団の連携した定住情報の発信により、NPO法人ふるさと回帰支援センターの2015年移住希望地域ランキングで島根県は第3位となった。</p>	<p>○UIターン希望者から、年度途中からでも保育所へ入所できるよう保育の量の拡大を望む声がある。</p> <p>○地域から、専門的なスキルを持った人材の移住・定住により、地域の課題解決を求める意見がある。</p> <p>○市民から、結婚対策について行政の関わりをのさるる拡充を求められている。</p> <p>○ふるさと会においては、会員の減少及び高齢化が懸念されている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度 (目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○H27年度に、子育て世代の社会増のための施策拡充を行ったことや移住・定住施策の推進、窓口機能を持つ「うんなん暮らし推進課」の設置、情報発信の強化等により、転入者増につながったと考えられる。 ○専属の定住支援スタッフを2名増員し5名体制にしたことにより、相談対応及び移住実績の向上につながったと考えられる。</p>	<p>○県内8市において、人口に対する転入者の割合について比較したところ、雲南市は7番目であった。 ※なお、県内8市において、人口に対する社会動態の増減率について比較したところ、雲南市は3番目であった。 【出典:「島根県の人口移動と推計人口」(島根県統計調査課)】</p>	<p>○成果指標A及びBの世帯数は目標値を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 移住に向けた魅力の発信と交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・UIターンフェア(東京5回、大阪4回、広島2回)における移住相談を実施するとともに、定住サイト「ほっこり雲南」やSNSを活用し移住の情報発信を行った。また、子育てポータルサイト「ゆっくり、子育て、雲南市」、雲南暮らしを楽しむサイト「これから雲南」を活用した情報発信や東京・近畿・広島ふるさと会へ本市の情報発信を依頼した。 ・農村と都市との交流事業(農都交流事業、移住体験プログラム等)の実施、移住定住や地域の活性化を目的に「30歳の成人式」を開催した。 ・結婚対策事業として、婚活支援団体へ無料結婚相談や婚活イベントの事業委託を行うとともに、地域などで実施された婚活イベントに事業助成を行った。
② 移住のための相談・支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に「うんなん暮らし推進課」を設置し体制強化を図った。 ・定住支援スタッフを2名増員し、5名体制に強化を図り、きめ細やかな移住・定住相談や移住に向けた情報発信、UIターン者交流会を行った。
③ 定住に向けた環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク制度による物件情報の提供や空き家片付け補助金の新設など空き家活用支援の充実を図った。 ・新築住宅取得に関わる固定資産税の課税免除制度を子育て世帯に向けて一部拡充した。 ・都市の仕事や田舎でも出来る場や若者チャレンジの場として空き家を活用したシェアオフィスを開設した。 ・子育て世帯へ向けた定住宅地貸付、民間住宅地購入の支援、定住促進住宅における家賃の減額制度を導入した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南市への移住・定住に関する窓口のワンストップ化及び体制強化により、移住・定住の促進を図る必要がある。 ○誰もが住み良く活動しやすい環境づくりを進めるとともに、起業や地域貢献活動を志す若者を呼び込む取り組みを強化する必要がある。 ○結婚対策や市外の人との交流促進に関する取り組みを積極的に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○移住・定住に関する積極的な情報発信や移住希望者へのきめ細やかな相談・支援に取り組む。 ○誰もが住み良く活動しやすい環境づくりを、女性の視点を取り入れながら「人口対策・地方創生」の推進体制にて検討し進める。起業や地域貢献活動を志す若者を呼び込む活動や若者がチャレンジする場の提供を行う。 ○結婚円卓会議により新たな取り組みや連携を検討するなかで、結婚活動支援団体と協力し事業を推進する。また、積極的な情報発信により市外の人との交流促進を積極的に取り組む。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 移住に向けた魅力の発信と交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南市への移住に向け、市の魅力を広く情報を発信していく必要がある。 ○雲南市に縁のある方へ情報提供に努め、本市の魅力発信を強化していく必要がある。 ○結婚相談や婚活中の独身男女の出会いの場づくりの支援、農村と都市との交流事業を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南市定住サイト「ほっこり雲南」、子育てポータルサイト「ゆっくり、子育て雲南市」、雲南暮らしを楽しむサイト「これからUNNAN」や総務省、ふるさと島根定住財団などのサイトを活用し最新の情報を提供する。また、移住の専門雑誌などメディアを活用し、広く情報を発信していく。 ○雲南市ふるさと会など縁のある方へ情報提供に努め、共に連携し本市の魅力を発信する。 ○結婚活動支援団体と連携した結婚相談サロンの開設や独身男女の出会いの場づくり支援、結婚円卓会議において官民協働での結婚対策を検討する。また、農村の多面的機能を活かした都市との交流や体験事業を進める。
② 移住のための相談・支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○地域貢献活動等を志す若者など移住者の多様なニーズに対応する必要がある。 ○地域づくり組織及び民間団体との連携を図り移住促進するとともに、雇用対策等の相談体制を充実する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○移住者の多様なニーズと地域課題解決をマッチングする支援を行う。 ○地域自主組織、中間支援組織及び民間事業者との連携による移住促進を行うとともに、雇用対策等について各部署や島根県との連携によりきめ細やかな相談体制の充実を図る。
③ 定住に向けた環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○空き家バンク制度を継続し、提供物件の安定的な確保に努める必要がある。 ○住宅新築に関する優遇措置や子育て世代への助成制度の活用を促進する必要がある。 ○人材が不足する業種について、UIターンによる人材確保に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や不動産取引事業所との連携、空き家片づけ補助金の活用により、空き家バンク物件の安定的な確保に取り組む。 ○新築住宅の固定資産税に関する優遇措置をはじめ、子育て世代への各種助成制度等の活用促進に向け情報を提供するとともに、定住に向けた環境整備について「人口対策・地方創生」の推進体制にて検討する。 ○人材が不足する業種について事業所のニーズや要望を把握し、UIターンによる人材確保を検討する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 14 日
更新日 平成 28 年 9 月 1 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	情報政策課
			主管課長名	末次 治良
	施策名	03.市民と行政の情報の共有化	関係課	総務課,自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
			実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
目的 市政に関する多くの情報を得る。	A 市政に関する情報がわかりやすく提供されていると感じる市民の割合〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0
			実績	52.3				
			目標		50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	47.3	49.4	51.0	52.2	51.0	
	B 市政に関する情報が得やすいと感じる市民の割合〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0
			実績	53.1				
			目標		42.0	43.0	44.0	45.0
		実績	48.0	50.6	52.6	54.2	53.9	
	C		目標					
			実績					
			目標					
		実績						
	D		目標					
			実績					
			目標					
	実績							
E		目標						
		実績						
		目標						
	実績							

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 広聴機会の充実	市民	広聴の機会・方法を充実する。	a) 市政懇談会・まちづくり懇談会参加者数	回・人	実績	6・1,056	9・1,005	9・818	8・575	6・449
			b) 出前講座の回数・参加者数	回・人	実績	11・600	3・222	4・195	3・87	0・0
② 広報媒体による情報提供の充実	市民	広報媒体により情報を得る。	a) ホームページアクセス数・facebookいいね数	件・件	実績	270,946	308,324	400,070	402,129	416,015
			b) CATV加入率	%	実績	—	—	783	1,550	6,157
					実績	89.8	88.8	87.9	87.5	86.8

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●行政情報の収集に努め、活用する。 ●広聴の機会に積極的に参加する。 ●行政サービスに対する意見・提言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に対し迅速・正確でわかりやすい情報を提供する。 ●市民が広聴の機会に参画しやすく、意見・提言をしやすい環境を整える。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(~H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○情報提供や共有等の手段として、特に若年層で各種電子媒体(スマートフォン・タブレット)の普及が進んでいる。</p> <p>○高齢化が進み、独居・高齢者世帯の増加が進行する。</p> <p>○自治会加入率の低下による情報伝達機会の減少が懸念される。</p>	<p>○自治会からは、配布物が多すぎる、との意見がある。</p> <p>○議会からは、高齢者に配慮し、安易なペーパーレス化への移行は問題があるとの意見もある。</p> <p>○市報について、文字の大きさや配色など高齢者に配慮して、誰もが気持ちよく読める市報を望む声がある。</p> <p>○議会からは、市政懇談会の開催のあり方(回数、箇所数、時間帯、テーマの設定)について検討を求める意見がある。</p> <p>○市ホームページ等の検索性の向上が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標A (情報が「わかりやすい」と感じる市民の割合)は1.3ポイント向上した。年代別で見ると、30歳代が大幅に向上するとともに、75歳以上の方は7割以上が「わかりやすい」と感じていることから、市報うんなん(例:ふりがな記載)、CATV(データ放送)などの情報発信の工夫が一定の成果につながったと考えられる。</p> <p>○成果指標B (情報が得やすいと感じる市民の割合)はほぼ横ばい。年代別で見ると、特に30歳代では昨年度と比較し約2倍になるなど、子育て世代に向けた情報提供や市報うんなんの紙面の工夫、ショッピングセンター・温浴施設等への設置などが一定の成果につながったと考えられる。</p>	<p>○他団体と定量的に比較できるデータはないが、市政懇談会等による広聴やあらゆる媒体により公開すべき行政情報は公開しており、他団体と同水準であると推察する。</p> <p>○比較できる実績値としてはフェイスブックの「いいね」件数(H28.7.1時点)があり、雲南市7,007、島根県6,983、出雲市2,939、江津市1,955、海士町1,327、川本町1,321、飯南町1,291、美郷町1,072、邑南町980、津和野町723、大田市(産業企画課)686、益田市(文化交流課)428、浜田市(広報係)221、(松江市、安来市は不明)。 【出典:各市役所フェイスブックページ】 ○また、公式Youtubeでは、 ・「チャレンジ/ダイジェスト版」133,366回 ・「うんなん×暮らし×しごと/ダイジェスト版」164,621回 ・いずれも視聴回数(H28.7.1時点)</p>	<p>○成果指標A、Bともに、目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 広聴機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市政懇談会を6回(499人参加)実施した。 ・出前講座を284回(8,054人)開催した(対前年比28回増、1,395人増)。
② 広報媒体による情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「市報うんなん」のふりがな記載やデザイン・配色等に配慮し、見やすい市報づくりに努めた。 ・「市報うんなん」で、「まち・ひと・しごと創生」、「子育て支援」など、特集を組んで惹きつける紙面づくりに努めた。 ・「市報うんなん」を、市内ショッピングセンター、公共施設等が集まる場所にも設置し、自由にお取りいただけるようにした。 ・公式facebook(フェイスブック)について、庁内体制の強化を図り、積極的な投稿及び情報発信に努めた。 ・公式Youtube(ユーチューブ)について、首都圏などの若年層向けの動画(チャレンジ・定住)の発信に努めた。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○市民にとって分かりやすく、得やすい情報の提供を行う必要がある。</p> <p>○広聴機会の充実に努め、市民の意見や要望を市政運営に反映していく必要がある。</p> <p>○人口の社会増に向けた情報発信の強化を図ることを目的として、特に子育て世代への積極的な情報発信に取り組む必要がある。</p>	<p>○市民にとって分かりやすく、得やすく且つ迅速な情報の提供に努める。</p> <p>○市政懇談会、まちづくり懇談会等の広聴機会の充実に努め、市民の意見や要望を市政運営に反映していく。</p> <p>○人口の社会増を目指し、特に子育て世代のUターンを促進するため、子育てポータルサイト等による情報発信に取り組む。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 広聴機会の充実	<p>○市政懇談会、まちづくり懇談会などの内容の工夫、参加しやすい環境づくりに努め、広聴機会の充実に努める必要がある。</p>	<p>○引き続き、住民ニーズや高齢者・障がい者に配慮した広聴機会(市政懇談会・まちづくり懇談会等)の充実に努める。</p>
② 広報媒体による情報提供の充実	<p>○市民にとって分かりやすく、得やすい情報の提供を行う必要がある。</p> <p>○若年層、高齢者、障がい者に配慮した提供方法の充実に努める必要がある。</p>	<p>○HP(ホームページ)、市報、CATV、音声告知放送、SNS等の媒体を活用し、市民にとって分かりやすく、得やすい情報の提供を行う。</p> <p>○HP(ホームページ)の改修に伴い、その活用による情報提供を行う。</p> <p>○SNS等(facebook、Youtube)の活用による情報提供に努める。</p> <p>○見やすい市報の紙面づくりに努める。</p> <p>○データ放送の更新に伴い、その活用による情報提供を行う。</p>

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 17 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	人権推進室
	施策名	04.男女共同参画の推進	主管課長名	陶山 清男
			関係課	地域振興課,総務課,市民生活課,産業推進課,社会教育課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
			実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
目的 男女がお互いの個性と能力を認め合い、支えあう家庭・学校・地域・職場をつくる。	A 男女が平等に扱われていると感じる市民の割合(全体) 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0
			実績	58.0				
			目標	54.0	54.0	56.0	58.0	60.0
	B 男女が平等に扱われていると感じる市民の割合(男性) 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	68.0	68.0	69.0	69.0	70.0
			実績	66.1				
			目標	61.3	59.0	61.0	63.0	65.0
	C 男女が平等に扱われていると感じる市民の割合(女性) 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	54.0	55.5	57.0	58.5	60.0
			実績	51.1				
			目標	46.0	46.0	49.0	52.0	55.0
	D		目標					
			実績					
			目標					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 家庭・学校・地域・職場における男女共同参画の推進	市民	家庭・学校・地域・職場における男女共同参画を確立する。	a)市の関係する審議会などの女性委員の割合	%	実績	29.9	28.7	28.6	27.0	21.3
			b)市内事業所の女性管理職の登用割合	%	実績	H28年度以降調査実施予定				
			c)女性自治会長の割合	%	実績	1.2	1.4	2.4	1.2	1.2
② 相談・支援体制の充実	市民	家庭・学校・地域・職場における悩みが相談できる。	a)DV相談延べ件数/女性相談延べ件数	件	実績	65/153	21/130	33/205	174/272	65/173

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●性別による固定的役割分担意識や慣習、しきたりにとらわれず、家庭・学校・地域・職場で男女が互いに認め合う意識をもつ。 ●地域団体の役員等への女性の参画を積極的に進めるとともに、女性が主体的に活躍できる環境づくりに努める。 ●事業所では、仕事と家庭の両立を支援するとともに、職場での女性の活躍機会を確保・充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「雲南市男女共同参画都市宣言」及び「第2次雲南市男女共同参画計画～雲南市DV対策基本計画～」に基づくまちづくりを推進する。 ●意識啓発を図るため、研修等の機会を提供する。 ●関係する審議会委員等への女性の参画を積極的に進めるとともに、地域で主体的に活動していくリーダー育成を支援する。 ●家庭・学校・地域・職場での不安や悩みに関する相談窓口や支援体制の充実を図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H28年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○人口減少、少子高齢化、核家族化の傾向にある。</p> <p>○経済状況の悪化から不安定就業(非正規雇用)が増加している。</p> <p>○育児・介護休業法の改正(H22.6.30施行)により、男女共同参画社会に対する企業の取り組みが行われつつあり、今後、育児休暇取得率が向上していくことが期待される。</p> <p>○政府は、女性が輝く日本をつくるため、「待機児童の解消」「職場復帰・再就職の支援」「女性役員・管理職の増加」などの政策を進めている。</p> <p>○国(第3次男女共同参画基本計画)では、政策・方針決定過程などへの女性の参画割合を高めていくことが重要であるとしている。</p> <p>○H28.4月より「女性活躍推進法」が施行され、国は女性の職業生活における活躍の推進に関する基本方針、国および地方公共団体・民間事業主(労働者が300人を上回る)は事業主行動計画を策定し、活躍の推進を図るとされている。</p>	<p>○新たな男女共同参画計画の策定にあたり、男女共同参画推進委員会から、気運の醸成を図り、市全体の取り組みにするための啓発、周知が求められている。</p> <p>○男女共同参画都市宣言を踏まえ、「女性の視点、力」をまちづくりに活かしていく取組を求める市議会意見がある。</p> <p>○東日本大震災を教訓とした女性の視点を取り入れた防災マニュアル作成等を推進リーダー研修参加者、推進委員会、ネットワーク会議などから求められている。</p> <p>○「女性活躍推進法」が施行されたことで、以前から拳がっていた市内事業所の実態調査に対する要望がより強くなってきている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○男女が平等に扱われていると感じる市民の割合は、H26年度と比較し、全体では6.2ポイント向上、男性は4.9ポイント向上、女性は7.7ポイント向上した。(但し、H25年度実績と比べると、いずれも低い)。この背景・要因として、社会意識の変化、「雲南市男女共同参画都市宣言」の認知度の高まり、継続的な啓発活動などが考えられる。</p>	<p>○男女共同参画の専門部署を設置している自治体は、県内で雲南市と松江市、出雲市のみである。 【出典：島根県(男女共同参画室への聞き取り)】 ○『「男は外で働き、女は家庭を守る」というような、固定的な性別による役割分担の考え方について、あなたはどのようになりますか?』との問いに対し、『そう思わない』が県平均71.7%、出雲76.4%、松江・安来74.0%、浜田73.0%、益田70.9%、隠岐67.5%、大田66.4%、雲南65.9%だった。 【出典：平成27年度島根県政世論調査】</p>	<p>○成果指標A, B, Cともに目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 家庭・学校・地域・職場における男女共同参画の推進	<p>・男女共同参画意識啓発運営事業では、地域自主組織・交流センター職員対象研修(年1回)、男女共同参画推進リーダー研修(年1回)、事業所研修(年1回)、子育て世代対象の研修(年1回)など、講演会やワークショップを中心に開催し、性別による固定的役割分担意識や慣習、しきたりにとらわれず、家庭・学校・地域・職場で男女が互いに認め合う意識を醸成していくための取組みを実施した。</p>
② 相談・支援体制の充実	<p>・女性相談運営事業では、面接や電話による女性相談(延べ人数173人:うち延べ65人がDV相談件数)をはじめ、女性弁護士相談(年3回)、DVセミナー(年1回)・デートDV講座(例年1回、H27年度は年3回)等を実施し、様々な悩みをもつ女性への助言や情報提供、DVに対する正しい認識を促すことができた。 ・相談内容が多様化しており、関係部署や外部機関との情報共有や更なる連携が必要である。 ・専門的な知識を要する相談員を配置しているが、多様化する相談内容への対応など、更なる資質の向上を図る必要がある。</p>

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○性別による固定的役割分担意識や慣習、しきたりにとらわれず、家庭・学校・地域・職場で男女が互いに認め合う意識をもつ必要がある。</p>	<p>○すべての男女の人権を尊重し、それぞれの個性と能力を活かし、あらゆる活動に対等に参画できるまちづくりに取り組む。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 家庭・学校・地域・職場における男女共同参画の推進	<p>○女性の視点が必要となる昨今の情勢から、地域団体や審議会等への女性委員の参画が必要である。 ○事業所において、仕事と家庭の両立を支援するとともに、職場での女性の活躍機会を確保し、充実していく必要がある。 ○仕事と家庭の両立を図るための雰囲気づくりに努め、育児や介護等に理解のある職場のリーダーを育成し、育児や介護等への参加を促進する必要がある。 ○「女性活躍推進法」の趣旨に則り、女性の職業生活における活躍を推進する取組みを進めていく必要がある。</p>	<p>○地域における制度、慣行や家庭内における性別による固定的役割分担などの話し合いの場を持つための啓発活動に取り組んでいく。 ○職場や各種団体における女性の参画促進に向けた啓発を行う。 ○学校や事業所において、家庭と仕事などの両立支援に向けた学習会を行う。 ○女性が職業生活における活躍を推進するため、男女を問わず仕事と家庭の両立を図ることが出来る雰囲気づくりなど、職場や地域への更なる普及・啓発を行う。</p>
② 相談・支援体制の充実	<p>○男女共同参画に関する不安や悩みに対する相談窓口や支援体制が必要である。 ○女性の人権を守っていくための啓発や男性の相談対応などの支援体制が必要である。</p>	<p>○関係機関、事業所、学校等と連携し、男女共同参画に関する不安や悩みに対する相談窓口の整備や支援体制の構築に努める。 ○DV等の被害者支援、暴力の根絶及び予防啓発に努める。</p>

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 30 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	行財政改革推進課
	施策名		05.時代にあった行政サービスの実現	主管課長名
			関係課	政策推進課, 人事課, 財政課, 管財課, 情報システム課, 市民生活課, 自治振興課, 市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
行政機能	A	部課数	部・課	見込	(実績) 16・103	16・100	16・98	16・98	16・98
		実績			16・113	16・111	16・108	16・107	16・101
		B	職員数	人	見込	(実績) 507	501	492	485
				実績	558	549	541	529	516
				C	見込				
					実績				
目的	②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
公平で効率的なサービスを提供する。	A	市の行政サービスに納得している市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
				実績	60.8				
				目標		70.0	70.0	70.0	70.0
				実績	67.0	66.7	69.5	66.2	65.4
				目標	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0
				実績	63.0				
	B	行政サービス改定の実施率 (H27～H31行財政改革実施計画実施率) ※H22～H26の目標・実績値は、H22～H26行財政改革実施計画実施率	%	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0
				実績	63.0				
				目標		65.0	69.0	76.0	83.0
				実績	58.0	66.1	69.5	76.3	84.8
				目標					
				実績					
C			目標						
			実績						
D			目標						
			実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
①業務と組織機構の効率化	行政機能	効率的な組織機構で効果的な行政サービスを提供する。	a) 組織機構の見直し実績(課室の減少数)	部・課	実績	2	3	1	6	-2
②ICT活用の推進	行政機能	ICTの活用によってサービスの充実と効率化を図る。	a) [施策成果指標A]市の行政サービスに納得している市民の割合	%	実績	66.7	69.5	66.2	65.4	60.8
③民間活力の導入と広域行政の推進	行政機能	民間活力や行政の広域化によってサービスを向上する。	a) アウトソーシングした事業件数	件	実績	2	0	0	3	1
			b) 広域的にやっている事業数・団体数	事業・団体	実績	13・4	13・4	13・4	13・4	13・4
④市民に親しまれる窓口サービスの提供	行政機能	市民に親しまれる窓口をつくる。	a) [施策成果指標A]市の行政サービスに納得している市民の割合	%	実績	66.7	69.5	66.2	65.4	60.8
⑤公共施設の適正管理	公共施設	公共施設を適正に管理する。	a) 指定管理者制度導入施設(新規指定管理導入施設)	施設	実績	113(4)	117(7)	136(19)	135(0)	138(3)
			b) 廃止・休止・民間譲渡施設数	施設	実績	1	2	4	2	1

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
●市が提供するサービスを評価する。	●利便性の高い行政サービスを提供する。 ●市民の理解を得ながら公共施設の見直しを図る。 ●効率、効果的な組織づくりを行う。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
○社会保障・税制度の効率性・透明性を高めるための社会基盤(インフラ)として「社会保障・税番号制度」が始まっており、今後、国や地方公共団体との情報連携が開始される予定である。 ○「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」により、権限移譲が進んでいる。 ○人口減少社会に適応した行財政のスリム化、地方交付税の一本算定による減額の対応などを踏まえ、引き続き行財政改革が必要である。	○総合センターの見直しに伴い、サービス低下をきたさないよう求められている。 ○公共施設(社会基盤)について、財産管理から資産経営(ファシリティマネジメント)に視点が移行する流れであり、施設等の保有総量の縮小、長寿命化、有効活用を求める議会意見がある。 ○コンビニ収納・クレジット決済などの公金収納サービスの充実についての要望がある。 ○市役所新庁舎の施設環境に関する様々な意見・要望(庁舎内の温度管理、案内表示など)がある。

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
○市の行政サービスに納得している市民の割合は、H26年度と比較すると、4.6ポイント低下した。年齢別で見ると、20歳代が4割に満たず低い。(※市民アンケートの設問に対する回答を変更したため、比較分析が難しい。H26「納得している」「納得していないがやむを得ない」と回答した人の割合⇒H27「納得している」「少しは納得している」と回答した人の割合) ○行財政改革実施計画に基づく行政サービス改定は、保育所業務委託への取組、組織の見直しなど、一定の成果を得ている。	○他団体と比較できる資料がないため、比較できない。	○成果指標A、Bとも、目標値に達しなかった。

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価 (貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 業務と組織機構の効率化	・効率的で持続可能な組織運営を図るため、総合センター組織を見直し大きく見直した。併せて、専門的かつ効率的に業務執行するため、本庁組織も見直した。
② ICT活用の推進	・行政業務の効率化に向け、ペーパーレス会議の導入の検討を行った。 ・番号制度(マイナンバー)の開始にあたり、制度説明など周知に努めた。
③ 民間活力の導入と広域行政の推進	・キャリア教育推進事業(おんせんキャンパス活用促進事業)の業務委託を開始した。
④ 市民に親しまれる窓口サービスの提供	・親しまれる窓口づくりと迅速・正確・親切・丁寧な窓口対応に努めている。 ・市民の利便性向上のため、本庁舎1階に総合案内窓口を設置した。
⑤ 公共施設の適正管理	・公共施設等総合管理計画を策定(H28.3月)した。 ・直営から譲渡となった施設が1施設であった。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	○市民に親しまれる市役所づくりと市民目線に立った行政サービスの提供に取り組む必要がある。 ○市民の納得を得ながら徹底した合理化、行政コストの縮減を図る必要がある。 ○民間活力の活用、広域連携の推進によるサービス向上を図る必要がある。	○引き続き、市民に親しまれる市役所づくりと市民目線に立った行政サービスの提供に取り組む。 ○行政コストの縮減を図る。 ○民間活力の活用、広域連携の推進を図る。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 業務と組織機構の効率化	○定員管理計画に基づく職員数において、効率的かつ効果的な事業執行を図る必要がある、H29年度の組織体制を検討する。 ○行政評価システムを活用し、事務事業の企画・改善を図る必要がある。	○組織の見直しにより、効率的で持続可能な行政組織体制の構築を図る。 ○事務事業の見直し(改善・統合・廃止)を進める。
② ICT活用の推進	○インターネット(電子申請・アンケート等利用)を活用し、市民の利便性の向上及び行政業務の効率化を図る。 ○個人番号カードを利用し、住民サービス向上及び行政業務の効率化を図りたいことから、カードの普及を図る。	○住民サービス向上及び行政業務の効率化を図るため、ICTを活用するサービスの検討を進める(個人番号カードを利用した独自サービスの検討)。
③ 民間活力の導入と広域行政の推進	○民間の専門的な知識・ノウハウを活用し、サービス向上につなげる。(H28年度は、大東保育園業務委託に向け、委託業者選考・引継保育を実施)。	○市民の理解を得ながら、民間の専門的な知識・ノウハウの活用を検討する。 ○引き続き、広域行政について検討を進める。
④ 市民に親しまれる窓口サービスの提供	○親しまれる窓口づくりと迅速・正確・親切・丁寧な窓口対応に努める。	○引き続き、親しまれる窓口づくりと迅速・正確・親切・丁寧な窓口対応に努める。 ○本庁舎案内と窓口サービスの充実を図り、市民の利便性向上に努める。
⑤ 公共施設の適正管理	○公共施設等総合管理計画に基づき公共施設の適正な配置、維持管理の実現のため、取組方法・体制の構築に取り組む。	○公共施設等総合管理計画に基づき、長期的な視点から、施設の更新・統廃合・長寿命化を行うことにより、財政負担の軽減・平準化、施設等の最適な配置に努める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 30 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	人事課
	施策名		06.職員の育成・確保	主管課長名
			関係課	政策推進課,財政課,行財政改革推進課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市の職員	A 職員数	人	見込	(実績) 507	(実績) 501	492	485	478
			実績	558	549	541	529	516
	B		見込					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
目的	A 市職員の待遇に満足している市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			実績	64.0				
			目標		64.0	66.0	68.0	70.0
		実績	64.8	65.8	67.1	65.6	60.3	
	B 市職員として求められる能力を発揮している職員の割合	%	目標	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
			実績	85.2				
			目標				83.6	85.7
		実績						
	C やりがいを感じて仕事をしている市職員の割合	%	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績	78.2				
			目標		74.0	76.0	78.0	80.0
		実績	75.3	74.0	76.0	72.9	79.0	
	D		目標					
			実績					
			目標					
	実績							
E		目標						
		実績						
		目標						
	実績							

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 計画的な定員管理	職員	適正な定員にする。	a) 定員管理計画の実現率 ※H23~H27 職員数÷H27目標507人 ※H28~H32 職員数÷H32目標472人	%	実績	108.3	106.7	104.3	101.8	100.0
② 職員の能力開発	一般職	職員資質と能力を高め、発揮する。	a) [施策成果指標B]市職員として求められる能力を発揮している職員の割合(能力評価のA以上の割合)	%	実績	H26年度より調査			85.7	85.2
③ 適正な職員配置	一般職、派遣・駐在職員	適正に人事異動する。	a) [施策成果指標C]やりがいを感じて仕事をしている職員の割合	%	実績	74.0	76.0	72.9	79.0	78.2
④ 働きやすい職場づくり	職員	適正に職員の健康管理、労務管理をする。	a) 病欠職員数(連続1週間以上)	人	実績	20	22	18	27	24

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
●行政に透明性や公平性、効率性を求める。	●人材育成基本方針に基づき、職員を育成・確保していく。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
○幅広い人材確保と専門性の高い業務への対応が必要となってきた。 ○組織見直しや業務委託等による業務の効率化が求められている。 ○地方分権一括法の施行により、権限移譲に伴う体制整備が必要となることと想定される。 ○採用者抑制により、平均年齢の上昇など、年齢構成バランスの悪化の可能性はある。	○職員の対応、待遇について、一定の評価やクレーム等がある。 ○待遇の向上(あいさつ、電話対応)が求められている。 ○議会からは、特に職員の待遇の向上が求められている。

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
○成果指標Aは、人材育成基本方針に基づき研修等の取り組みを行っており、市職員の接遇に満足している市民の割合はやや向上しているもののほぼ横ばい。引き続き、住民満足度の向上への取り組みが必要である。 ○成果指標B、Cは、H26年度と比べるとほぼ横ばい。	○他団体と比較できる資料がないため、比較できない。	○成果指標Aは、目標値に達しなかった。職員の接遇については、市民からの一定の評価もあるが、クレームや接遇の向上を求める意見がある(※年代別で見ると、年齢が上がるのと比例して満足割合も上がっている)。 ○成果指標Bは、目標値をやや上回った。 ○成果指標Cは、ほぼ目標値どおり。

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 計画的な定員管理	・定員管理計画に基づく職員数の削減は、目標値(499人)に達しなかった(H28.4月:501人)。
② 職員の能力開発	・人事評価を実施した(医師・看護師を除く)。 ・接遇、人権及び職員が希望する研修等を年間を通じて実施し、職員の能力向上を図った。
③ 適正な職員配置	・職員が提出した自己申告書の活用、部局長による部局内異動を可能とするなど、適正な職員配置に努めた。
④ 働きやすい職場づくり	・職員の健康管理のほか、ハラスメント防止などにより、働きやすい職場づくりに努めている。 ・雲南市役所において、「イクボス宣言(H27.10月)」を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	○人材育成基本方針に基づく職員の確保と能力開発に取り組んでいく必要がある。 ○職員の健康管理と働きやすい職場づくりを行う必要がある。	○引き続き、人材育成基本方針に基づく職員の確保と能力開発を行い、組織の目標達成に向けて取り組む。 ○職員の健康管理に努め、働きやすい職場づくりに取り組む。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 計画的な定員管理	○定員管理計画に基づいた職員数管理を行う必要がある。	○権限移譲等の新たな業務に対応しながら、定員管理計画に基づいた職員数管理を行う。
② 職員の能力開発	○人事評価を実施するとともに、職員研修を実施する必要がある。	○組織の目標達成と職員の能力開発を目的とする人事評価に取り組み、専門知識や接遇向上のための職員研修を行う。
③ 適正な職員配置	○適正な職員配置を行う必要がある。	○自己申告書や人事評価制度の活用により適正な職員配置を行う。
④ 働きやすい職場づくり	○職員の健康管理に努める必要がある。 ○ハラスメント防止をはじめ、風通しの良い職場づくりを行う必要がある。	○時間外勤務の縮減、健康診断等により、職員の健康管理に努める。 ○引き続きハラスメント防止に努め、コミュニケーションを図りながら風通しの良い職場づくりを行う。 ○女性職員の活躍の推進に向けた数値目標の達成に取り組む、仕事と家庭の両立に努める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 21 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	政策推進課
	施策名		07.計画的なまちづくり	主管課長名
			関係課	人事課,財政課,行財政改革推進課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市の施策	A 施策数	施策	見込	(実績) 39	39	39	39	39	
			実績	40	40	40	40	39	
	B		見込						
			実績						
			見込						
			実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
目的 計画的に目標を達成する。	A 各施策の成果指標達成率(目標を達成した成果指標数/成果指標総数)	%	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0	
			実績	46.5					
	B 人口の社会動態(転入から転出を減じた人数)	人	目標		80.0	80.0	80.0	100.0	
			実績	53.5	50.4	52.5	43.8	40.0	
			目標	▲152	▲97	▲43	13	67	
			実績	▲92					
	C		目標						
			実績	▲219	▲405	▲210	▲152	▲222	
	D		目標						
			実績						
	E		目標						
			実績						
				目標					
				実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 基本計画の策定と進行管理	施策	計画的に施策展開する。	a) [施策成果指標A] 施策の成果指標達成率	%	実績	50.4	52.5	43.8	40.0	46.5
			b) 雲南市の人口	人	実績	41,159	40,548	40,055	39,472	38,990
			c) 20歳~39歳の人口動態(死亡者数を含む)	人	実績	▲104	▲339	▲255	▲301	▲191
② 実施計画の策定と進行管理	事務事業	計画的に事務事業を実施する。	a) 政策課題の処理率(処理できた議題数/政策会議議題数)	%	実績	93.2	92.5	93.4	93.8	90.5

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりがまちづくりの主体であることを自覚し、まちづくりの方向や施策への理解を深める。 ●自助、共助、公助を考え、まちづくりに参画する。 ●地域自主組織、自治会、NPO等あらゆる団体が、その特性を活かし、まちづくりに参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりのビジョンを示し、市民がまちづくりに参画しやすい環境づくりに努める。 ●市民との協働による課題解決に向け、施策の企画立案・実行に努める。 ●行政評価による地域経営の視点にたった計画的な行財政運営を図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国の経済財政状況の変化、少子高齢化の進行及び市民ニーズの多様化など、社会情勢への対応が更に求められる。</p> <p>○少子化の進行により、特に人口問題がクローズアップされ、国・県・市町村において、地域の活力維持や少子化・人口減少の克服を目指した地方創生を推進している。</p> <p>○国と地方の関係の見直しや権限移譲・財源移譲が議論されている。</p>	<p>○要望・陳情は多く寄せられ、市民ニーズに対するきめ細やかな対応が求められている。</p> <p>○実施計画に基づく計画的な事業実施を求める議会意見がある。</p> <p>○「選択と集中」による効率的・効果的なまちづくりを求める意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○各施策の指標はH26年度より成果が向上した指標が多い(約62%)。</p> <p>○人口の社会動態は、年代では10～30代の転入増加、理由別では転職、退職による転入増加により、目標値を上回る低い社会減となった。</p>	<p>○人口の社会動態について、県内8市の対人口増減率(%)を比較すると、出雲市+0.37・松江市▲0.22に続き、雲南市▲0.23は他5市(安来市▲0.29・江津市▲0.38・大田市▲0.39・益田市▲0.53・浜田市▲0.58)より高い水準であるが、県平均▲0.14(町村含む)との比較では、どちらかと言えば低い水準である。</p> <p>【出典:「島根県の人口移動と推計人口」(島根県統計調査課)】</p>	<p>○成果指標Aは、H26年度より6.5%向上したが、目標値の80.0%を大幅に下回った。</p> <p>○成果指標Bは、目標値を大幅に上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 基本計画の策定と進行管理	<p>・基本計画の進行管理に関して、市役所各部署において組織目標を設定し、各課の目標を明確化することに加え、人事評価での個人目標につなげる取組みの推進を図った。</p> <p>・議会による施策評価や決算監査、また総合計画推進委員会において施策の基本事業や事務事業に関する意見を頂き、基本計画の進行管理を図った。</p>
② 実施計画の策定と進行管理	<p>・まちづくりの指針となる総合計画の基本構想や基本計画の方針に基づき、5年間の事業計画を示す実施計画を策定した。</p> <p>・実施計画の進行管理に関して、市役所内で各種庁議を開催し、政策決定の推進を図った。</p>

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○総合計画・総合戦略の実現に向けて、市民や地域自主組織等との協働を更に進め、より一層効果的かつ効率的にまちづくりを行う必要がある。</p> <p>○持続可能なまちづくりを推進する必要がある。</p>	<p>○総合計画や総合戦略の進行管理、「人口の社会増」に向けた取組み等に関して、各種要望、総合計画推進委員会での調査、検証及び提言や議会の意見等を踏まえ、市民との協働や庁内の連携体制の更なる推進により、一層効果的かつ効率的で質の高い施策展開を図る。</p> <p>○20歳代・30歳代を中心とした子育て世代の増加と社会起業や地域貢献活動等にチャレンジする若者の支援・確保を図る。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 基本計画の策定と進行管理	<p>○引き続き施策評価を実施し、効果的な施策展開を図る必要がある。</p> <p>○人口の社会増・地方創生に向け複数施策が更に連携して取り組む必要がある。</p>	<p>○総合計画・総合戦略の着実な推進に向け、引き続き施策評価を実施するとともに、議会・総合計画推進委員会の意見等を踏まえた施策展開を図る。</p> <p>○人口の社会増・地方創生に係る推進体制を中心として、雲南市総合戦略の事業推進と着実な進行管理に取り組む。</p> <p>○20歳代・30歳代を中心とした子育て世代への施策や、若者等による起業や地域貢献活動等のチャレンジに対する支援など、人口の社会増・地方創生に向け複数施策が連携して取り組む体制の更なる推進を図る。</p>
② 実施計画の策定と進行管理	<p>○計画的に事務事業を実施するための実施計画を策定する必要がある。</p> <p>○行政評価システムを活かした事業企画や政策会議による庁内調整により、事務事業の効果を高める必要がある。</p>	<p>○財政計画と整合を図り、計画的に事務事業を実施するための実施計画を策定する。</p> <p>○総合計画に定めるまちづくりの目標の達成に向けて、施策会議や政策調整のための各種庁議により、事業の進捗管理と事務事業の効果的かつ効率的な改善を図る。</p>

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 30 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	財政課
	施策名		08.財政の健全化	主管課長名
			関係課	政策推進課、人事課、行政改革推進課、管財課、税務課、債権管理対策課、会計課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度(見込)
市の財政	A 歳入額	百万円	見込	31,404	29,120	28,760	29,381	27,601
			実績	33,247	29,848	29,623	30,526	31,703
	B 歳出額	百万円	見込	31,022	29,120	28,760	29,381	27,601
			実績	32,743	29,542	29,209	30,218	31,284
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
健全に運営する。	A 収支不足額(基金繰入額)	百万円	目標	0	0	0	100	100
			実績(見込)	0				
			目標					
		実績	0	0	0	0	0	
	B 実質公債費比率(3年平均)	%	目標	12.5	11.6	11.2	11.1	11.1
			実績(見込)	12.4				
			目標		19.8	19.2	19.0	18.8
		実績	19.5	17.6	16.1	14.6	13.4	
	C 地方債残高(普通会計)、基金残高	百万円	目標	35,136・10,789	34,618・10,759	34,907・10,561	35,937・10,242	34,654・9,949
			実績	34,746・11,107				
			目標		43,425・6,418	41,513・6,656	39,669・6,865	38,303・7,263
		実績	44,284・8,591	40,904・9,263	38,275・10,054	36,473・10,787	35,466・11,123	
	D 歳入経常一般財源総額	百万円	目標	18,985	18,558	18,602	18,179	18,020
			実績(見込)	19,525				
			目標		19,897	19,789	19,743	19,583
	実績	19,971	19,715	19,732	19,995	19,792		
E 市税徴収率	%	目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	
		実績(見込)	98.5					
		目標		98.0	98.0	98.0	98.0	
	実績	97.9	98.0	98.0	98.0	98.3		

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 持続可能な財政運営	市の財政	適切な将来予想のもとに財政計画を立てる。	a) 中期財政計画の達成率 ※[施策成果指標A(収支不足額(基金繰入額))],[施策成果指標B(実質公債費比率(3年平均))],[施策成果指標C(地方債残高(普通会計)、基金残高)]で測定する	項目	実績	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4(見込)
② 積極的な財源確保	予算	財源を確保する。	a) 基金取崩し額	百万円	実績	0	0	0	0	0(見込)
			b) 起債発行額	百万円	実績	2,519	3,299	3,706	4,486	4,432(見込)
③ 効果的な予算執行	予算	効果的に予算執行する。	a) [対象指標B]歳出額	百万円	実績	29,542	29,209	30,218	31,284	31,022(見込)
④ 効率・効果的な財産の管理運用	基金・財産	効率・効果的に財産を管理運用する。	a) [施策成果指標C]基金残高	百万円	実績	9,263	10,054	10,787	11,123	11,107(見込)

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●市の財政運営に関心を持ち、財政状況を理解する。 ●地域やコミュニティでの共助や市民自ら自助による取り組みをすすめる。 ●納税の義務を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中期財政計画に沿って財政運営を行う。 ●国に対し、地方の実情を踏まえ、地方交付税をはじめとする財政措置に十分な配慮を求めていく。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> ○中期財政計画では、歳入歳出規模は減少していく。 ○地方債残高は、中期財政計画に基づき、横ばいとなる。 ○社会保障と税の一体改革に伴う、消費税率の引き上げ(10%)については、H28.6.1に、H29.4月からH31.10月に再延期することが発表された。 ○国・県の厳しい財政状況を踏まえ、市財政への影響を注視する必要がある。 ○地方交付税は、一本算定への移行により減額していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健全財政が求められているが、行政サービスに対する住民ニーズは高い。 ○市議会からは、合併特例債、過疎債など有利な財源を活用するよう求められている。 ○経済対策を引き続き実施し、地域の活性化を求める声がある。

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標Aは横ばい(決算ベースでは、H21年度から基金繰入は行っていない)。 ○成果指標B、C(地方債残高)は向上(市債の新規発行額の圧縮や適切な繰上償還の実施により、改善された。) ○成果指標C(基金残高)は微減(合併特例債を活用した地域振興基金積立はH26年度で終了)。 ○成果指標Dはやや減少(地方交付税は▲2.7%、市税は▲4.0%、地方消費税交付金は+69.7%[+302百万円])。 ○成果指標Eはやや増。</p>	<p>○H27年度決算が未公表のため、H27年度実績の他団体比較はできない。 ≪参考≫ ○H26年度の実質公債費比率は、県内8市中2位(浜田市12.0%に次いで、雲南市が13.4%)。 【出典：島根県(市町村課)】</p>	<p>○成果指標については、目標どおり。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 持続可能な財政運営	・引き続き、財政の健全化が図られた。
② 積極的な財源確保	・合併算定替終了後の交付税算定について、H27.1月に総務省より全体の方向性とH27年度改正内容(消防費等)が示された(全国の削減総額9,500億円のうち6,700億円程度還元見込)。 ・国の経済対策が実施されたが、H28年度への繰越事業となった。(地方創生加速化交付金等合計:107百万円) ・市税徴収率は、高い水準(98.5%)を確保した。
③ 効果的な予算執行	・引き続き行政評価と連動し、施策枠予算に取り組んだ。
④ 効率・効果的な財産の管理運用	・市債の繰上償還を進めた(1,029百万円)。 ・財調、減債基金の取り崩しを行わなかった。 ・遊休資産の売却を行った。 ・統一的な基準による地方公会計の整備に係る固定資産台帳の整備に取り組んだ。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	○地方交付税の一本算定への移行を踏まえ、財政の健全化に留意する必要がある。	○地方交付税の一本算定への移行を踏まえ、引き続き財政の健全化に留意する。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 持続可能な財政運営	○行政評価システムと連携するとともに、適切な財政計画を策定する必要がある。	○行政評価システムと連携するとともに、実施計画の適切な見直しや国が策定する「地方財政計画」「地方交付税の制度改正」を適切に反映させた財政計画を策定する。
② 積極的な財源確保	○市税の確保や起債の有効活用等により、財源の確保に努める必要がある(H28年度に、ふるさと納税[政策選択基金]の充実にに向けた取組みを実施)。	○市税の公平な徴収による高い徴収率の確保、受益者負担の適正化、過疎債・合併特例債の有効活用、市有遊休施設の売却、ふるさと納税[政策選択基金]の推進等により、財源の確保に努める。
③ 効果的な予算執行	○行政評価システムを活用して、効果的な予算配分に努める必要がある。 ○公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施する必要がある。	○行政評価システムを活用した予算配分を行い、補助金・負担金の適正化、特別会計・企業会計への適切な繰出し、人件費の管理等に努める。 ○公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施する。
④ 効率・効果的な財産の管理運用	○基金を安全かつ効率的に運用するとともに、市有遊休施設の売却や貸付を行う必要がある。 ○統一的な基準による地方公会計の整備に係る固定資産台帳の整備と複式簿記の導入を前提とした財務書類の作成準備を行う必要がある。	○引き続き、基金を安全かつ効率的に運用するとともに、市有遊休施設の売却や貸付を行う。 ○統一的な基準による地方公会計の整備を行う。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 24 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	都市計画課
	施策名	09.都市・住まいづくりと土地利用の推進	主管課長名	嘉本 俊一
			関係課	政策推進課、うんなん暮らし推進課、国土調査課、産業施設課、建設総務課、建設工務課、建築住宅課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市内全域	A 市域面積	km	見込	(実績) 553.2	553.2	553.2	553.2	553.2
			実績	553.4	553.4	553.4	553.4	553.2
	B		見込					
	C		実績					
			見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
有効かつ効果的に利用・整備する。	A 中核拠点ゾーンが便利で賑わいがあると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0
			実績	47.8				
			目標		41.0	42.0	44.0	45.0
			実績	40.7	47.0	51.4	49.4	46.8
	B 住んでいる地域が便利で住みよいと感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	63.0	63.0	64.0	64.0	65.0
			実績	56.1				
			目標		61.0	62.0	63.0	63.0
			実績	58.8	57.1	60.1	59.6	56.5
	C 新設住宅建設戸数(全市域対象)	戸	目標	113	117	122	127	132
			実績	61				
			目標					
			実績	104	95	143	163	107
D		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 中核拠点ゾーンの整備促進	中核拠点ゾーン	都市機能拠点を整備する。	a) [施策成果指標A] 中核拠点ゾーンが便利で賑わいがあると感じる市民の割合	%	実績	47.0	51.4	49.4	46.8	47.8
			b) 都市計画道路の改良率	%	実績	65.0	65.7	70.8	72.1	72.8
② 居住環境の整備促進	市内全域	居住環境を整備する。	a) [施策成果指標B] 住んでいる地域が便利で住みよいと感じる市民の割合	%	実績	57.1	60.1	59.6	56.5	56.1
			b) 住宅マスタープラン住宅供給割合	%	実績	69.6	83.8	99.9	110.5	116.3
			c) 住宅地造成面積(造成区画数) ※市及び土地開発公社	区画	実績	H26年度より調査			19	15
			d) 建築確認申請件数	件	実績	164	193	169	114	106
			e) 公園・広場箇所数	箇所	実績	46	46	46	46	47
③ 計画的な土地利用と開発の推進	市内全域	計画的に有効な土地利用を進める。	a) 都市計画法の開発許可件数	件	実績	H26年度より調査			3	3
			b) 公法法の土地買取申出件数	件	実績	4	4	7	5	2
			c) 地籍調査進捗率	%	実績	84.8	85.4	86.3	88.3	89.2

3. 施策の役割分担

① 市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	② 行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ● 法令等を遵守し秩序ある開発と土地の有効利用に努める。 ● 環境にやさしい住宅等の建設と良好な周辺環境の保全に努める。 ● 住宅等を適切に維持管理する。 ● 地籍調査の推進に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市計画マスタープランに基づいた中心市街地形成に取り組む。 ● 住宅マスタープランに基づいた住まい、住宅地づくりと住環境の向上に取り組む。 ● 市営住宅、公園を管理し、計画的な維持修繕・改築に努める。 ● 秩序ある開発のための指導、調整を行い、有効かつ効果的な土地利用を図る。 ● 地籍調査を計画的に実施する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

① 施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	② 関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国では、人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくり(コンパクトシティ+ネットワーク)を推進している。</p> <p>○国道54号拡幅事業や新庄飯田線整備事業が進み、利便性並びに都市機能は向上し、沿線への商業施設や住宅の建設が今後も見込まれる。</p> <p>○市土地開発公社や民間事業者による宅地造成や住宅供給が今後進むと見込まれる。</p>	<p>○中心市街地活性化基本計画の早期認定を望む議会意見がある。</p> <p>○子育て世代から、子どもの遊び場(公園・広場)を望む声がある。</p> <p>○市営住宅の老朽化改善を求める意見が入居者や市議会からある。</p> <p>○大東・三刀屋の地籍調査未完了地域から、所有者の高齢化等により、早急の調査実施を求める要望が出されている。(境界情報が消失する前の早期調査実施要望)</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標Aは、ほぼ横ばい。国道54号三刀屋拡幅事業第3期は完了したものの、新庄飯田線整備が中途段階であることや中心市街地活性化事業が計画段階であることから、十分な整備が出来ていないため、賑わいや利便性の向上につながるまでには至っていないと考えられる。</p> <p>○成果指標Bは、ほぼ横ばい。地域別で見ると、H26年度と比較して地域間格差がほぼ見られなくなっており、道路整備などが影響していると考えられる。</p> <p>○成果指標A、Bに共通して、地域別で見ると、大東・吉田・掛合地域の方の割合が比較的向上していることから、生活環境の整備が影響していると考えられる。</p> <p>○成果指標C (新設住宅建設戸数)は、H26.4月の消費税率引き上げ前の需要が高く、実績値が高かったこともあり、H26、H27と2年続けて大幅に減少した。特にH27は賃貸住宅の建築戸数が激減したことが要因として考えられる。</p>	<p>○都市計画道路の改良率は、72.8%で県平均75.8%を下回る。 【出典：島根の都市計画(都市計画課)】 ○新設住宅建設戸数の平成26年度からの増減率は▲43.0%で県内8市中では7番目と低かった。(浜田62.6%、松江市16.9%、出雲市5.9%、江津市▲14.1%、安来市▲20.6%、大田市▲27.7%、益田市▲54.6%) 【出典：島根県内新設住宅着工戸数(平成28年度集計：建築住宅課)】 ○地籍調査の進捗率は89.2%で、国県平均に比べてかなり高い。(H27.4月時点で国：51%、県49%) 【出典：国土交通省地籍調査Webサイト、島根県の地籍調査実施状況(用地対策課)】</p>	<p>○成果指標A、Bは、ほぼ横ばいながら、目標値を下回った。 ○成果指標Cは、目標値を大きく下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 中核拠点ゾーンの整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ・丸子山周辺土地区画整理及び周辺整備については、H29年度の完了に向けて、着実に事業を進めている。 ・中心市街地活性化基本計画の策定に着手し、民間商業者を含め、関係者との議論が深まっている(H28年度中に計画認定を目指している。) ・市役所新庁舎周辺の基盤整備については、着実に事業を進め、H27年度内で完了した。
② 居住環境の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ・H28～37年度までを計画期間とする住宅マスタープランの策定に取り組んだ。 ・市営住宅では、三日月団地を新規4戸建設し、大多和団地のストック改善を実施した。 ・住宅地については、都市計画区域内に金丸(第2期：15区画)の造成が完了した。 ・都市公園については、加茂中央公園野球場の改修を実施した。また、加茂中央公園を総合公園化した。 ・子育て世帯定住地購入支援事業・子育て世帯定住地貸付事業に着手し、子育て世帯の定住支援を図った。
③ 計画的な土地利用と開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地籍調査事業を計画的に実施し、大東町小河内3工区、南村2工区、三刀屋町根波別所2工区、里坊2工区の現地調査を完了した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○地域特性を活かし、雲南らしさを保ちつつ都市機能の充実と効果的な土地利用を促進する必要がある。 ○人口の社会増を目指し、良質かつ取得しやすい住宅地の供給に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中核拠点ゾーンを中心に地域特性を活かし、雲南らしさを保ちつつ都市機能の充実と効果的な土地利用を促進する。 ○人口の社会増を目指し、特に若者、子育て世代、UIターン者のための良質かつ取得しやすい住宅地の供給に取り組む。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 中核拠点ゾーンの整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ○都市機能の充実と暮らしやすさの向上を図る必要がある。 ○中心市街地の賑わいの創出を図る必要がある(H28年度中に、中心市街地活性化基本計画の認定を得る)。 ○(都)新庄飯田線街路整備事業の整備促進及び丸子山周辺土地区画整理事業の着実な推進を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○都市機能の充実と暮らしやすさの向上を図る。 ○認定中心市街地活性化基本計画に基づき、中心市街地の賑わいの創出に向けて事業着手する。 ○H29年度の完了をめざし、(都)新庄飯田線街路整備事業の整備促進及び丸子山周辺土地区画整理事業を進める。
② 居住環境の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅地の整備・供給を図る必要がある(H28年度中に、上給下住宅団地・そら山住宅団地(第3期)・加茂中住宅団地の造成に着手)。 ○優良な住宅の普及と住環境向上の促進を図る必要がある。 ○市営住宅の建替え・修繕に取り組む必要がある(H28年度は、三日月団地の建設、宇治団地のストック改善などを実施)。 ○都市公園等を計画的に整備し、適正な管理を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安価で利便性が高い住宅地の整備・供給を図る。 ○引き続き優良な住宅の普及と住環境向上の促進を図る。 ○市営住宅のストック改善を計画的に実施する。 ○引き続き都市公園等の計画的な整備に努め、適正な管理を図る。
③ 計画的な土地利用と開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○法令等に基づき、秩序ある土地利用と開発を促進する必要がある。 ○地籍調査が早期に完了するよう着実に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○法令等に基づき、秩序ある土地利用と開発の促進に努める。 ○引き続き地籍調査を実施し、大東町塩田1工区・篠淵2工区、三刀屋町根波別所3工区・乙加宮4工区の現地調査完了に向けて取り組む。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 24 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	II 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	環境政策課
	施策名	10.自然と地域環境の保全	主管課長名	板垣 旭
			関係課	うんなん暮らし推進課,農林振興課,農林土木課,商工観光課,都市計画課,建築住宅課,下水道課,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市民	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
				実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込						
				実績					
	C		見込						
				実績					
②意図(どのような状態にするのか) 自然環境・景観を守る意識を高め、地球環境に配慮した生活をおくるとともに創造する。	A 自然環境が守られていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	
				実績	60.4				
				目標	64.0	66.0	68.0	70.0	
				実績	73.0	75.3	72.3	72.4	73.5
	B 自然環境・景観の保全のために何らかの取り組みをしている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	53.0	54.0	55.0	56.0	57.0	
				実績	66.4				
				目標	62.0	63.0	64.0	65.0	
				実績	57.3	51.2	51.9	51.2	49.7
	C 市民1人1日あたりのごみ排出量	g/人・日	目標	670	660	646	646	646	
				実績	704(見込)				
				目標	590	580	570	560	
				実績	571	657	700	681	690
	D ごみの資源化率(RDF方式による固形燃料分を含む)	%	目標	54.0	55.0	56.0	56.0	56.0	
				実績	53.3(見込)				
				目標	54.0	54.0	55.0	55.0	
				実績	53.9	55.2	53.3	51.9	53.2
	E		目標						
				実績					
			目標						
				実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 廃棄物(ごみ)の減量と適正処理の推進	市民	ごみを減量するとともに適正に処理する。	a) [施策成果指標C]市民1人1日あたりのごみ排出量	g/人・日	実績	657	700	681	690	704(見込)
			b) [施策成果指標D]ごみの資源化率(RDF方式による固形燃料分を含む)	%	実績	55.2	53.3	51.9	53.2	53.3(見込)
② 温室効果ガス削減の推進	市民	温室効果ガスの排出量を削減する。	a) 電力会社への売電量(太陽光)、参考指標:温室効果ガス排出量(県数値)	kwh kwh	実績	5,588,000	6,544,000	6,528,000	4,106,303	6,745,648
③ 自然環境と景観の創造	市民	自然環境と景観を守り創造する。	a) [施策成果指標B]自然環境・景観の保全のために何らかの取り組みをしている市民の割合	%	実績	51.2	51.9	51.2	49.7	66.4

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自動でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境・景観の保全に対して関心をもち、意識を高める。 ●日常生活の中で環境保全や省エネルギー化に努める。 ●3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進やマイバック運動等により、ごみ排出量の縮減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民、事業者への意識啓発を行うとともに、環境保全に関する活動団体の取り組みを支援する。 ●再生可能エネルギーの利活用を促進する。 ●3Rを啓発・推進し、廃棄物の再資源化及び縮減を促進する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○少子高齢化等により、防災・景観などに悪影響を及ぼす空き家・遊休農地の増加が予測される。</p> <p>○空き家の所有者等に対し、市町村権限で除却や修繕命令を可能にする法律(空き家等対策の推進に関する特別措置法)が施行された(H27.5.26に全面施行)。</p> <p>○ごみ総排出量は、人口減少等により減少することが予測される。また、H33年度末をもって、出雲エネルギーセンター(現在、吉田町・掛合町の可燃ごみを処理委託)は受入を停止する。</p> <p>○2020年のCO2排出量25%削減(1990年対比)を盛り込んだ地球温暖化対策基本法案が閣議決定されていたが、エネルギー政策の見直しが進み、H27.6月に新たな2030年目標として2013年度比26%減が示された。</p>	<p>○再生可能エネルギー(太陽光・バイオマス燃料等)の活用を望む意見がある。</p> <p>○倒壊等により、他者に対し被害を与える恐れのある個人所有の空き家への対策が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○H26年度と比べ、成果指標Aは13.1%低下したが、逆に成果指標Bは16.7%向上した。これまで地域で守られてきた自然環境が、年々荒廃しつつある現状を危惧する一方で、引き続き保全に向けての取り組み(美化活動、ごみ拾い、草刈り等)の必要性を感じ、実践される人々の増加の結果と推測される。</p> <p>○成果指標Cは微増している。一部、都市化傾向にある地域に新規参入した、商店等による包装された食品などの購入の増加が要因として考えられる。これは、成果指標D(ごみの資源化率)のRDF方式による固形燃料の実績値が上昇していることから推察される。</p>	<p>○市民1人あたりのごみ排出量(H26確定値)は、県平均960gに比べかなり少ない(美郷町595g、知夫村655g、邑南町660gに次ぎ、雲南市691gで県内4位)。</p> <p>○ごみ資源化率(H26確定値)は、県平均24.1%の中で、雲南市54.3%は群を抜いている(2位:美郷町39.3%、3位:川本町37.8%)。ごみ固形化燃料(RDF)への再資源化が大きく寄与している。</p> <p>【出典:平成27年度一般廃棄物処理事業実態調査(平成26年度実績)】</p> <p>○平成25年度実績におけるごみ資源化率(リサイクル率)は、全国1,713市区町村中68位</p> <p>【出典:総務省市町村データ(政府統計の総合窓口)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を下回った。</p> <p>○成果指標Bは、目標値を上回った。</p> <p>○成果指標C(市民1人1日あたりのごみ排出量)、D(ごみの資源化率)は家庭ごみの排出量が多く、目標値を下回ったものの、依然として高い水準である。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 廃棄物(ごみ)の減量と適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別方法啓発の取組を雲南市・飯南町事務組合により積極的に行った。 ・レジ袋有料化により、買い物時のマイバッグの持参が定着しつつある。 ・ごみ集積施設整備費に係る補助金制度を活用し、年間12件の申請があった。
② 温室効果ガス削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電機器導入の際の補助制度を継続実施した。 ・再生可能エネルギー発電設備の設置について、無利子貸付制度により、市内の地縁団体に貸付けを行った(H27年度:幡屋地区振興会)。
③ 自然環境と景観の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市の「花」である桜の継続的な維持管理により、景観づくりの一翼を担っている。 ・尾原ダム周辺では、桜の植樹や景観作物の栽培などの景観保全活動のほか、企業CSR活動による環境美化活動に取り組んだ。 ・環境美化活動重点期間(6~7月)を中心に、市内各地で清掃活動や環境美化活動の推進が図られた。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○次期(H30~39年度)環境基本計画を策定する必要がある。 ○桜・街並み・農村風景などを保全していく必要がある。 ○温室効果ガスの削減に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次期(H30~39年度)環境基本計画を策定する。 ○自然環境保全に対する意識を高め、桜・街並み・農村風景などを守り、創造していく。 ○再生可能エネルギーの導入を促進し、温室効果ガスの削減に取り組む。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 廃棄物(ごみ)の減量と適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみの減量化やごみ分別の徹底を促進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進、減量化の促進、ごみ分別の徹底及びマイバック運動の推進を行う。
② 温室効果ガス削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギーの有効活用に向けた取組を推進する必要がある。 ○省エネルギーを推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギーの有効活用に向け、太陽光発電機器、木質チップボイラー等の導入を促進する。 ○クールビズ・エコ通勤の推奨、省エネ機器の導入などに取り組む、省エネルギーを推進する。
③ 自然環境と景観の創造	<ul style="list-style-type: none"> ○保全活動を実践する必要がある。 ○「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき、空き家対策を進める必要がある(H28年度中に、空き家対策に関する基本計画を策定)。 ○不法投棄防止対策を講じる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域、事業所及び学校で一人ひとりが意識を高め、保全活動を実践する。 ○空き家対策に関する基本計画の方針に基づき、対策の検討を進める。 ○パトロールや市民活動により不法投棄防止対策を実践する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 14 日
更新日 平成 28 年 9 月 1 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	情報政策課
	施策名		11.地域情報化の推進	関係課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
	C		実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
高度情報通信環境を利活用する。	A 日頃インターネットを利用している市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	41.0	42.0	43.0	44.0	45.0
			実績	44.6				
	B		目標		38.0	38.0	39.0	40.0
			実績	36.9	34.6	37.3	38.3	37.5
	C		目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 情報通信環境の整備促進	市民	情報通信環境を確保する。	a)雲南夢ネットインターネット加入世帯(契約数)	世帯	実績	4,826	4,773	4,228	3,801	3,635
			b)雲南夢ネットケーブルテレビ加入率	%	実績	89.8	88.8	87.9	87.5	86.8
			c)携帯電話不感地世帯数	世帯	実績	60	5	5	14	15
② 情報通信技術の向上	高度情報通信技術を持たない市民	情報通信技術を習得する。	a)[施策成果指標A]日頃インターネットを利用している市民の割合	%	実績	34.6	37.3	38.3	37.5	44.6
			b)IT講習受講者数	人	実績	346	297	271	263	215

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
●ICTリテラシー(情報活用能力)の向上に努める。	●情報通信環境(CATV及び告知放送、インターネット環境)を整備する。 ●市民のICTリテラシー(情報活用能力)が向上するよう支援する。 ●民間事業者に対し、市内への情報通信事業の参入を働きかける。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
○人口は減少し、少子高齢化が進行するものの、情報通信環境を活用する人は増加していく。 ○情報通信環境における技術革新は日進月歩である。 ○民間事業者の参入により、高速インターネットの普及が進みつつある。 ○全国的に携帯電話の不感地域は解消されていく傾向にある。 ○国の国土強靱化政策には、情報通信網の複線化による安定的な情報伝達なども含まれている。 ○日本全国の小中学校・高校などへ、ICT教育が広がっている。	○携帯電話不感地域の解消に対する問い合わせがある。(エリア整備は完了したが、1～2件程度の小集団の不感エリアが若干存在し、そういったエリアへの対応が課題である。) ○観光地や公共施設での携帯不感地の解消やWi-Fi環境の整備を求める意見もある。

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 成果がかなり向上した。 □ 成果がどちらかと言えば向上した。 □ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) □ 成果がどちらかと言えば低下した。 □ 成果がかなり低下した。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 □ 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 ■ 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 □ 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 □ 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目標値より高い実績値だった。 □ 目標値どおりの実績値だった。 □ 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○インターネット利用率は、H26年度37.5%に対し、H27年度44.6%と大幅に向上した。H27年度実績を年代別に見ると、20代で92.3%、30代で80.3%、40代で74.2%と、高い傾向にある。これは、民間事業者の参入により、大東・加茂・木次・三刀屋地域におけるインターネットの高速化が進んだことや、SNSの普及に伴いスマートフォン・タブレットを含めた端末利用が増える傾向にあることも要因として考えられる。</p>	<p>○民間事業者によるインターネットの光通信サービスは、市内中心部で整備が進んでいる。なお、回線容量は劣るもののケーブルテレビ網は市内全域を網羅している。</p> <p>○携帯電話不感地域は、雲南市では緊急経済対策でその解消に積極的に取り組んだ結果、エリア的にはほぼ解消されたが、依然市内で不感地点が存在している。</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 情報通信環境の整備促進	・市の情報化の方向性を明確に示すことを目的とした雲南市情報化計画を策定した。
② 情報通信技術の向上	・市民の情報活用能力の向上を図る目的で、IT講習(初心者向けパソコン講習)を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○情報通信基盤の整備を推進する必要がある。 ○市民の情報通信機器の利活用能力の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民間事業者と連携しつつ、情報通信基盤の整備を推進する。 ○市民の情報通信機器の利活用能力の向上を図る。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 情報通信環境の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ○民間事業者の参入要請など連携するとともに、必要な基盤整備を推進する必要がある。 ○CATV伝送路の老朽化が進んでおり、今後の対応策の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○携帯電話不感地解消に対する民間事業者への要望活動を行っていく。 ○Wi-Fiスポット設置に向け、取組みを進めていく。 ○CATV伝送路の老朽化への対応の検討に併せ、インターネットの高速化へ向けた検討を行う。
② 情報通信技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の情報通信機器の利活用能力の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パソコン講習、facebook(フェイスブック)講習など、市民の情報通信機器の利活用能力の向上を図るための取組みを行う。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 29 日
 更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	建設工務課
	施策名	12.生活道路の整備	主管課長名	西川 徹
			関係課	建設総務課・都市計画課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
A) 市民(道路利用者) B) 生活道路(市道)	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B 市道路線数	路線	見込	2,315	2,310	2,310	2,310	2,310
			実績	2,250	2,280	2,275	2,302	2,306
	C 市道路線延長	km	見込	1,163	1,160	1,161	1,162	1,163
			実績	1,155	1,155	1,151	1,157	1,158
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
市内を安全に移動できる。	A 市道改良率(1車線改良を含む)	%	目標	57.2	57.3	57.4	57.5	57.6
			実績	57.0				
			目標		56.0	56.2	56.4	56.5
	B 市道の歩道整備率	%	目標	4.5	4.5	4.6	4.6	4.7
			実績	4.4				
			目標		3.7	3.8	3.9	4.0
	C 生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	72.0	71.5	71.0	70.5	70.0
			実績	71.0				
			目標		73.7	73.5	73.3	73.0
	D 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	58.5	59.0	59.0	59.5	60.0
			実績	60.0				
			目標		59.3	59.5	59.7	60.0
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 生活道路の新設・改良	道路利用者	安全に移動できるように道路を新設・改良する。	a) 歩行スペース確保延長	km	実績	-	-	-	-	0.6
② 生活道路の維持管理	道路利用者	安全に移動できるように道路を維持管理し、情報を発信する。	a) [施策成果指標C]生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	実績	70.8	72.5	72.9	70.8	71.0

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●道路の危険箇所を発見した場合は、市に情報提供を行う。 ●整備事業が円滑に推進するように協力体制を整える。 ●道路愛護活動への参加など、地域での積極的な維持管理に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備計画に基づき計画的な道路整備を行う。 ●道路整備にあたっては、住民理解を得ながら実施する。 ●道路維持管理計画に基づき適切な道路維持管理を行う。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○H31年には、高度経済成長期に設置した道路構造物の多くが、整備から約50年を経過する。</p> <p>○道路法等の改正により、H26.7月から橋梁・トンネル等は、5年に1回の点検が義務付けられた。</p> <p>○人口減少・高齢化の進行により、地域住民による道路愛護活動が困難になることも予測され、道路環境の悪化が懸念される。</p> <p>○高速道路の延伸等による入込客増加により、市道利用者の増加も予測される。</p>	<p>○道路改良に関する陳情・要望が多数ある。(行止り道路の解消、視距の確保、道路拡幅、歩道整備など)</p> <p>○道路維持・修繕に関する要望等が多数ある。(舗装・側溝修繕、除草・防草・樹木伐採、法面对策、除雪など)</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。

* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)

<p>○成果指標A(市道改良率)は、整備計画に基づき着実に実施しており、新たな路線の整備に着手したことにより、昨年度よりやや向上した。</p> <p>○成果指標B(市道の歩道整備率)は、横ばい。一方、維持管理計画(H24年度策定)に基づいて着実に実施しており、H27年度には社会資本整備交付金を活用して、効率的な整備(歩行スペースの確保)を行った。</p> <p>○成果指標C、Dについては、ほぼ横ばい。整備計画及び維持管理計画に基づく着実な事業実施により、市民の満足度は一定の水準を確保していると考えられる。</p>	<p>○H27.4月現在の市道改良率は、出雲市58.6%、雲南市56.8%、益田市55.8%、松江市54.9%、安来市53.3%、津江市50.6%、浜田市49.6%、大田市48.0%、県平均54.4%であり、8市の中では2番目に高く、県平均を2.4ポイント上回る。また、2車線改良率は、雲南市14.0%であり、8市の中では松江市、出雲市に次いで3番目に高く、県平均を0.6ポイント上回る。</p> <p>【出典:道路等の現況調査(市町村別道路現況)[島根県]</p>	<p>○成果指標A、Bについては、やや目標値に及ばないものの、ほぼ目標どおり。</p> <p>○成果指標C、Dについては、目標値を上回った。</p>
---	---	--

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 生活道路の新設・改良	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市道路整備計画に基づき、新規に市道深野線、阿用停車場線、前原十日市線、猪尾線、新市里方線、宇治三代線、平田上山線の改良に着手した。 ・市道免別線、下り支線、松笠下組線、里方中央線の改良が完了し、供用開始を行った。
② 生活道路の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・道路施設の維持管理計画(H24年度策定)に基づき、計画的に維持・修繕を実施した。 ・道路法等の改正により、H26.7月から橋梁・トンネル等は、5年に1回の点検が義務付けられたことにより、橋梁点検を計画的に実施し、H27年度は201橋の点検を行った。 ・中国横断自動車道尾道松江線案内誘導協議会で調整した計画に基づき、高速道路から主要道路の間に雲南市内の観光地への誘導を中心に道路案内標識を設置した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な道路網の整備を推進する必要がある。 ○道路施設の適切な維持・修繕及び長寿命化に取り組む必要がある。 ○冬期間の通行安全性の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南市道路整備計画に基づき、道路網の整備を推進する。 ○引き続き、道路施設の適切な維持・修繕及び長寿命化に取り組む。 ○除雪体制の確保に努め、冬期間の通行安全性の向上を図る。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 生活道路の新設・改良	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な新設・改良整備を行う必要がある(H28年度は、市道森の上線、穴見大呂線、駅前副堤線、寺領西阿用線、下熊谷4号線に着手)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元要望を把握しながら、道路整備計画に基づき、計画的な新設・改良整備を行う。
② 生活道路の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的かつ適切な維持・修繕及び長寿命化に取り組む必要がある(H28年度は、300橋の橋梁点検を実施)。 ○地域住民の協力を得ながら道路愛護活動を行う必要がある。 ○計画的に道路案内標識を設置する必要がある。 ○様々な情報媒体を活用し、道路情報を発信する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道路維持管理計画等に基づき、計画的かつ適切な維持・修繕及び長寿命化に取り組む。 ○引き続き、地域住民の協力を得ながら道路愛護活動を行う。 ○必要に応じ、道路案内標識の設置に取り組む。 ○市ホームページ、CATV文字放送、インターネットなどを活用し、道路情報を発信する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 29 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	都市計画課
	施策名	13.広域幹線道路の整備	主管課長名	嘉本 俊一
			関係課	建設総務課、建設工務課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
道路(国道・県道、高速道路)利用者	A 県道利用者数	台/日	見込	62,185 (H22)	62,100	62,100	62,100	62,100
			実績	62,185	62,185 (H22)	62,185 (H22)	62,185 (H22)	62,185 (H22)
	B 国道利用者数	台/日	見込	19,909 (H22)	19,900	19,900	19,900	19,900
			実績	19,909	19,909 (H22)	19,909 (H22)	19,909 (H22)	19,909 (H22)
	C 高速道路利用者数	台/日	見込	5,522	5,500	5,500	5,500	5,500
			実績	5,502	3,355	2,839	5,258	4,880
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
雲南市と他都市及び市内を安全で便利に移動できる。	A 主要地方道改良率	%	目標	84.5	84.7	85.0	85.2	85.5
			実績	84.3				
			目標		76.0	76.5	77.0	77.5
		実績	79.8	80.2	81.9	82.7	84.3	
	B 一般県道改良率	%	目標	62.0	62.7	63.5	64.2	65.0
			実績	62.2				
			目標		57.0	57.2	57.3	57.5
		実績	57.7	58.8	60.1	61.1	61.5	
	C 国道54号三刀屋拡幅整備率(三刀屋中前交差点～里方交差点)	%	目標	41.5	41.5	41.5	41.5	53.7
			実績	41.5				
			目標		29.3	29.3	29.3	41.5
		実績	29.3	29.3	29.3	29.3	29.3	
	D 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合<市民アンケート調査項目>	%	目標	58.5	59.0	59.0	59.5	60.0
			実績	60.0				
			目標		59.3	59.5	59.7	60.0
	実績	57.1	55.7	56.9	55.4	58.0		
E								
			目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 国道・高速道路の整備促進	道路利用者	安全で便利に国道・高速道路を利用する。	a) [施策成果指標C] 国道54号三刀屋拡幅整備率(三刀屋中前交差点～里方交差点)	%	実績	29.3	29.3	29.3	29.3	41.5
② 県道の整備促進	道路利用者	安全で便利に県道を利用する。	a) [施策成果指標A] 主要地方道改良率	%	実績	80.2	81.9	82.7	84.3	84.3
			b) [施策成果指標B] 一般県道改良率、[施策成果指標D] 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	実績	58.8・55.7	60.1・56.9	61.1・55.4	61.5・58.0	62.2・60.0

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●道路の危険箇所を発見した場合は、道路管理者に情報提供を行う。 ●整備事業が円滑に推進するように協力体制を整える。 ●道路愛護活動など、地域で維持管理に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国・県は、住民理解を得ながら事業を実施する。 ●市は、国・県及び地域との連絡・調整を図り、事業促進に努める。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○中国横断自動車道尾道松江線がH26年度末に全線開通し、対前年度比の交通量は平日1.2倍、休日1.3倍と増加している。また、山陰道の整備が進んでいる。</p> <p>○高速道路の延伸等による入込客増加によっては、国・県道利用者の増加も予測される。</p> <p>○関係団体とともに高速道路及び国道54号等の利活用と沿線の活性化対策に取り組んでいる。</p> <p>○道路法等の改正により、H26.7月から橋梁・トンネル等は、5年に1回の点検が義務付けられた。</p> <p>○人口減少・高齢化の進行により、地域住民による道路愛護活動が困難になることも予測され、道路環境の悪化が懸念される。</p>	<p>○県道改良(一)木次直江停車場線・(主)玉湯吾妻山線・(主)安来木次線等)については、多くの要望がある。</p> <p>○国道54号、(主)松江木次線等の国・県道について、引き続き維持対策が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標Aは、供用開始無しのため、横ばい。</p> <p>○成果指標Bは、一部供用開始により、やや向上。</p> <p>○成果指標Cは、H27年度末に国道54号三刀屋拡幅第3期が完了したことにより、整備率が12.2ポイント向上するなど、着実な整備推進が図られ、成果が表れている。</p> <p>○成果指標Dは、ほぼ横ばい。着実な事業の推進により、市民の満足度は一定の水準を確保していると考えられる。</p> <p>○関連して、H27年の観光入込客数は、対前年比7.7%・10.6万人の増加が見られるなど、高速道路の整備効果が顕著に表れている。</p>	<p>○H27.4月現在の主要地方道改良率は、8市の内4番目、県平均を1.4ポイント下回る(大田95.2、(単位: %、以下同)、松江91.9、浜田87.6、雲南84.3、安来84.1、出雲83.0、益田64.4、江津63.6、県平均85.7)。同じく一般県道は、8市の内4番目、県平均を0.3ポイント上回る(松江77.9、出雲73.7、安来66.9、雲南62.2、県西部では60未満、県平均61.9)。</p> <p>○県道改良率は県内平均及び他市と比較し、ほぼ同水準であるが、本市管内の高速道路が全線供用開始されている状況を加味し、広域幹線道路全般としては、やや高い水準と判断する。</p> <p>【出典:道路等の現況調査(市町村別道路現況)[島根県]】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値をやや下回った。</p> <p>○成果指標Bは、目標値を上回った。</p> <p>○成果指標Cは、目標どおり。</p> <p>○成果指標Dは、目標値を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 国道・高速道路の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ・国道54号三刀屋拡幅事業については、第3期がH27年度末に完了した。 ・スマートIC準備段階調査箇所、加茂バスストップが選定されたことを受け、整備計画策定に着手した。 ・国(国土交通省)による雲南吉田チェーンベースのトイレ整備に併せ、トイレから道の駅「たたらば壱番地」への通路屋根の整備を行った。 ・やまなみ街道サイクリングロードの整備計画に基づき、案内表示等の整備を行った。
② 県道の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ・主要地方道については、事業促進に向け県、地元との調整を行った。 ・関係市町と期成同盟会による県道の改良促進に向けた要望活動に取り組んでいる。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○国・県道及び高速道路の整備・維持管理による利便性、安全性に優れた質の高い広域幹線道路を確保する必要がある。</p>	<p>○国・県道及び高速道路の整備・維持管理による利便性、安全性に優れた質の高い広域幹線道路の確保に取り組む。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 国道・高速道路の整備促進	<p>○国道54号三刀屋拡幅事業の着実な推進を図る必要がある(H28年度に、第4期の事業に着手)。</p> <p>○道路施設の適正な維持管理と交通安全対策の促進について、関係機関と連携していく必要がある。</p> <p>○神原企業団地を含めた周辺エリアの広域ネットワークへのアクセス向上を図る必要がある(H28年度は、整備計画を策定)。</p>	<p>○国道54号三刀屋拡幅事業第4期の地元調整により、事業推進を図る。</p> <p>○道路施設の適正な維持管理と交通安全対策の促進について、引き続き関係機関と連携し、国等へ要望していく。</p> <p>○神原企業団地整備に併せて団地へのアクセス向上を図ったスマートICの整備に取り組む。</p>
② 県道の整備促進	<p>○積極的な期成同盟会の活動や取付市道などの関連整備の実施により、事業を推進する必要がある。</p> <p>○道路施設の適正な維持管理と交通安全対策の促進について、県と連携していく必要がある。</p>	<p>○期成同盟会を中心とした協力団体との連携と地元調整により、道路施設の改良及び適正な維持管理、交通安全対策を推進していく。</p>

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 14 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	地域振興課
	施策名	14.公共交通ネットワークの充実	主管課長名	西村 健一
			関係課	長寿障がい福祉課,教育総務課,自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
公共交通機関利用者	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
			実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市内及び市外に向けて安全・便利に移動できる。	A 市内の公共交通サービス機関(バス・JR・だんだんタクシー・デマンド型乗合バス)に満足している市民の割合	%	目標	43.0	43.0	44.0	44.0	45.0
			実績	45.3				
	目標		38.0	40.0	40.0	40.0		
	実績	39.8	37.5	37.9	36.7	42.2		
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
			実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 公共交通体系の確保	公共交通機関利用者	利便性の高い公共交通機関を利用する。	a) 市民バス利用者数(だんだんタクシー含む)	人	実績	246,994	227,676	217,930	189,705	183,731
			b) 民間路線バス利用者数(大東線・根波線・三刀屋出雲線)	人	実績	92,079	90,927	99,255	112,229	92,107
			c) JR木次線利用者数(1日平均乗車人員)	人	実績	804	779	851	716	713
② 多様な交通サービスの提供	公共交通機関利用者	利用者に配慮された多様な交通サービスを利用する。	a) だんだんタクシー・デマンド型乗合バス利用対象地域(本格運行エリア)の世帯数	世帯	実績	H26年度より調査			1,432	7,609
			b) 優待回数券販売額(数)	円(枚)	実績	—	—	1,108,800(790)	6,766,800(6,831)	9,241,800(9,528)
			c) 福祉タクシーチケット使用枚数	枚	実績	—	—	5,344	5,091	3,939
			d) 観光タクシー利用者数	件・人	実績	—	—	1・2	10・34	7・22

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通機関を積極的に利用する。 ●駅舎及びバス停の美化に努める。 ●事業者は、利用者の安全・安心を第一に、高齢者や障がい者にも配慮した運行を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者、障がい者、児童・生徒等の交通手段を確保する。 ●関係事業者と連携し、利用者の利便性の向上を図る。 ●運行形態の見直しなどにより、効率的な運行を図る。 ●ノーマイカーデーの推進などを通じ、公共交通機関の利用促進を図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○高齢化の進展や自動車運転免許自主返納などにより公共交通への依存度はより進むと予測される。</p> <p>○学校の統廃合により、スクールバスの路線数増加が予測される。</p> <p>○国の事業者への補助金制度の見直しにより、路線存続のためには市の更なる支援が必要となることが予測される。</p> <p>○法令改正により、従来の運送会社以外にも運送権限が拡大される方向にある</p>	<p>○議会から、市民バスの乗車率の向上、再編計画(デマンド化等)の早期実行など、効率的な運行を求める意見がある。</p> <p>○バス車両のバリアフリー化(低床化、電光掲示板、車内放送など)が求められている。</p> <p>○JR木次線の運行存続に向けた対策を求める意見がある。</p> <p>○市民バスの時刻表をネット検索できるようなシステム構築を求める意見がある。</p> <p>○高校魅力化に向けた取組みの一環で、通学に係る支援を求める意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標Aは、H26年度と比較し3.1ポイント向上した。雲南市民バス再編計画に基づき、運行ダイヤの見直し、デマンド型乗合タクシーの導入など、より利用しやすい生活交通に向けて改善を図ってきた成果が表れてきたと考えられる。</p>	<p>○自家用有償運送による市民バス運行、デマンド型運行、交通空白地有償運送及び福祉有償運送など、多様なバス交通を提供している。 ○H26年度からは優待回数乗車券制度拡充により、市民バス利用者の負担軽減を図っている。 ○上記2点と成果指標Aの目標達成状況から、他の自治体と比較し水準が高いと判断される。 【出典：島根県公共交通現況調査報告書(H27.3月)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値(43.0%)を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 公共交通体系の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス再編計画や市役所新庁舎移転に伴うダイヤ改正を行い、市民の利便性の向上につなげた。 ・市民バス3台を老朽化に伴い更新した。 ・利用者数を考慮し、車両更新時に計画的に小型化を図った。 ・高校魅力化の一環として市民バスの増便及びダイヤの改正について検討した(H28.4月から実施)。
② 多様な交通サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス優待回数券補助制度を継続し、バス利用者の軽減を図った。 ・デマンドタクシーの本格運行を、H27.4月から3地区(春殖幡屋、阿用久野、飯石中野地区)で開始した。 ・新たに3地区(佐世線、塩田線、高窪・伊萱線)で実証運行を行い、佐世線と高窪・伊萱線ではH27.10月から本格運行を開始した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な交通手段の提供により、利用者の利便性を確保する必要がある。 ○公共交通機関の利用促進を行うとともに、交通空白地域の解消を図る必要がある。 ○市民バス再編計画に基づき運行内容を改善する。 	<p>○新たな市民バス総合計画の策定に向け、今後の交通体系整備についての調査・検討を進める。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 公共交通体系の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者数の減少や利用者ニーズの変化に応じた持続可能なサービスの提供を行う必要がある。 ○バス車両の更新にあたっては、利用実態に合った小型化とリアフリー化について検討していく必要がある。 ○他自治体と連携した民間事業者によるバス運行の相互乗り入れ、JR木次線などの利用促進を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内公共交通ネットワークの利便性を高めるため、他の公共交通機関との接続を考慮し市民バスダイヤの見直しを行う。 ○老朽化したバス車両の更新にあわせ、車両の小型化を図る。
② 多様な交通サービスの提供	<p>○だんだんタクシー・デマンド型乗合バスのエリア拡大、交通空白地有償運送、福祉有償運送、自治会等のボランティア運送などを支援などにより、利用者の利便性を高めるとともに、交通空白地域の解消を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者ニーズに合った運行内容の整備を行う。 ○市民バス再編計画に基づき、木次地区だんだんタクシーの本格運行に取り組む。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 29 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	工務課
	施策名	15.上水道の整備	主管課長名	飯島 昭
			関係課	環境政策課,水道局総務課,営業課,下水道課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
	C		実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
目的 安全・安心で安定した水道の供給を受ける。	A 水道普及率	%	目標	95.0	95.4	95.8	96.2	96.6
			実績	94.1				
			見込		93.8	93.9	94.0	94.1
	B 有収率	%	目標	89.4	89.5	89.6	89.7	89.8
			実績	89.0				
			見込		87.1	86.9	89.7	89.2
	C		目標					
			実績					
			見込					
	D		目標					
			実績					
			見込					
	E		目標					
			実績					
			見込					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 水道施設の整備	給水区域外の市民	水道が供給できるように整備する。	a) [施策成果指標A]水道普及率	%	実績	94.2	94.9	94.9	94.2	94.1
② 水道施設の維持管理	給水区域内の市民	安全・安心で安定した水道が供給できるように維持管理する。	a) [施策成果指標B]有収率	%	実績	86.9	89.7	89.2	89.2	89.0
③ 水道経営の安定化	給水区域内の市民	健全な水道事業経営により、安定した水道供給を行う。	a) [施策成果指標A]水道普及率	%	実績	94.2	94.9	94.9	94.2	94.1
			b) 収納率(上水道/現年分)	%	実績	99.0	98.8	99.1	99.2	99.1
			c) 収納率(簡易水道/現年分)	%	実績	99.0	98.9	99.2	99.5	99.5

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●上水道整備の必要性を認識し、加入・接続する。 ●給水装置の適正な維持管理に努める。 ●水道料金や施設整備に必要な負担金は、期限内に納入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水道事業総合整備計画に基づき、未普及地区の解消や老朽管等の更新等を計画的に実施する。 ●水道施設の適正利用に関する啓発活動を行う。 ●経営の効率化と経費縮減に取り組み、適正な料金水準を設定するとともに有収率の向上と未納対策に努める。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(~H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○人口の減少と少子高齢化、市民の節水意識の高まり、節水器具の普及などの理由から、今後有収水量が減少し、収益が減ることが予測される。</p> <p>○H29年度から簡易水道会計が上水道会計に一本化されるので、その対応を進めている。</p> <p>○水道未普及地域の整備に伴う減価償却費の増加や、簡易水道の統合による新たな費用が発生する。</p>	<p>○市民からは安全・安心で、安定かつ安価な水の供給を求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
○成果指標Aは、給水区域内における人口の減少によるものと考えられる。 ○成果指標Bは、横ばい。漏水調査や老朽管の更新により、一定の水準を維持しているが、上水道区域内の漏水が多かったためと考えられる。	○水道普及率は、H26年度で全国97.8%、県96.8%に対し、雲南市(H26)94.2%と、やや低くなっている。市内では、大東町の普及率が90%に達していない。 ○直近の有収率は、上水道の全国平均(H25)90.2%、県平均(H26)88.6%、雲南市(H26)90.8%となり向上した。一方、簡易水道では全国平均(H25)77.0%、県平均(H26)79.3%、雲南市(H26)82.2%となった。 【出典：平成26年度 島根県の水道(健康福祉部薬事衛生課)】	○成果指標A、Bともに、ほぼ目標どおり。

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 水道施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・海潮地区簡易水道整備事業において、未普及地域の整備を行い、整備予定区域の約50%(和野、須賀、薦沢、引坂)が給水可能となった(H28年度完了予定)。 ・上久野地区水道整備事業において、詳細設計を行った(H28～31年度まで事業実施予定)。
② 水道施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した設備の計画的な更新等により適正な維持管理を図った。また、他事業に関連する支障移転工事に併せて老朽管の更新が図られた。なお、掛合町の連担地においては、国庫補助により老朽管の更新事業を進めている(H26～29年度まで事業実施予定)。 ・管理日報の点検により漏水の有無を判断し、漏水調査を行い、漏水箇所の計画的な改善に向け取り組んでいる。
③ 水道経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2次雲南市水道事業総合整備計画」を策定(H28.3月)した。 ・滞納管理システムの効果的な活用により、事務の効率化及び収納率の向上に努めた。 ・H26年度から、新料金体系により、運営を行っている(H26～28年度)。 ・水道料金の改定について、H28.2月に水道審議会に諮問を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○水道未普及地域の早期解消に努める必要がある。 ○安全・安心で安定した水道の供給に努める必要がある。 ○上水道と簡易水道の経営統合を踏まえ、経営強化に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第2次雲南市水道事業総合整備計画に基づき、水道未普及地域の解消、老朽管の更新、水道施設の維持管理を実施する。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 水道施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南市水道事業総合整備計画に基づき、水道未普及地域の解消に努める必要がある(H28年度中に、海潮地区簡易水道整備事業を完了予定、上久野地区水道整備事業に着手)。 ○地元の協力体制を確保し、連携を密にしながら事業進捗に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南市水道事業総合整備計画に基づき、上久野地区水道整備事業を継続実施する。
② 水道施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽管等の計画的な更新に努める必要がある(H28年度から深野地区簡易水道整備事業に着手)。 ○恒常的な施設の点検により、水道施設を適正に維持管理していく必要がある。 ○漏水調査を適時行い、安定供給に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○掛合簡易水道整備事業及び深野地区簡易水道整備事業を継続実施する。 ○漏水調査を行い、有収率向上に取り組む。
③ 水道経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ○水道料金の未納対策を進め、公平性の確保に努める必要がある。 ○施設の統廃合や効率的な施設の運用により、経常費用の削減に努める必要がある。 ○水道審議会の答申等を尊重しながら水道料金改定に向けた市の方針を決定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○上水道と簡易水道を事業統合する。 ○経常費用の削減に努める。 ○水道料金改定の市の方針に基づき、H29年度以降に料金改定を行う。 ○水道料金の未納対策に努める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 29 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	下水道課
	施策名		16.下水道の整備	主管課長名
			関係課	環境政策課,水道局総務課,工務課,営業課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472	
	B		見込						
			実績						
	C		見込						
			実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
衛生的な生活環境の中で暮らす。	A 下水道接続率	%	目標	79.3	80.6	80.9	81.2	81.5	
			実績	80.3					
	B 下水道整備率	%	目標		75.5	77.0	78.5	80.0	
			実績	75.3	76.8	76.7	77.9	79.1	
	C		目標		88.7	89.3	89.6	89.9	
			実績	88.7					
	D		目標		86.2	87.2	88.3	89.3	
			実績	86.3	88.1	87.3	88.1	88.6	
	E		目標						
			実績						
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 下水道施設の整備	下水道未整備区域の市民	下水道に排水できるように整備する。	a) [施策成果指標B] 下水道整備率	%	実績	88.1	87.3	88.1	88.6	88.7
② 下水道接続の促進	下水道の未接続者	下水道に接続する。	a) [施策成果指標A] 下水道接続率	%	実績	76.8	76.7	77.9	79.1	80.3
③ 下水道施設の維持管理	下水道接続済の市民	下水道に排水できるように維持管理する。	a) 緊急対応出動回数	回	実績	227	304	263	339	293
④ 下水道経営の安定化	下水道接続済の市民	健全な下水道事業経営により、安心して排水する。	a) [施策成果指標A] 下水道接続率	%	実績	76.8	76.7	77.9	79.1	80.3
			b) 収納率	%	実績	99.2	99.3	99.3	99.3	99.3

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●下水道整備の必要性を認識し、加入・接続する。 ●排水設備の適正な管理に努める。 ●使用料や施設整備に必要な負担金は、期限内に納入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●下水道施設を整備するとともに、施設の長寿命化を図り、計画的な改築・更新を行う。 ●住民・地域への接続促進や適正利用に関する啓発活動を行う。 ●管理経費の縮減や使用料の未納対策に努め、適正な料金水準を設定する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○人口減や節水器具の普及によって、使用料収入が減少することが予測される。</p> <p>○施設の老朽化により維持管理経費が増加するため、今後は、事後保全型から予防保全型にシフトし、ライフサイクルコストの縮減を図ることが求められている。</p> <p>○総務省は、地方自治体の下水道事業の公営企業会計の適用について、人口3万人以上の自治体を対象にH32年4月までに公営企業会計への移行の方針を示した。</p> <p>○H31年度からの「島根県生活排水処理ビジョン」に伴い、雲南市汚水処理施設整備構想をH29年度までに策定する。</p> <p>○下水道法の一部改正に伴い、下水管渠のうち、腐食のおそれのある箇所について、5年に1回以上の頻度で点検することが義務化された。</p>	<p>○下水道審議会からは、施設の老朽化対策に伴う経費の増大について懸念する意見が出されている。</p> <p>○議会からは、下水道経営の安定化に向けた対策や合併浄化槽の老朽化対策についての意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○接続率は向上しているが、高齢者の独居及び高齢者のみ世帯の増加や人口減により接続が進まない現状もある。</p> <p>○整備率は、実施計画に基づき面的整備が概ね完了し、合併処理浄化槽設置事業を行うことによって、成果は向上している。</p>	<p>○整備(普及)率(H26年度末時点)は、県平均77.0%(松江市97.3%、浜田市44.1%、出雲市84.7%、益田市35.4%、大田市37.2%、安来市85.4%、江津市41.4%)に対し雲南市88.6%であり、比較的高い水準である。</p> <p>【出典：平成26年度末市町村別汚水処理人口普及率(鳥根県)】</p>	<p>○成果指標A、Bともに、目標値に達した。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 下水道施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度から木次・三刀屋浄化センター(4池目機械・電気設備)増設工事に着手した。 ・H27年度に合併処理浄化槽を49基設置した。
② 下水道接続の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少はあるものの、接続率は向上した。
③ 下水道施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・農業集落排水施設(8地区)の機能強化対策事業計画を作成した。 ・施設等の修繕や緊急対応に迅速に取り組んだ。
④ 下水道経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道の公営企業化に向けて、資産調査を実施した。 ・滞納管理システムの効果的な活用により、事務の効率化及び収納率の向上に努めた。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的かつ効率的な改築・更新及び予防保全型維持管理を実施する必要がある。 ○下水道事業の健全運営に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○下水道の普及を図るとともに、施設(公共下水道、農集、浄化槽等)の老朽化対策として、計画的かつ効率的な改築・更新・修繕及び予防保全型維持管理を実施する。 ○施設統合や啓発活動による接続率向上、未接続解消等により下水道事業の健全運営に努める。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 下水道施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○集合処理区域の施設の計画的な老朽化対策(長寿命化、機能強化対策)を進める必要がある。 ○集合処理区域外の合併処理浄化槽の整備を推進する必要がある。 ○雲南管内の汚泥処理負担軽減を図り、事業の効率化を目指す必要がある(H28年度中に木次・三刀屋浄化センター増設工事を実施)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共下水道は長寿命化計画、農業集落排水は機能強化対策事業により、計画的な改築・更新に取り組む。 ○集合処理区域外の合併処理浄化槽の整備を行う。
② 下水道接続の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動や維持管理組合との連携により、啓発活動を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、広報活動や維持管理組合との連携により、啓発活動に取り組む。
③ 下水道施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な点検と緊急時の体制確保により、施設を適正に維持管理する必要がある。 ○広報・啓発活動により、利用者の適正な使用を呼び掛ける必要がある。 ○農集管路台帳の電子化を図り維持管理の向上を目指す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、定期的な点検と緊急時の体制確保により、施設を適正に維持管理する。 ○引き続き、広報・啓発活動により、利用者の適正な使用を呼び掛ける。 ○雲南クリーンセンターからの脱離液の水処理を実施する。
④ 下水道経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ○使用料の未納対策を進め、利用者の公平性の確保に努める必要がある。 ○施設を効率的に運用し、事業経営に係る経常費用の削減に努める必要がある。 ○雲南市汚水処理施設整備構想に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公営企業化に向けて、引き続き資産調査を進める。 ○使用料の未納対策を進め、利用者の公平性の確保に努める。 ○施設を効率的に運用し、事業経営に係る経常費用の削減に努める。 ○雲南市汚水処理施設整備構想を策定する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 27 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	II 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	危機管理室
	施策名		17.消防・防災対策の推進	主管課長名
			関係課	地域振興課,健康福祉総務課,農林土木課,建設総務課,建設工務課,都市計画課,建築住宅課,自治振興課,

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
	B		実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
生命・財産を火災・災害から守る。	A 火災発件数(暦年)	件	目標	15未満	15未満	15未満	15未満	15未満
			実績	19				
			目標	10未満	10未満	10未満	10未満	10未満
	B 自主防災組織の組織率	%	目標	55.8	73.3	80.0	90.0	100.0
			実績	70.0	19	19	29	16
			目標		60.0	80.0	90.0	100.0
	C 災害に対する家庭内での備えをしている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	29.5	42.9	42.9	45.2	50.0
			実績	20.8	40.0	45.0	50.0	55.0
			目標		40.0	45.0	50.0	55.0
	D 一般住宅の耐震化率	%	目標	20.8	19.8	27.9	25.4	18.8
			実績	60.0	62.5	65.0	67.5	70.0
			目標		60.0	68.0	75.0	80.0
実績	56.6	56.9	57.4	57.9	58.9			

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 防災意識の向上と実践	市民	家庭・地域で防災意識を高め、対策を施す。	a) [施策成果指標B・C] 自主防災組織の組織率、災害に対する家庭内での備えをしている市民の割合	%	実績	42.9・19.8	42.9・27.9	45.2・25.4	50.0・18.8	70.0・20.8
② 避難体制の確立	市民	非常時に避難行動がとれる。	a) 自主防災組織の防災計画の策定数	件	実績	—	—	—	4	6
③ 防災施設の整備	市民	被害にあわない、拡大しないように防災施設を整備する。	a) 急傾斜地対策実施率	%	実績	30.2	30.2	30.2	30.2	30.2
			b) 無線による緊急告知システム整備の進捗率	%	実績	—	—	—	—	—
④ 防火施設と消防体制の充実	市民	火災等に対応できるように施設・体制を整備する。	a) 防火水槽・消火栓を整備した箇所数	箇所	実績	0・2	0・4	2・3	2・2	3・3
			b) 消防団員数の充足率	%	実績	92.30	90.98	90.43	89.04	86.89

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●「自分の命は自分で守る」ことに努める。 ●防災・減災の意識を高め、自主防災組織の結成や家庭での備え・個人住宅の耐震化など自主的な防災活動に努める。 ●行政が行う防災関連事業に協力する。 ●事業所においては、地域の取り組みに協力するとともに、自主的な防災活動にも努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の防災・減災意識の高揚を図る。 ●大雨時の情報提供を行い、早めの避難行動につなげる。 ●火災・災害対応の体制整備や防災対策の実施する。 ●個人住宅等の耐震化の促進と、公共施設の耐震化を進める。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国では、災害時の被害を最小化し、被害の迅速な回復を図る「減災」の考え方を基本理念としている。</p> <p>○東日本大震災・広島市土砂災害・関東東北豪雨(鬼怒川氾濫)・熊本地震を受け、社会的に防災意識が高まっているとともに、気象・防災情報の正確・迅速な提供が求められている。</p> <p>○避難勧告等の判断・伝達マニュアルの見直しや、多様な災害に対して対応できる危機管理体制の整備が求められている。</p> <p>○災害対策基本法(H25.6月改正)による避難行動要支援者名簿作成や気象庁の特別警報の運用開始(H25.8.30)により住民周知が義務化されている。</p> <p>○少子高齢化の進行と社会状況の変化により、消防団の後継者が不足し、消防団活動の維持・継続が困難になってきている。</p> <p>○土砂災害警戒区域内において、H26～28年にかけて、土砂災害特別警戒区域指定のための現地調査が行われる。</p> <p>○木造住宅耐震化に関する国の目標はH32年度末で95%となっている。</p> <p>○国の原子力災害対策指針やマニュアル等を踏えた避難、屋内退避等の防護措置の実施が求められている。</p>	<p>○市民からは、消防団や自主防災活動に、地域の住民や団体が参画するための行政の支援を求められている。</p> <p>○消防団からは、団員の確保が困難なため、消防団体制の再編成(組織、人員、車両)を求められている。</p> <p>○地下式耐震性防火水槽の設置が求められている。</p> <p>○地域自主防災組織の組織化の促進、活動の活発化が求められている。</p> <p>○議会からは、木造住宅の耐震化率の向上に向けた事業推進が求められている。</p> <p>○原子力災害時の広域避難計画の実効性を高めることが求められている。</p> <p>○避難生活が長期化した場合の要配慮者への対応、男女双方の視点を取り入れた運営などが求められている。</p> <p>○土砂災害特別警戒区域指定について賛否両論の意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度 (目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○成果指標Aは、継続的な予防活動や啓発活動の強化を進めているが、3件の増加となっている。 ○成果指標Bは、20ポイント向上。地域自主組織による防災対策に関する市民の意識は高まっており、活動も始まりつつある。 ○成果指標Cは、H26年度と比較して2.0ポイント向上。出前講座への参加者数の増加などが家庭内での備えに対する意識の高まりにつながっていると考えられる。 ○成果指標Dは、新築・解体による住宅環境の変化、木造住宅耐震化等促進事業による支援等により、耐震化率の向上につながっている。</p>	<p>○平成27年(暦年)の火災発生件数を県内8市と比較すると、3番目に少ない。 雲南市(19件/39,059人) 松江市(64件/206,407人) 出雲市(57件/171,576人) 安来市(16件/39,553人) 大田市(17件/35,167人) 江津市(19件/24,450人) 浜田市(31件/58,120人) 益田市(23件/47,701人) ※人口は、H27国勢調査 【出典：県内各消防本部の消防年報及び聞き取り】</p>	<p>○成果指標A、Cは、目標値を下回った。 ○成果指標B、Dは、目標値を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 防災意識の向上と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の実施により、市民の防災意識の高揚を図った。 ・土砂災害特別警戒区域の基礎調査事後説明会を開催し、意見交換を行い、危険箇所の周知に努めた。
② 避難体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座で避難行動についての説明を行った。 ・原子力災害発生時を想定した避難訓練を実施した。
③ 防災施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・FM緊急告知ラジオシステムの導入について、民間FM放送局と協議を進めたが、民間FM放送局からの申し出もあり、断念せざるを得ないと判断した。今後、新たな技術および知見を得るよう努め、情報伝達手段の多様化に向け検討していく。 ・地元要望などにより林地崩壊のおそれのある急傾斜地等の危険箇所を把握し、対策事業の実施や国・県に事業化を求めた。
④ 防火施設と消防体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・消防施設備品整備補助事業や上水道消火栓等整備事業、防火水槽整備事業などにより、消防防災施設や備品を整備した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力災害に関わる広域避難計画の実効性を高めていく必要がある。 ○消防団の効率的な活動を推進する必要がある。 ○自主防災組織の組織化を推進する必要がある。 ○住宅の耐震化率の向上を図る必要がある。 ○家庭における防災対策の推進を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、原子力災害に関わる広域避難計画の実効性を高めていく。 ○常備消防体制を強化するとともに、消防団の効率的な活動を推進する。 ○自主防災組織の組織化を推進するとともに、活動の充実を図る。 ○住宅の耐震化を啓発し、耐震化率の向上を図る。 ○災害に対する家庭内での備えに対する意識の高揚を促す。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 防災意識の向上と実践	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災組織における非常備蓄機能を高める必要がある。 ○自主防災組織等による地域住民の非常備蓄品の斡旋に取り組む必要がある。 ○防災・減災に対する啓発活動を推進する必要がある。 ○住宅の耐震化を推進する必要がある。 ○土砂災害特別警戒区域の基礎調査に関する事前説明会及び事後説明会を開催する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、自主防災組織における非常備蓄機能の向上に努める。 ○引き続き、自主防災組織等による地域住民の非常備蓄品の斡旋に努める。 ○引き続き、出前講座、研修会、防災訓練等による啓発活動を推進する。 ○補助事業活用による住宅の耐震化を推進する。 ○引き続き、土砂災害特別警戒区域の基礎調査に関する説明会を開催する。
② 避難体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力災害に関わる住民避難訓練を実施する必要がある。 ○災害の発生に備え、早めの避難開始を促す必要がある。 ○災害時の避難行動要支援者制度の確立に向けて取り組む必要がある。 ○長期間に渡り指定避難所を開設した場合の指定避難所運営組織の構築が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、原子力災害に関わる住民避難訓練を実施する。 ○避難勧告等の判断・伝達マニュアルに沿った適切な避難勧告等の発令及び伝達に努め、早めの避難開始を促す。 ○災害時の避難行動要支援者制度の確立に向け、要配慮者に関する情報を適切・円滑に提供・共有するための体制整備を進める。 ○指定避難所を開設した際の自主防災組織との協力体制を構築する必要がある。
③ 防災施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な防災施設整備など、災害に備える必要がある。 ○情報伝達手段の多様化を図るために検討を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な防災施設整備に向けて取組み、災害に備える。 ○情報伝達手段の多様化を図るための検討を行う。
④ 防火施設と消防体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○消防団員の体制の整備を行う必要がある。 ○防火施設(防火水槽等)の整備を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○消防団員の条約定数の見直しにより、消防団の効率的な活動ができる体制整備を図る。 ○引き続き、計画的に防火施設(防火水槽等)の整備を行う。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 27 日
更新日 平成 28 年 9 月 1 日

総合計画体系	政策名	II 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課 主管課長名	総務課 三原 修三
	施策名	18.交通安全の推進	関係課	農林土木課 建設総務課 建設工務課 都市計画課 自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
目的	市民	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
				実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472	
		B		見込						
			実績							
			見込							
			実績							
	交通安全に遭わない、起こさない。	A 交通事故発生件数(暦年/高速道路を除く)	件	目標	1,000未満	1,000未満	1,000未満	1,000未満	1,000未満	
				実績	866					
			B 交通事故死傷者(死者・負傷者)数(暦年/高速道路を除く)	人	目標	0・80未満	0・80未満	0・80未満	0・80未満	0・80未満
					実績	1,180	1,132	1,098	1,016	972
			C 運転したり、歩いたりして危ない(ヒヤッ)と感じた市民の割合(市民アンケート調査項目)	%	目標	0・65	0・80未満	0・80未満	0・80未満	0・80未満
					実績	69.0	68.0	67.0	66.0	65.0
		D		目標	68.7					
				実績						
		E		目標		70.0	70.0	70.0	70.0	
実績					71.8	71.2	68.4	69.6	68.1	

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
①交通安全意識の高揚	市民	交通安全意識を高める。	a) [施策成果指標C] 運転したり、歩いたりして危ない(ヒヤッ)と感じた市民の割合	%	実績	71.2	68.4	69.6	68.1	68.7
②交通安全施設の整備	市民	道路を安全に通る。	b) 交通安全施設整備箇所数	箇所	実績	60	56	48	40	34
			a) 通学路の危険要注意箇所数・対策箇所数	箇所	実績	—	—	117・91	115・115	50・22

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが互助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●交通安全講習等に積極的に参加する。 ●交通安全意識を高める。 ●交通ルールを守り、交通マナーの向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●交通事故防止に向けた講習や啓発活動を行う。 ●地域、関係機関等と連携し、交通安全施設を整備する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○県内の運転免許保有者が横ばいの中、高齢化は進展している。</p> <p>○雲南市では、高齢者の関係する人身事故が増加傾向にある。</p> <p>○全国的に、登下校中の児童生徒の事故が多発し、関係機関が連携して、通学路の交通安全確保に向けた取組みを行うことが求められている。</p> <p>○飲酒運転等の罰則が強化され、飲酒運転による交通事故は減少傾向にある。</p> <p>○中国横断自動車道尾道松江線開通に伴い、一般道の交通量や交通形態が変わってきている。</p> <p>○道路交通法の改正により、一定の病気を原因とする事故を防ぐため、運転免許を受けようとする人等への質問に関する規定の整備や、自転車の危険運転に対する交通マナーの取り締まりが強化されている。</p>	<p>○市民から、交通安全施設の設置(信号機、横断歩道、カーブミラー、ガードレール)や、生活道路の局部改良(カーブ改良、歩道整備等)の要望がある。</p> <p>○議会からは、児童生徒、障がい者、高齢者等の視点に立った交通安全対策が必要であるといった意見が寄せられている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標A(交通事故発生件数)は、各地域の交通安全対策協議会による啓発活動により、市民の交通マナーに対する意識が向上したと考えられる。</p> <p>○成果指標B(交通事故死傷者数)についても、H26年度に発令した非常事態宣言を踏まえ、特に、加茂地区は雲南警察署より「はつらつモデル地区」の指定を受け、老人クラブ連合会加茂町支部に夜光反射材着用モニター委嘱状が交付され、更なる啓発活動を行ったことにより、死傷者の減少につながったと考えられる。</p> <p>○成果指標Cは、ほぼ横ばい。</p>	<p>○交通事故発生件数は、近隣他市と比較し、人口規模を勘案すると少ないといえる。(H27年 松江市;7,301件、出雲市;6,020件、安来市;1,112件、雲南市;866件)(人口対比:松江市3.55%、出雲市3.53%、安来市2.82%、雲南市2.22%)</p> <p>○交通事故による死者/傷者数についても、人口対比では近隣他市と比較し低く、死者数も前年に比較して減少している。(H27年 松江市;8/578人、出雲市;5/448人、安来市;0/83人、雲南市;2/54人)(人口対比:松江市0.29%、出雲市0.27%、安来市0.21%、雲南市0.14%)</p> <p>【出典:交通事故統計だより(島根県警察本部)、Safty雲南(雲南警察署)】</p>	<p>○成果指標A、Cについては、目標値を上回った。</p> <p>○成果指標Bについては、交通事故負傷数は目標値を下回ったが、死者数は目標値を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 交通安全意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市交通指導員設置事業や交通指導員警察連絡協議会運営事業により、継続的に街頭指導など、交通安全意識向上への取り組みを実施し、交通事故発生件数については減少したものの、年間2件の交通死亡事故が発生していることから、今後も啓発活動を強化していく必要がある。 ・雲南市交通安全対策協議会を推進母体として、警察や学校、地域住民により各支部を中心とした活動を行った。
② 交通安全施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・地域から要望のあった箇所については、国、県、市、警察及び地域で現地立会を行い、カーブミラー、ガードレール、区画線等の整備をするなど、必要に応じた対策を講じた。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○市は交通安全に対する意識啓発を促進し、市民は自ら交通安全の意識を高める必要がある。</p> <p>○交通事故防止に向けた環境づくりに努める必要がある。</p>	<p>○交通安全に対する意識啓発を促進し、市民の交通安全意識の高揚を図る。</p> <p>○引き続き、交通事故防止に向けた環境づくりを進める。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 交通安全意識の高揚	<p>○警察をはじめ関係団体等との連携により、交通安全意識の高揚を図る必要がある。</p> <p>○高齢者の関わる交通事故が増加傾向にあることから、関係機関と連携し対策を講じる必要がある。</p>	<p>○警察等との連携により、学習会や街頭指導、広報活動、交通指導員による啓発を行っていくとともに、交通安全団体の活動を支援し、交通安全意識の高揚を図る。</p> <p>○高齢者の関わる交通事故が増加傾向にあることから、関係機関との連携により、老人クラブ連合会等への啓発活動の強化を図る。</p>
② 交通安全施設の整備	<p>○地域、関係機関等と連携し、必要な交通安全施設の整備を図る。</p>	<p>○地域からの要望、道路パトロールや雲南市通学路交通安全プログラムにおける危険箇所等の点検、抽出において状況把握を行い、必要な交通安全施設の整備を推進する。</p>

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 27 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課 主管課長名	危機管理室 安部 昭彦
	施策名	19.消費者保護・防犯対策の推進	関係課	総務課,市民生活課,自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人口	人	見込 実績	38,990 41,917	38,968 41,159	38,477 40,548	37,987 40,055	37,496 39,472
					見込 実績				
					見込 実績				
目的	②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
消費者被害、犯罪にあわない。	A 刑法犯認知件数(暦年)	件	件	目標	140	140	140	140	140
				実績	117				
				目標		145	140	135	130
				実績	107	95	166	194	154
				目標	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
				実績	38.1				
	B 身近で犯罪にあう不安を感じている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	%	目標	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
				実績	41.6	38.0	35.2	40.4	36.4
				目標					
	C			目標					
				実績					
				目標					
	D			目標					
				実績					
				目標					
E			目標						
			実績						
			目標						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 地域防犯体制の充実	市民・事業者	地域で防犯活動を行う。	a) 地域防犯組織数	組織	実績	31	31	31	31	31
② 子どもの見守り体制の強化	子ども	犯罪に巻き込まれない。	a) 地域防犯組織数	組織	実績	31	31	31	31	31
③ 防犯施設・設備の整備	市民・事業者	犯罪被害を防ぎ、犯罪を抑止する。	a) LED防犯灯・防犯カメラの設置数	箇所	実績	609・0	679・1	700・6	734・17	775・17
④ 消費者保護の推進	市民	消費者被害にあわない。	a) 消費者被害相談件数(県・市)	件	実績	181・45	169・49	178・82	170・83	142・77

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●安全で安心な地域コミュニティの形成に努める。 ●防犯や消費者被害に関する研修会等に積極的に参加する。 ●地域や事業所(金融機関等)での防犯に対する組織的な活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●警察や地域安全推進員など防犯活動団体と連携し、活動支援及び啓発活動等を行う。 ●防犯施設の整備支援を行い、犯罪及び犯罪被害の抑止に取り組む。 ●消費生活センターを中心に、消費者被害に関する相談、知識の普及啓発、情報提供、消費者団体の活動支援を行う。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○インターネット被害の低年齢化とともに、市内では高齢者の被害も増加しているなど、犯罪も多様化している。</p> <p>○犯罪に対する厳罰化やDV、ストーカー行為が増加傾向にある中、法改正や犯罪被害者の擁護が進んでいる。</p> <p>○高齢化により、高齢者が被害者となる犯罪被害も増加傾向にある。</p> <p>○違法薬物と同等、あるいはそれ以上の催眠・興奮・幻覚作用などを引き起こす成分を含む「危険ドラッグ」の使用者が、二次的な犯罪や健康被害を起こす事例が多発している。</p> <p>○「雲南市犯罪のない安全で安心なまちづくり推進会議」を設置し、活動に取り組んでいる。</p>	<p>○高齢者世帯、独居世帯への犯罪被害防止対策が求められている。</p> <p>○防犯カメラについて、市の負担による設置の意見がある。</p> <p>○自治会から、LED防犯灯整備に係る補助事業の対象拡充の要望がある。</p> <p>○議会から、LED防犯灯整備事業について、補助金のあり方、自治会間の設置のあり方等の改正についての意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成26年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H25年度とH26年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
○刑法犯認知件数についてはH26年度と比較すると37件減少した。 ○身近で犯罪にあう不安を感じている市民の割合については、H26年度と比較すると1.7ポイント増加した。県内で窃盗事件等も発生していることが要因の一つと考えられる。 ○雲南警察署をはじめとする広報啓発などにより、成果が向上したと考えられる。	○H27年度の人口千人当たりの刑法犯認知件数は、3.0件で県内8市の中で3番目に少ない。(最も少ないのは大田市2.69件、次いで江津市が2.7件、最も多いのは松江市6.74件。) 【出典：鳥根県警察本部ホームページの犯罪統計より】	○成果指標Aは、目標値を大幅に上回った。 ○成果指標Bは、目標値を下回った。

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 地域防犯体制の充実	・雲南市犯罪のない安全で安心なまちづくり推進会議において、研修会を開催するなど、地域での活動やPRIに努めた。 ・安全安心メールを運用している(年度末登録件数2,751件で運用を行った)。
② 子どもの見守り体制の強化	・雲南防犯連合会に参画し、防犯広報・啓発活動を積極的に取り組んだ。
③ 防犯施設・設備の整備	・LED防犯灯設置事業で各自治会から要望のあった41箇所に防犯灯を新設し、合計設置数775箇所となった。
④ 消費者保護の推進	・雲南市消費生活センターの相談件数は77件であった。広報を通じて様々な消費者被害防止の情報提供や注意喚起の告知放送を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	○犯罪にあわないための意識の啓発活動を推進する必要がある。 ○犯罪や消費生活についての知識を身に付け、未然防止に努める必要がある。 ○犯罪被害や消費者被害の相談に対し、迅速に対応する必要がある。	○引き続き、犯罪にあわないための意識の啓発活動を推進するとともに、犯罪が発生しにくい環境づくりに努める。 ○犯罪防止や消費生活についての情報提供を行い、未然防止に努める。 ○犯罪被害や消費者被害の相談に対し、関係機関と連携し迅速な対応に努める。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 地域防犯体制の充実	○地域や警察との連携、意識啓発、研修会の開催等により、地域防犯の推進を図る必要がある。	○雲南市犯罪のない安全で安心なまちづくり推進会議において、意識啓発、研修会の開催等により、地域防犯の推進を図る。
② 子どもの見守り体制の強化	○地域における見守り活動の充実を図る必要がある。 ○防犯意識の高揚を図る必要がある。 ○防犯学習を推進する必要がある。	○防犯ボランティア団体等との連携により見守り活動の充実を図る。 ○各種媒体による啓発活動を行い、防犯意識の高揚を図る。 ○学校や地域での防犯教育・研修等による防犯学習を推進する。
③ 防犯施設・設備の整備	○防犯施設の整備支援により、犯罪抑止を図る必要がある(H28年度中にLED防犯灯・防犯カメラ一体型の機器を実証実験として1台設置)。 ○自治会における防犯灯の設置状況を確認する必要がある(H28年度中に設置数の確認を行う)。	○LED防犯灯・防犯カメラの設置により、犯罪抑止を図る。
④ 消費者保護の推進	○消費者被害の未然・拡大防止を図る必要がある。	○消費者被害の未然・拡大防止に向けて関係機関との連携を図るとともに、雲南市消費生活センターにおける啓発活動に努める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 23 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康づくり政策課
	施策名	20.地域医療の充実	主管課長名	嘉本 史紀
			関係課	市民生活課,健康福祉総務課,長寿障がい福祉課,地域包括支援C,健康推進課,身体教育医学研究所,市立病院,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市民	A 人口	人	見込 実績	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
	B			見込 実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	C			見込 実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
目的 安心して医療機関を利用できる。	A 安心して医療機関を利用できると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標 実績 目標 実績	74.0	74.0	78.0	80.0	80.0	
				68.3					
				63.0	64.0	65.0	65.0		
				72.1	73.9	71.8	73.0	73.8	
	B 雲南圏域(2次医療圏)医師数(人口10万対)	人	目標 実績 目標 実績	132	135	139	142	145	
				131(H26)					
				118	118(H22)	132	132(H24)	131	
	C		目標 実績 目標 実績						
D		目標 実績 目標 実績							

2. 施策の目標達成のための 基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① かかりつけ医制度の普及と在宅医療の推進	市民	かかりつけ医を持つ。自宅での治療を受けることができる。	a)雲南市の医師数(実数)	人	実績	—	52	52	51	未公表
			b)かかりつけ医をもっている市民の割合(市民アンケート調査項目)	%	実績	74.4	73.9	75.0	77.1	71.1
② 2次医療機関の充実	市民	2次医療を受けることができる。	a)雲南圏域の医師数(実数)	人	実績	—	79	79	76	未公表
			b)雲南圏域の看護師の充足率	%	実績	92.3	93.1	88.8	89.5	91.7
			c)市立病院の常勤医師数・診療科数	人・科数	実績	20・14	18・14	18・14	18・14	21・14
③ 救急体制の確保	市民	救急医療を受けることができる。	a)市内病院へ救急搬送される市民の割合	%	実績	56.0	55.9	49.0	47.2	49.7
			b)病院に救急搬送されるまでの平均時間(通報から病院着まで)	分	実績	H25年度より調査	38分01秒	45分40秒	43分55秒	
④ 医療行為を受ける機会の保障	市民	医療行為を受けることができる。	a)[施策成果指標A]安心して医療機関を利用できると感じる市民の割合	%	実績	73.9	71.8	73.0	73.8	68.3

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●身近なかかりつけ医を持つ。 ●疾病に関する正しい知識を持ち、適切に医療機関を利用する。 ●地域医療に対する関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医師・看護師等の確保を図る。 ●住民に地域医療の適正な利用を啓発する。 ●雲南市立病院の改築により、療養環境の充実を図る。 ●在宅医療の推進を図る。 ●市内外の医療機関との連携を図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○高齢化の進行により、交通弱者の増加が懸念される。</p> <p>○市内では医師・看護師の確保が困難な状況が続いている。</p> <p>○ドクターヘリがH23.6月から導入され、県内での雲南圏域の利用実績は高い状況である。</p> <p>○しまね医療情報ネットワーク(通称:まめネット)の普及に伴い地域の医療機関の連携による情報共有が活性化されつつある。</p> <p>○国の示す「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針」に基づき、地域包括ケアシステムの構築が求められている。</p>	<p>○住民・議会からは、医師不足を解消し、医療体制の安定提供が求められている。</p> <p>○市立病院の改築による療養環境の改善が求められている。</p> <p>○ドクターヘリの利用率が県内でも高く、市民の安心感につながっている。</p> <p>○子育て世代から、安心して子どもが医療機関にかかる体制の整備が求められている。</p> <p>○医療機関への交通手段の充実が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。

* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)

<p>○成果指標Aは、70%台を割った(やや低下した)。60歳～64歳以下の年代が最も低く、20歳～50歳代が約60%となっている。また、かかりつけ医をもっている割合も64歳までが低く、同様の傾向が見られる。</p> <p>○成果指標Bは、H24年度以降ほぼ横ばい。雲南圏域の医師数(実数)が減少していることから、実数を確保しない限り人口10万対での増加は見込めないと考えられる。</p>	<p>H27年調査結果は未公表。 これまでの実績として、雲南圏域における医師数(人口10万対)の実績値(H26年度:131人)は、全国平均(H26年度:245人)及び県平均(H26年度:279人)と比べて、かなり低い水準である。 【出典:H26年医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省)】</p>	<p>○成果指標Aは目標値を下回った。 ○成果指標Bは、実績値が未公表のため目標達成度は測れない。</p>
--	--	--

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① かかりつけ医制度の普及と在宅医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「島根県在宅医療推進事業」に取り組み、市立病院内に在宅医療連携推進委員会を設置し、診療所・福祉施設等との連携を図った。 ・予防接種や検診の市内開業医での受診の普及に取り組んだ。 ・「病院・かかりつけ医院を受診するときの便利手帳」、「子どもの急病 上手なお医者さんのかかり方」のパンフレット配布など、正しい医療機関の利用方法を啓発した。 ・訪問看護に関する新規事業者(コミケア・なごみ等)が複数誕生し、在宅療養が充実した。
② 2次医療機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院改築事業の主な内容は、9月に建設工事の契約を締結し、11月から南棟4階の改修工事、第1期水路付替え工事、エネルギー棟一部新設工事、文化倉庫・医師住宅解体撤去工事を行った。 ・医療職人材確保事業では、引き続き地域枠推薦入学に向けて取り組み、島根大学医学部に2名、石見高等看護学院に2名が入学した。現在、石見高等看護学校には在籍5名、島根大学医学部には13名が在籍している(H28.4月現在)。
③ 救急体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の病院・消防署・保健所による雲南圏域救急医療連絡会を開催し、救急体制に係る情報の共有化を図った。 ・救急医療病院運営補助事業により、休日、時間外の救急患者の受け入れを確保した。 ・ドクターヘリは圏域で166件、雲南市で80件の利用があり、雲南圏域が県内で最も利用が多い(H27年度実績)。ドクターヘリ専用ヘリポートの候補地の調査を行った。
④ 医療行為を受ける機会の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険や後期高齢者医療制度などの適正な運用を図った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○市立病院の改築とともに、国が示す新公立病院改革ガイドラインを踏まえた新公立病院改革プランを策定し、地域医療の更なる充実が必要がある。 ○医療に関する情報提供及び在宅医療提供体制の整備・充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市立病院の改築を進めるとともに、新公立病院改革プランに基づき、地域医療の更なる充実を図る。 ○在宅医療介護連携推進事業に取り組む。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① かかりつけ医制度の普及と在宅医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○医療の現状や課題について、市民への適切な情報提供と啓発に努める必要がある。 ○地域医療を守る団体、患者団体等の活動を支援する必要がある。 ○医師会と連携し、身近な1次医療機関の維持確保に努める必要がある。 ○安心して在宅療養できる体制の充実に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、医療の現状や課題について、市民への適切な情報提供と啓発に努める。 ○引き続き、地域医療を守る団体、患者団体等の活動を支援する。 ○在宅療養後方支援病院(市立病院)、1次医療機関、訪問看護等との連携強化により、在宅医療を支援する。 ○圏域内外の病診連携を図りながら、安心して在宅療養できる体制の充実に努める。
② 2次医療機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○市立病院の改築により、地域医療の更なる充実を図る必要がある。 ○市内で安心して子どもを産み育てることができる医療機能の確保に努める必要がある。 ○医師・看護師等の医療従事者の確保に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市立病院改築事業を進める。 ○市立病院の周産期医療体制及び小児科診療体制の更なる充実に努める。 ○地域枠推薦入学制度の運用など、医師・看護師等の医療従事者の確保に努める。
③ 救急体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○消防機関と市内外の救急医療機関との連携を促進する必要がある。 ○ドクターヘリの活用による救急搬送体制を強化する必要がある。 ○市内の休日夜間の救急医療体制を維持・確保する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南圏域救急医療連絡会を開催し、消防機関と救急医療機関等との連携を促進する。 ○ドクターヘリ専用ヘリポートの整備に向けて取り組む。 ○引き続き、市内の休日夜間の救急医療体制を維持・確保に努める。
④ 医療行為を受ける機会の保障	<ul style="list-style-type: none"> ○国民健康保険・後期高齢者医療などの適正な運用を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国民健康保険・後期高齢者医療など適正な運用に努める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 23 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康推進課
	施策名	21.健康づくりの推進	主管課長名	岡田 志保
			関係課	市民生活課,健康福祉総務課,長寿障がい福祉課,地域包括支援C,健康づくり政策課,身体教育医学研究所,市立病院,社会教育課,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
	C		実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
目的 心身ともに健康で暮らす。	A 日常的に健康づくりに取り組んでいる市民の割合〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0
			実績	60.5				
	B 被保険者一人あたり国保医療費(費用額)	円	目標	434,000	447,000	460,000	474,000	488,000
			実績	444,434				
			目標	335,000	340,000	345,000	350,000	
	C 40歳～64歳全がん男女別年齢調整死亡率(人口10万対)(ペイズ補正)	単位なし	目標	143.0/43.0	142.0/43.0	141.0/43.0	141.0/43.0	141.0/43.0
			実績	未公表				
			目標	136.7/90.7	106.4/68.9	170.9/68.1	147.1/48.1	111.6/24.6
	D 全年齢自死男女別年齢調整死亡率(人口10万対)(ペイズ補正)	単位なし	目標	29.0/1.3	28.5/1.3	28.0/1.3	27.5/1.3	27.0/1.3
			実績	未公表				
			目標	55.2/8.0	45.0/6.2	37.9/6.4	25.4/3.7	27.7/10.5
	E		目標					
			実績					
				目標				
				実績				

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 地域ぐるみで取り組む健康づくり	市民	地域ぐるみで健康づくり活動に取り組む。	a) [施策成果指標A] 日常的に健康づくりに取り組んでいる市民の割合	%	実績	66.5	63.4	62.0	64.1	60.5
② 病気の早期発見と重症化の予防・感染症の予防	市民	病気を早期に発見し、重症化を予防する。感染症を予防する。	a) [施策成果指標B] 被保険者一人あたり国保医療費(費用額)	円	実績	368,656	385,792	394,631	420,571	444,434
			b) 特定健診受診率	%	実績	33.4	34.5	33.1	33.6	38.8(見込)
			c) 大腸がん検診受診率	%	実績	10.4	11.9	12	11.3	12.8
③ 食育の推進	市民	より良い食習慣を身に付ける。	a) (朝食の欠食) 特定健診(40～74歳)、3歳児、小・中学生	%	実績	—	—	4.2 4.8 5.2 8.5	3.6 6.4 2.5 2.3	4.6 5.1 1.5 4.3

3. 施策の役割分担

① 市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが互助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	② 行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたり自ら健康管理を行い、積極的な健診受診、生活習慣病の予防、早期発見・早期治療に努める。 個人や家庭で健康づくりを実践し、地域、学校、職場などでは健康づくりのための環境整備に取り組む 自治会・地域自主組織等が自らの健康課題を認識し、健康づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「うんなん健康都市宣言」に基づき、健康なまちづくりを推進する。 地域における健康づくりの核となる人材の育成に努める。 心身の健康に関する課題を明らかにし、科学的根拠のある情報に基づき、市民に健康づくりを働きかける。 市民の健康づくりの実践のために特定健診・がん検診・健康教室・健康相談などを行う。

4. 施策の状況変化・住民意見等

① 施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	② 関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国(「健康日本21(第2次)」H25～H34)は、健康寿命の延伸と健康格差の縮小、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上について、生涯を通じた健康づくりを重点的に進めている。</p> <p>○国保医療費(費用額)が増加する主な要因は、国保被保険者に占める高齢者割合の増加、医療の高度化によるものが考えられる。H27年度は調剤の伸びが大きかった。高額なC型肝炎新薬の保険適用が要因の一つ(全国的にも伸びている)でもある。</p> <p>○テレビ等マスメディアの影響など健康情報への関心が高まり、国民の健康づくりの意識は向上している。</p>	<p>○健康づくりに対する関心は高くなっており、健康づくり対策の一層の推進や医療費の抑制と国保料の増加抑制を求める声がある。</p> <p>○土日特定健診・がん検診及び人間ドックの受診枠の拡充、リスク検診への補助が求められている。</p> <p>○うんなん健康都市宣言の積極的な啓発が求められている。</p> <p>○身体教育医学研究所の開所10周年を機にまとめた研究成果を、市民のさらなる健康づくりに活かしていくことが求められている。</p>

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○成果指標Aは、3.6ポイント低下した。年代別で見ると、70歳以上の年代では8割以上が健康づくりに取り組んでいるが、64歳以下の年代における健康づくりの取組みが低下している。また、週1回以上のスポーツに取り組む人の割合についても、同様の傾向が見られる。</p> <p>○成果指標Bは、H26年度から23,863円増加しているが、これは国保被保険者の高齢化、医療の高度化、新薬の保険適用が主な要因であると考えられる。</p> <p>○成果指標C,Dは、未公表であるものの、H25年度H26年度を比較すると、単年度比較ではCがん死亡率は下がり、D自死死亡率は上がっている。</p>	<p>○一人あたりの国保医療費(費用額:円)については、雲南市が444,434円、県平均が427,050円であり、県内19市町村中7番目。又、他市町に比べ生活習慣病にかかる費用額がやや高い。【出典:島根県国保保険疾病統計】</p> <p>○40歳～64歳全がん男女別年齢調整死亡率(人口10万対)については、雲南市が男性111.6女性が24.6、国平均が男性134.7女性102.1、県平均が男性144.7女性96.1であり、男性・女性とも国・県より死亡率が低い状況であった。</p> <p>○全年齢自死男女別年齢調整死亡率(人口10万対)については、雲南市が男性27.7、女性が10.5国平均が男性24.2女性9.7、県平均が男性25.9女性10.4であり、国・県より死亡率はやや高い状況であった。【出典:島根県健康指標データシステム】</p>	<p>○成果指標A, Bについては、目標値を下回った。 ○成果指標C, Dの実績値は未公表。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 地域ぐるみで取り組む健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市民をあげて健康づくりに取り組む機運を高めるための道標として策定した「うなん健康都市宣言」の普及啓発を行った。 ・H26年度に策定した第3次雲南市健康増進実施計画に基づき、官民一体となって市民の健康増進を図る取り組みを推進した。 ・地域運動指導員、食生活改善推進協議会、がん検診すすみ隊などと連携し、食生活や運動をはじめとする健康づくりに関する普及啓発を行った。 ・島根大学医学部との連携による健康調査等をもとに、地域ぐるみでの健康づくりや介護予防の普及啓発を行った。 ・身体教育医学研究所うなんの開所10周年を記念し、フォーラムの開催や10年間の研究成果をまとめた記念誌を発行した。 ・市内6運動施設による運動教室を実施した。 ・健康づくり拠点整備事業において、検討委員会を開催し、施設整備基本計画を策定し基本設計業務を委託した。
② 病気の早期発見と重症化の予防・感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診、がん検診の受診率向上のために土日検診やクーポン券配付を行った。 ・雲南市立病院の医療出前講座の内容を充実したことで利用される回数も増加した(H26年度:57回、H27年度:60回)。 ・自死防止対策として、ゲートキーパー研修やリーフレットの作成を行い、啓発を図った。 ・保健師等の出前健康教育や巡回健康相談を継続的に実施した。
③ 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次食育推進計画に基づき、関係機関との連携による望ましい食生活の普及・実践を推進した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○うなん健康都市宣言を積極的に啓発する必要がある。 ○健康長寿・生涯現役を目指し、市民の健康増進・介護予防に取り組む必要がある。 ○病気を早期発見し、早期治療を進める必要がある。 ○生活習慣病を予防する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、うなん健康都市宣言を積極的に啓発する。 ○健康長寿・生涯現役を目指し、地域ぐるみで健康意識を高め、健康増進・介護予防に取り組む。 ○がん・生活習慣病などの病気を早期発見し、早期治療を進める。 ○望ましい食生活、身体活動・運動、休養を通じて、生活習慣病を予防する。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 地域ぐるみで取り組む健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○健康づくり推進協議会を中心に、健康づくりを推進する必要がある。 ○健康づくりの推進を図るための人材を育成する必要がある。 ○地域の中で自死防止対策に取り組む必要がある。 ○専門職による健康相談や健康教育を実施するための体制を整備する必要がある。 ○市民の運動習慣の確立を図る必要がある。 ○健康づくり拠点施設整備基本計画に示した運動プログラムを精査する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康づくり推進協議会を中心に、地域自主組織・関係機関・住民団体等とともに、健康づくりを推進する。 ○地域運動指導員、食生活改善推進員等を育成する。 ○自死防止総合対策検討委員会を中心に、地域の中で自死防止対策に取り組む。 ○健康相談や健康教育の継続的な実施に向け、専門職による体制整備を図る。 ○個人に合った運動習慣の確立に向けて取り組む。 ○健康づくり拠点整備基本計画に示した運動プログラムについて調整する。
② 病気の早期発見と重症化の予防・感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ○身体教育医学研究所の開所10周年を機にまとめた研究成果を、市民のさらなる健康づくりに活かしていく必要がある。 ○地域自主組織や健康づくり活動団体との協働により、がん検診を進める必要がある。 ○特定健診、各種がん検診の受診率を向上させる必要がある。 ○健康管理データに基づいた保健指導により、生活習慣病の発症の予防及び疾病の重症化を予防していく必要がある。 ○地域の医療機関と連携し、疾病の重症化及び感染症を予防する必要がある(H28年度は、B型肝炎ワクチンの予防接種を予定)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身体教育医学研究所うなんや島根大学との連携により、科学的根拠に基づいた情報提供や健康管理データに基づいた保健指導を行う。 ○引き続き、地域自主組織や健康づくり活動団体との協働により、がん検診を進める。 ○引き続き特定健診、各種がん検診の受診率を向上させる。 ○引き続き、地域の医療機関と連携し、疾病の重症化及び感染症を予防する。
③ 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい食生活の普及・実践を推進する必要がある。 ○安全・安心な食の普及・実践を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第2次食育推進計画に基づき、安全・安心な食の普及・実践を推進する。 ○食育ネット会議により、関係機関の連携を図りながら、望ましい食生活の普及・実践を推進する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 22 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課 主管課長名	長寿障がい福祉課 系原 幸子
	施策名	22.高齢者福祉の充実	関係課	市民生活課,健康福祉総務課,地域包括支援C,健康づくり政策課,健康推進課,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
65歳以上の市民	A 65歳以上の市民	人	見込 実績	(実績) 14,506 13,860	14,554 13,568	14,602 13,724	14,649 13,969	14,697 14,173
	B		見込 実績					
	C		見込 実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
生きがいを持って、いきいきと暮らす。	A 生きがいを感じている高齢者の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			実績	77.8				
			目標		67.0	68.0	69.0	70.0
	B 要介護認定率(認定者数/1号被保険者数)	%	目標	19.2	19.2	19.2	19.2	19.2
			実績	19.2				
			目標		17.0	17.0	17.0	17.0
	C		実績	18.0	18.6	19.1	19.2	19.2
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					

2. 施策の目標達成のための 基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 地域ケア体制の充実	65歳以上の市民	住み慣れた地域で安心して暮らす。	a) 地域包括支援センターへの相談件数	件	実績	14,196	15,541	15,215	17,221	16,954
			b) 住み慣れた地域で安心して暮らしている高齢者の割合 (市民アンケート調査項目)	%	実績	H26年度より調査			66.1	68.9
② 介護サービスの充実と介護予防の推進	65歳以上の市民	介護予防をする。介護サービスを受ける。	a) 介護サービスを受けている高齢者の割合	%	実績	17.3	17.4	17.8	17.5	17.8
			b) 要介護・要支援認定者のうち認知症高齢者数	人	実績	1,610	1,784	1,853	1,889	1,933
③ 社会参加活動の推進	65歳以上の市民	地域とのつながりを持つ。	a) 地域と交流があると感じる高齢者の割合 (市民アンケート調査項目)	%	実績	75.1	71.2	69.7	67.4	72.6

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●地域内での声掛け、見守りなど地域での相互扶助を行う。 ●高齢者が地域での交流活動に参加しやすい環境をつくる。 ●高齢者自ら健康管理に努め、地域活動等に積極的に参加するとともに、趣味や就労への意欲を持ち続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での相互扶助のネットワークづくりや交流活動を支援する。 ●高齢者が安心して暮らすことができる基盤整備を進める。 ●高齢者の健康づくりや介護予防活動を支援する。 ●高齢者の経験や技能、資格を活かせる環境をつくる。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○全国の後期高齢者数が2025年にピークとなることから、国は2025年問題として、現在少子高齢化対策を強化している。</p> <p>○国においては、H27.4月の法改正により予防給付を始めとする介護保険制度全般の見直しが行われた。これに伴い、雲南広域連合においてはH29.4月から介護予防・日常生活支援総合事業を実施する予定である。</p> <p>○保険者である市町村や都道府県においては、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築するよう求められている。</p> <p>○国においては、家族の介護を理由とした離職率の低下に向けた政策が進められている。</p>	<p>○市民や議会からは予防給付制度の見直しに伴う在宅サービスの低下を懸念する意見がある。</p> <p>○施設入所の待機者の早期解消を求められている。</p> <p>○高齢者の移動手段の確保、買い物支援など生活支援の充実が求められている。</p> <p>○介護事業所からは、介護人材確保のための支援を求められている。</p> <p>○高齢者が要介護状態にならないための予防対策が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○生きがいを感じている高齢者の割合は、昨年度と比べ向上している。これは、地域活動や福祉ボランティア活動に参加している市民の割合が高いことから、これに比例していると考えられる。</p> <p>○要介護認定率は、横ばいである。要介護状態となりやすい後期高齢者の割合が横ばいであることが要因と考えられる。</p>	<p>○介護予防を重点的に行っているため、要介護認定率は、県平均と比較して低い。(県が既公表のH27.1月末実績:県21.14%、雲南市19.17%) 【出典:介護保険事業状況報告】</p> <p>○市内の特別養護老人ホームの居宅からの入所待機者数は、137人(昨年度より13人減)となっている。居宅からの待機者数を他団体比較すると、松江圏域646人(昨年度より5人増)、出雲市382人(昨年度より80人減)、雲南圏域177人(昨年度より42人減)である。雲南市は減少しているものの依然として待機が解消されていない。 【出典:特別養護老人ホーム入所申込者等実態調査(島根県:H28.1.1現在)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を上回った。 ○成果指標Bは、目標通りである。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 地域ケア体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議の運営方法の見直しにより、多機関、多職種で課題を共有できた。 ・地域包括支援センターを中心に総合相談窓口を置き、適切な支援につなげた。
② 介護サービスの充実と介護予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進協議会をはじめとした関係機関との連携により、認知症対策の推進を図った。 ・H26年度に策定した「認知症ケアパス」の普及啓発を推進した。 ・H27.4月から地域包括支援センター内に認知症地域支援推進員を1名配置し、認知症の相談支援の充実を図った。 ・第6期介護保険事業計画に基づき、介護保険サービスの基盤整備を行った。 ・「にこにこ教室」「はつらつデイサービス」「いきいきサロン」など、介護予防事業の推進を図った。
③ 社会参加活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市シルバー人材センター補助事業により、高齢者の就労の場の確保がなされ、社会参加を促進した。 ・老人クラブ活動支援事業により、高齢者が地域活動に参画する機会の促進が図られた。 ・H26から本格実施している高齢者等の外出支援のためのタクシー利用料金助成事業の利用者は年々増加している。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる環境を整備するとともに、地域活動をはじめ、高齢者の社会参加を促進する必要がある。</p> <p>○介護予防や認知症対策、さらに、地域や保健・医療・福祉と連携した活動の強化を図る必要がある。</p>	<p>○地域や保健・医療・福祉と連携し、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組む。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 地域ケア体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○総合相談窓口の充実を図る必要がある。 ○高齢者の生活支援の充実を図る必要がある。 ○高齢者が安心して暮らすことができる環境づくりを進める必要がある。 ○地域や医療・福祉の関係機関が連携した活動を強化する必要がある。 ○介護人材の確保・定着を図る必要がある(H28年度は、UIターン介護人材確保事業等に着手)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、地域包括支援センターを中心に総合相談窓口の充実を図る。また各種相談窓口で受理した相談が円滑に適切な支援につながるよう関係機関との連携強化を図る。 ○移動支援、買い物支援、見守りなどの生活支援の充実を図る。 ○地域包括ケアシステムの構築に向け、関係機関の多職種との連携を強化するため地域ケア会議の更なる充実を図る。 ○高齢者が安心して暮らすことができる施設サービスの充実や施設・住まいの確保に取り組むとともに、介護人材確保に努める。
② 介護サービスの充実と介護予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症の早期発見、初期支援により、認知症対策を推進する必要がある(H28年度に、認知症初期集中支援チームを設置)。 ○生活習慣病や運動器疾患の予防とともに、介護サービスの充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第7期介護保険事業計画の策定に着手する。 ○認知症初期集中支援チームにより、認知症の支援・充実を図る。 ○介護予防・日常生活支援総合事業への円滑な実施を図る。
③ 社会参加活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の社会参加活動を促進する必要がある。 ○高齢者の外出支援のためのタクシー利用料金助成事業の見直しを行う必要がある(H28年度に、制度の利用実績の分析及び見直しを実施)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の経験、技能及び資格を活かせる機会や環境をつくる。 ○健康づくり活動、ボランティア活動、交流活動などへの参加を促進する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 22 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	長寿障がい福祉課
	施策名		23.障がい者(児)福祉の充実	主管課長名 系原 幸子
			関係課	健康福祉総務課,健康づくり政策課,健康推進課,子ども家庭支援課,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市民	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472	
	B		見込						
	C		実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
目的 日常生活をいきいきと安心して暮らす。	A 障がい者が社会参加しやすい環境だと感じる市民の割合〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	30.0	31.0	32.0	33.0	34.0	
			実績	28.4					
	B 障がい者雇用率	%	目標	1.80	2.00	2.00	2.20	2.20	
			実績	1.83					
	C		目標	1.56	1.52	1.54	1.71	1.60	
			実績						
	D		目標						
			実績						
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 自立と社会参加の促進	市民	障がい者が社会参加しやすくする。	a) [施策成果指標A]障がい者が社会参加しやすい環境だと感じる市民の割合	%	実績	24.9	27.9	26.6	28.1	28.4
② 相談体制の強化	障がいのある市民及びその家族	障がいに関して相談する。	a) 相談件数(事業所の相談員が受けた件数)	件	実績	15,626	16,210	19,540	17,790	20,628
③ 福祉サービスの充実	障がいのある市民及びその家族	安心して暮らす。	a) 自立支援サービス利用件数	件	実績	7,049	8,206	9,036	9,579	9,935

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●障がいの理解を深め、障がいのある人の見守りや声掛けを行う。 ●障がいのある人も自ら積極的な社会参加に努める。 ●事業所では、障がい者の雇用機会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅福祉サービス・相談支援の充実により、地域生活への移行を支援する。 ●障がいのある人への理解について啓発を行う。 ●関係機関等と連携し、障がいのある人の就労・自立に向けて支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○近年、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者数は増加傾向にある。(H27年度末の手帳所持者数3,909人(身体障がい3,245人、知的障がい464人、精神障がい200人)その他医療証所持者等909人)特に、精神の通院医療受給者証の所持者が著しく増加している。</p> <p>○H26障害者総合支援法の施行に伴い、更に地域移行・社会参加を進めていくことになった。</p> <p>○H25障害者優先調達推進法の施行に伴い、障がい者の就労機会の拡充が図られている。</p> <p>○H27.4月に出雲養護学校雲南分教室が開校した。</p> <p>○障害者差別解消法の施行(H28.4.1)に伴い、啓発活動の強化が図られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者の相談・支援体制、地域生活への移行と自立に向けた就労支援の充実が求められている。 ○サービス事業所の充実が求められている。 ○市民の障がい者への理解促進や権利擁護の充実が求められている。 ○障がい者に配慮した生活基盤整備や災害時など緊急時対応の充実が求められている。

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○障がい者が社会参加しやすい環境だと感じる市民の割合は昨年度より向上しているものの、3割未満であり依然として低く、生活基盤整備など障がい者への配慮(公営住宅のバリアフリー化、道路の点字ブロック設置、公共交通のバリアフリー化など)や障がいのある方への理解が十分でないと考えられる。</p> <p>○障がい者雇用率は、H22年度1.56%からH27年度1.83%となり、若干伸びてはいるが、依然として国(1.88%)、県(2.13%)よりも低い。引き続き障がい者に対する理解促進や権利擁護、地域生活への移行及び就労支援に取り組む必要がある。(一般就労に移行する場合、支度金を本人に支給する制度あり(上限36,000円)。国1/2、県1/2、市1/2。)</p>	<p>○障がい者雇用率は、雲南市1.83%、公共職業安定所管内別で雲南1.78%、松江2.09%、浜田2.68%、出雲2.03%、益田2.25%、石見大田2.23%、県全体2.13%であり、他圏域比較するとやや低い水準である。 【出典:障害者雇用状況調査(島根労働局)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値をやや下回ったものの、目標値に近づいている。 ○成果指標Bは、目標値と同水準だが、依然低い水準である。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 自立と社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいに対する理解を求める啓発活動を行っているが、引き続き理解向上を図る必要がある。 ・スペシャルオリンピックスに参加することにより障がい児(者)の社会参加が促進された。
② 相談体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域自立支援協議会の相談支援部会において、相談支援事業所間の連携により、質の向上が図られた。 ・障がい者虐待防止センターで障がい者虐待の相談を受理し対応に努めた。
③ 福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度中にすべての利用者のサービス利用計画を作成したことにより相談窓口が確定し、状況に応じた切れ目ない相談ができるようになった。 ・H27年度に、放課後児童デイサービス事業所の開設(H28年4月)に係る支援を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいへの理解の拡大とともに、相談窓口の充実を図る必要がある。 ○在宅生活を支えるサービスを充実する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談支援事業所との連携により、相談窓口の充実を図る。 ○在宅生活を支える日中サービス等を充実し、地域生活を支援する。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 自立と社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいを理由とする差別解消の推進の取り組みを行う必要がある(H28年度において、市職員向けの「対応要領」、市民向けの「対応指針」を策定し周知及び研修を行う)。 ○就労に向けた継続的な支援や地域活動の機会を充実する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい福祉計画に基づき、福祉就労から一般就労に向かう方々の支援に努める。 ○障がいへの理解を深めるための啓発活動を強化し、就労に向けた継続的な支援や地域活動の機会の充実を図る。 ○障がい者の就業実習の機会を増やし就労に向けた活動を支援する。
② 相談体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な相談窓口の充実や相談機能の確保を図る必要がある。 ○発達障がいについて、相談・支援体制を関係機関と連携して整える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談支援事業所との連携を強化し、身近な相談窓口の充実、権利擁護、差別防止等に関する相談機能の確保を図る。 ○発達障がいについて、関係機関と連携し、状況に応じた切れ目のない相談・支援体制を整備する。 ○障がい者虐待防止支援センターの体制を強化し、障がい者支援を充実させる。
③ 福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において必要な支援の充実を図る必要がある(H28年度において生活介護サービス事業所を整備)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅生活を支える移動支援並びにその他日常生活において必要な支援の充実を図る。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 22 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康福祉総務課
	施策名	24.生活困窮者の支援	主管課長名	和田 誠
			関係課	長寿障がい福祉課,地域包括支援C,健康づくり政策課,健康推進課,子ども政策課,子ども家庭支援課,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
生活困窮者	A 被保護世帯数	世帯/月	見込	(実績)138	170	178	186	194
			実績	130	134	138	146	146
	B 被保護人数	人/月	見込	(実績)186	230	240	250	260
			実績	167	177	181	199	202
	C 非課税世帯数	世帯	見込	(実績)3,598	3,800	3,800	3,800	3,800
			実績	3,767	3,832	3,821	3,855	3,800
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
生活保護に陥らない、自立する。	A 生活保護率	%	目標	5.60	5.90	6.20	6.50	6.80
			実績	4.77				
			目標		4.00	4.00	4.00	4.00
			実績	3.98	4.30	4.46	4.99	5.09
	B 生活保護から自立した世帯数(死亡・転出は含めない)	世帯	目標	10	10	10	10	10
			実績	14				
			目標					
			実績	12	10	11	9	21
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
D		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 相談体制の強化	生活困窮者	相談しやすい体制をつくる。	a)生活相談件数	件	実績	56	64	27	33	36
② 自立に向けた指導支援の充実	生活困窮者	生活を立て直す。	a)[施策成果指標A]生活保護率	%	実績	4.30	4.46	4.99	5.09	4.77
			b)支援プログラム作成件数	件	実績	—	—	—	10	10
③ 就労支援の充実	働くことができる生活困窮者	就労する。	a)就労件数	件	実績	9	5	11	12	9
			b)[施策成果指標B]生活保護から自立した世帯数	世帯	実績	10	11	9	21	14

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員等は、早期に生活困窮者の相談に応じ、行政等へ繋ぐ。 ●生活保護から早期に自立できるよう努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活保護制度の適正な運用を図る。 ●生活困窮者世帯の自立に向け、関係機関と連携して支援する。 ●生活困窮者世帯の必要に応じた相談対応や支援を行う。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○H27.4月から生活困窮者自立支援法の施行により、自立相談支援、住宅確保に対する給付といった生活困窮者に対する市の義務付けがなされている。</p> <p>○経済状況の停滞が続き、不安定雇用や失業、また、生活に困窮される働きざかりの方、青年層及び母子父子世帯も増え、ケースが多様化している。</p>	<p>○生活困窮者が適正に相談を受けられるよう体制を強化する必要がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
○H27年度から生活困窮者自立支援制度の開始に伴い、生活保護に至る前段階の支援が充実した。 ○継続的な就労支援により、生活保護から自立した世帯数のうち、就労によるものが過半数を占めるなど、成果が向上した。	○H27年度生活保護率(平均) 島根県:8.81%、松江市:13.84%、出雲市:5.67%、安来市:6.35%、雲南市:4.77% 【出典:平成27年度福祉行政報告例(島根県)】 ○H27年度保護人数(平均) 島根県:6,139人、松江市:2,857人、出雲市:966人、安来市:253人、雲南市:186人 【出典:平成27年度福祉行政報告例(島根県)】	○成果指標Aは、実績値が目標値(5.60%)を超えていないことから、達成度は高いと考えられる。 ○成果指標Bは、目標値を上回った。

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 相談体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援・相談センターを設置(H27.4.1)し、生活困窮に関する相談業務(社会福祉協議会へ委託)を行った(94件/年)。 生活困窮者支援調整会議を毎月定期的に開催し、ケースに応じた個別プランを作成した。 民生児童委員協議会や医療・福祉関係機関に対し、生活支援・相談センターの制度の周知を図った。
② 自立に向けた指導支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援プログラム策定実施推進事業により策定したプログラムに基づき、就労支援員による就労支援、医療社会指導員による健康管理指導(医療機関への受診勧奨)等在宅生活の継続支援など、自立に向けた指導を行った。
③ 就労支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 稼働能力判定会議において、一般就労ができると判断した被保護者(26)名のうち、就労意欲喚起等支援事業により(9)名の就職につなげるなど、就労に対する支援を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援、相談体制の充実を図り、生活困窮者の自立に向けた支援を強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者自立支援ネットワーク会議により、課題解決に向けた今後の取組方針を検討する。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 相談体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会など関係機関との連携を図り、生活困窮者に対する相談・支援体制を強化する必要がある。 早期相談につながる体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもり対策ネットワークの構築に努める。 民生委員・児童委員等と連携し、早期相談につなげる。
② 自立に向けた指導支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関が連携して、住まいの確保や生活の立て直しに向けた指導・支援を充実する必要がある。 生活保護受給者に、必要な指導・支援を実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援調整会議により、自立に向けた支援計画を策定に努め、緊急的な住まいの確保に向けた市有施設の活用や生活の立て直しに向けた指導・支援の充実を図る。 ケースワーカー及び専門職(医療社会指導員・就労支援員)が、定期的な自宅訪問や主治医からの聞き取りを行い、必要な指導・支援を実施する。
③ 就労支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援体制を強化する必要がある。 関係機関との連携により、就労に向けて支援を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援員やハローワークのナビゲーターとの連携により、働く意欲の向上に向けた就労支援に努める。 ハローワークなど関係機関と連携し、就労に向けて支援を行う。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 22 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康福祉総務課
	施策名	25.地域福祉の充実	主管課長名	和田 誠
			関係課	地域振興課,長寿障がい福祉課,地域包括支援C,健康づくり政策課,健康推進課,子ども政策課,子ども家庭支援課,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
			実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
目的 地域で支えあう意識を高め、福祉活動を実践する。	A 地域福祉活動に関心がある市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			実績	67.8				
			実績	69.2	68.3	68.9	65.2	65.6
	B 福祉ボランティア活動をした市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	27.0	29.0	31.0	33.0	35.0
			実績	35.4				
			実績	23.0	22.0	23.0	24.0	25.0
	C		目標					
			実績					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 地域の福祉課題の明確化	市民	地域ごとに課題を明確にし、解決に向けた取り組みを行う。	a) 地域の福祉に係る課題を設定している地域自主組織の割合	%	実績	H27年度より調査				100.0
② 支え合う地域づくり	市民	地域で支え合う体制をつくる。	a) [施策成果指標A] 地域福祉活動に関心がある市民の割合	%	実績	68.3	68.9	65.2	65.6	67.8

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●地域内での声掛け・見守り等、地域相互扶助の意識を高める。 ●地域の福祉活動に積極的に参加する。 ●地域福祉活動を担う人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域自主組織、社会福祉協議会等関係機関との連携を図った推進体制をつくる。 ●地域福祉活動を担う人材育成と参加・参画しやすい環境づくりを支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○少子高齢化、人口減少が進展する中、日常の暮らしの困りごとを地域の課題として受け止め、地域の中で支え合い、解決していく福祉活動は益々重要になっている。</p> <p>○しかし現実には、核家族化や高齢化にともない、家族力の低下や地域住民の力やつながりが弱くなっているのが実情である。自らの問題を解決できない者が、公的なサービスにより生活の低下をかるうじて保つこともあり、公的サービスの必要性が高まってきている。</p> <p>○介護保険法改正に伴い、地域における介護予防・日常生活支援などの地域包括ケアシステムを構築・推進するため、地域での支え合いが一層重要となっている。</p> <p>○近年の大規模災害を受け、災害などによる緊急時対応に不安を持つ人が増えている。</p> <p>○H29.4月に社会福祉法の一部改正により、社会福祉法人による地域貢献が義務付けられることにより、貢献内容等について情報の提供が必要となる。</p>	<p>○地域福祉を含む地域活動全般を担う人材確保に対する行政支援の充実を求められている。</p> <p>○地域における福祉向上にむけ、民生委員・児童委員と自治会福祉委員との連携の強化が求められている。</p> <p>○議会から、民生委員・児童委員の負担を軽減するための取組みと、市民への理解を求めるとも必要であるとの意見がある。</p>

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標A、Bともに向上している。児童福祉活動や認知症サポーター養成講座への参加者の増加などが寄与したと考えられる。また、避難行動要支援者支援計画に基づく名簿作成の支援により、市民の意識の高揚が図られたと考えられる。地域自主組織福祉部と市社協等の効果的な関わりの中で、地域ごとの課題を明確にした活動が進みつつある。</p>	<p>○他団体と比較できる資料がないため、比較できない。</p>	<p>○成果指標Aは、成果は向上したものの目標値(70.0%)には達しなかった。 ○成果指標Bは、目標値を大幅に上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 地域の福祉課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自主組織の専門部の活動により市民の地域福祉に対する意識の高揚が図られた。 ・地域計画の策定(30の地域自主組織の約8割にあたる24組織で策定済・策定中)により、地域福祉に関する地域の個別課題の解決に向けた取組内容の方向性が定まりつつある。
② 支え合う地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員、自治会福祉委員及び地域自主組織における地域福祉推進員の連携によりし、地域活動の充実が図られてきている。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○自助・共助・公助による福祉活動を推進する必要がある。 ○地域課題を明確にして、地域の個別課題に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で支え合う意識を高め、体制を整え、自助・共助・公助による福祉活動を推進する。 ○地域、行政及び関係機関が連携し、地域の個別課題に取り組む。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 地域の福祉課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の状況や実態、問題・課題を把握し、地域課題の明確化を図った上で、地域福祉の課題解決に向けて、ケースに応じて実践していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域自主組織ごとに地域福祉の学習会や地域円卓会議を通じて、新たな課題の解決に向けた方法を学び、地域で検討し、実践に向けた取組みを推進する。
② 支え合う地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で支え合う機運を高め、地域ぐるみで取り組む環境をつくる必要がある。 ○地域の課題解決に向けた活動に取り組む必要がある。 ○地域における福祉向上にむけた推進体制の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行政及び地域は、声掛けや要支援者の把握など、地域で支え合う機運を高め、地域ぐるみで取り組む環境をつくる。 ○地域自主組織が中心となり、市及び社会福祉協議会と連携して、地域の課題解決に向けた活動に取り組む。 ○民生委員・児童委員、自治会福祉委員及び地域福祉推進員の連携強化により、地域における福祉向上にむけた推進体制の充実を図る。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 20 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	子ども政策課
	施策名		26.子育て支援の充実	主管課長名 狩野 明芳
			関係課	人権推進室,市民生活課,健康づくり政策課,健康推進課,子ども家庭支援課,学校教育課,キャリア教育推進室,市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
子どもの保護者と産み育てたい夫婦 ※子どもとは、乳幼児・児童・生徒(0歳～18歳)	A 18歳までの子どもを持つ世帯数	世帯	見込(実績)	3,258	3,040	2,975	2,918	2,857
	実績	3,429	3,515	3,280	3,372	3,239		
	B 参考指標)18歳までの子どもの数	人	見込(実績)	5,694	5,357	5,244	5,142	5,036
			実績	6,355	6,135	6,027	5,943	5,816
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
安心して子育てができる。	A 子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合(地域の視点) 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	62.0	63.0	64.0	67.0	70.0
			実績	62.4				
			目標				61.3	58.6
			実績					
	B 子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合(職場の視点) 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	56.0	58.0	60.0	62.0	65.0
			実績	49.7				
			目標				55.6	54.3
			実績					
	C 子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合(行政サービスの視点) 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	62.0	63.0	64.0	67.0	70.0
			実績	65.9				
			目標				61.3	61.1
			実績					
D 合計特殊出生率 (25年度以降の数値は雲南市算出値) ※合計特殊出生率は5年毎に厚生労働省より市町村毎の数値が公表される。単年度の数値は雲南市において算出した数値を用いる。	単位なし	目標	1.69	1.72	1.75	1.78	1.81	
		実績	平成28年中に算出予定					
		目標						
		実績	1.44	1.70	1.60	1.71	1.53	

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 地域における子育て支援の充実	保護者・地域	地域で子育てを支える環境がある。	a) [施策成果指標A] 子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合(地域の視点)	%	実績	H25年度より調査		61.3	58.6	62.4
			b) [施策29. 施策成果指標B] 地域の子どもを育てようと活動している市民の割合	%	実績	25.2	27.5	27.9	15.7	28.3
② 子どもの心と体の健やかな発達支援	保護者	子どもを健やかに育てる環境がある。	a) 乳幼児健康診査の受診率	%	実績	H26年度より調査			98.6	94.9
			b) 一人平均むし歯本数(1歳6か月、3歳、12歳)	本	実績	0.10 0.72 1.67	0.07 0.75 1.28	0.03 1.01 1.24	0.04 0.92 0.98	0.04 0.72 未(8月)
			c) 朝食欠食児の割合(1歳6か月、3歳)	%	実績	H25年度より調査		2.5・4.8	0.4・6.3	1.2・5.1
			d) ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある保護者の割合(3歳児健診)	%	実績	H25年度より調査		50.6	49.5	48.0
③ 子育てと仕事の両立支援	保護者	子育てと仕事を両立できる。	a) 保育を希望する児童の保育所・認定こども園への入所率(3月末) ※広域受委託を含む全て	%	実績	H25年度より調査		98.83	96.11	96.79
④ 子育て相談の充実	保護者	子育ての悩みが相談できる。	子育てに関する相談件数(子ども家庭支援センター及び雲南市児童相談窓口の子育てに関する相談件数による)	件	実績	H26年度より調査		404	691	
⑤ 経済的支援の充実	保護者等	子育てに係る経済的負担が軽減される。	a) [施策成果指標C] 子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合(行政サービスの視点)	%	実績	H25年度より調査		61.3	61.1	65.9

3. 施策の役割分担

① 市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	② 行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ● 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任をもち、心身の調和のとれた発達を図るよう努める。 ● 親子の愛着を育み、子どもに正しい生活習慣を身につけさせ、良好な家庭環境をつくる。 ● あらゆる人々が自分の知識と経験を活かしながら、地域ぐるみで子育てを支える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが家庭・地域で健やかに育つために必要な経済支援、環境整備、情報発信を行う。 ● 子どもを地域全体で育むための人材育成、ネットワークの構築などを支援する。 ● 子育ての不安や悩みに対して、関係機関と連携し、相談できる体制の充実を図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

① 施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	② 関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>OH27年度から、幼児期の学校教育や保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していく子ども・子育て支援新制度が始まっている。</p> <p>○核家族化の進行により、地域コミュニティとのつながりが希薄になる傾向がある。これは子育て相談が増加しているひとつの要因とも考えられる。</p> <p>○国策により女性の社会進出の拡大が見込まれ、共働きの増加が予測される。出産後1年未満に就労復帰を希望する女性が増加している。</p> <p>○国は保育士確保に向け、保育士の給与を引き上げる施策を推進している。</p> <p>○国は少子化対策に重点を置き、総合的に子育て・教育環境の充実に取り組む方針である(政府は、人口急減、超高齢化への流れを変えるため、結婚・妊娠・出産・育児への切れ目ない支援が重要であると認識を示している)。</p> <p>OH26年11月に、政府の専門調査会である「選択する未来」委員会は、50年後に1億人程度の人口規模を有し、将来的に安定した人口構造を保持することを目指すためには、2020年目途に年少人口の減少をとめる必要性を報告した。</p>	<p>○議会から、「待機児童の解消」「3歳未満児の保育ニーズへの対応」「臨時保育士や民間保育士の処遇改善」「放課後児童クラブの整備」「病児・病後児保育事業の充実」が求められている。また、貧困や児童虐待に対する取組み、出生率の向上、ファミリーサポートセンターにおける提供会員(子育ての援助をしたい人)の拡大といった意見もある。</p> <p>○UIターン者からは、年度途中に預けられる保育施設の充実を求める意見がある。</p> <p>○自宅で子育てする保護者からは、保育所の一時的預かり事業のニーズに対する拡充を求める意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度 (目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○成果指標A, Cは向上した。子ども医療費の無料化を義務教育終了まで拡充した点、第3子以降保育料の無料化、子ども家庭支援センターの設置による相談体制の充実など、経済的支援をはじめとする行政サービスが地域の子育て環境に対する満足度を向上させたと考えられる。 ○成果指標Bは、4.6ポイント低下しており、職場での子育て世帯に対する環境が不十分であると考えられる。</p>	<p>○国基準に対して“40%軽減”の保育料設定と、年度を通じて全ての土曜日を休まれる場合の土曜保育減免(さらに20%軽減)を実施しており、合わせると国基準の保育料の50%以上の軽減措置を行い、県内他市と比較し安い保育所保育料を設定している。 ○住んでいる地域が子育てしやすい環境であると感じる人の割合は、県平均と比べてほぼ同水準である。 [3つの視点/県平均(出典: 県政世論調査)・雲南市(出典: 市民アンケート)] ①職場の視点/県[調査項目見直しにより除かれる]-%・雲南市49.7%、②地域の視点/県55.8%・雲南市62.4%、③行政サービスの視点/県67.3%・雲南市65.9%</p>	<p>○成果指標A(地域の視点)は、目標通り。 ○成果指標B(職場の視点)は、目標値を下回った。 ○成果指標C(行政サービスの視点)は、目標値を上回った。 ○成果指標D(合計特殊出生率)については、未算出。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 地域における子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自主組織やPTA等で、子育て家庭の交流や世代間交流など子ども・子育てに関する活動を実施した(単事業:しまねすくすく子育て支援事業交付金の活用)。 ・放課後児童クラブは全16小学校区中8小学校区の9カ所で開設し、H27年度は委託6カ所、直営3カ所を運営した。H28.4月寺領児童クラブ開設に向けて取り組んだ。
② 子どもの心と体の健やかな発達支援	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診は、乳幼児の発達・発育の確認、早期支援、生活習慣病の予防等を目的に取り組んでいる。 ・子どもの心を育てることを目的としたブックスタート事業により、全ての子どもに絵本を手渡し、読み聞かせ等を行った。また、減メディア(スマートフォン等)について、掲示物による啓発も行った。 ・0歳児から小学校低学年までの発達段階に応じた運動遊びを、心と体の両面から体系的にまとめた「雲南市幼児期運動プログラム(実践編)」を策定(H28.3月)した。
③ 子育てと仕事の両立支援	<ul style="list-style-type: none"> ・病後児保育事業は、市内で2カ所実施している(大東、掛合)。利用者ニーズは高く、大東では増加傾向。みとや病後児保育室の開設のため整備を行った(H28.4月開始)。
④ 子育て相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度から子育ての総合相談窓口として子ども家庭支援センターを新設し、教育、保健、福祉、医療の関係機関との連携により、子どもや家庭に関する様々な相談に対応した。
⑤ 経済的支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育料は、国基準の6割とする軽減制度を設け、保育料の土曜減免(保育料の2割軽減)、H27年度より18歳未満の児童が3人以上いる世帯で、第3子以降の児童であれば教育・保育施設の保育料を無料とする「第3子以降保育料の無料化」を実施。 ・子ども医療費助成制度により、中学生まで医療費を無料化としている(H27.7月から開始)。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○多様化する保育ニーズに対応するためのサービス及び施設の充実に取り組む必要がある。 ○保護者の子育てに関する不安や悩みを解消し、子どもたちの健やかな発達を促す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様化する保育ニーズに対応するためのサービス及び施設の充実に取り組むため、認定こども園への移行や病児保育事業の開設に向け取り組む。 ○保護者の子育てに関する不安や悩みを解消し、子どもたちの健やかな発達を促す。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 地域における子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での子どもの見守りや多世代交流など、地域と行政が連携して取り組む必要がある。 ○保護者ニーズを踏まえ、施設の整備・充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での子どもの見守りや多世代交流、相談の場づくりをはじめ、放課後子ども教室、放課後児童クラブなどに地域と行政が連携して取り組む。 ○保護者ニーズを踏まえ、放課後児童クラブなどの施設の整備・充実を図る。
② 子どもの心と体の健やかな発達支援	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの基本的な生活習慣づくりや基礎的な体力づくりを支援する必要がある。 ○日々の生活や成長に合わせた切れ目のない相談・支援や健診の充実を図る必要がある。 ○全ての妊産婦の状況を継続的に把握し、フォローアップ体制を構築し、養育や発達に不安のある親子を支援する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の意識を高め、子どもの基本的な生活習慣づくり、むし歯予防、基礎的な体力づくりを支援する。 ○日々の生活や成長に合わせた切れ目のない相談・支援や健診の充実を図るとともに、関係機関と連携して、発達に心配のある子どもについて、早期からの支援に取り組む。 ○妊娠からの丁寧な関わりによりフォローアップ体制の充実を図り、発達や養育に不安のある親子を支援する。
③ 子育てと仕事の両立支援	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の就業環境の変化や多様化する保育ニーズに対応するため、制度の充実や教育・保育施設の整備に取り組む必要がある。 ○事業所・家庭における理解を深めるための啓発を行い、仕事と子育ての両立を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○認定こども園を推進する(H29年4月に、大東幼稚園を認定こども園に移行。H30.4月に、西幼稚園の認定こども園化を予定)。 ○待機児童解消に向け、3歳未満児の保育ニーズを踏まえ、待機児童対策として、教育・保育施設を整備する。 ○児童が病気の回復期に至らないが、症状の急変が認められない場合に利用できる病児保育施設を整備する(H30.4月に雲南市立病院近傍に病児保育室を開設予定)。 ○ワークライフバランス等の啓発(講座・パンフレット)を行い、仕事と子育ての両立を推進する。
④ 子育て相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てに関する悩みや不安、疑問について気軽に相談できる体制を強化し、切れ目のない支援実施のための関係機関・専門機関との連携を図る必要がある。 ○総合相談窓口である子ども家庭支援センターの周知を図る必要がある。 ○子ども家庭支援センターと関係機関の連携を強化し支援の充実を図る必要がある。 ○様々な子育て支援サービスにおける子育て相談機能の連携を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てへの不安や悩みに早期から対応するため、関係機関と連携し相談体制を整える。 ○子ども家庭支援センターを中心に庁内関係部局及び関係機関との協働・連携を促進し、支援や保護が必要な概ね18歳までの子どもへの相談及び支援を充実させる。
⑤ 経済的支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や子どもを産み育てたい人の経済的な負担軽減を図る必要がある。 ○結婚歴のないひとり親家庭に対し、寡婦(夫)控除のみなし適用実施に向けた検討を行う必要がある(H28年度中に検討に着手)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、保育料減免制度、子ども医療費助成制度、不妊治療費の費用助成などにより、保護者や子どもを産み育てたい人の経済的な負担軽減を図る。 ○子育てに対して、結婚歴の有無による経済的支援の差が生じないよう取り組みを推進する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 20 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	学校教育課
	施策名	27.学校教育の充実	主管課長名	佐藤 慎治
			関係課	長寿障がい福祉課,健康づくり政策課,健康推進課,子ども家庭支援課,教育総務課,社会教育課,キャリア教育推進室

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
児童・生徒	A 小学校の児童数(5/1基準)	人	見込 実績	(実績) 1,923 2,187	1,874 2,101	1,833 2,051	1,826 2,028	1,771 1,949
	B 中学校の生徒数(5/1基準)	人	見込 実績	(実績) 1,073 1,157	1,073 1,164	996 1,151	980 1,107	948 1,115
	C 市内にある高校の生徒数	人	見込 実績	(実績) 846 —	834 —	846 —	846 —	846 —
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
目的 基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。	A 全国学力調査結果(全国比較;小学6年・中学3年、国語)	ポイント	目標	1.0・1.8	1.1・1.9	1.2・2.0	1.3・2.1	1.5・2.2
			実績	▲2.0・1.5	—	—	—	—
			実績	▲3.9・▲0.3	▲1.0・1.5	0.6・2.4	▲3.1・2.0	▲1.3・0.7
	B 全国学力調査結果(全国比較;小学6年算数・中学3年数学)	ポイント	目標	0.4・1.5	0.5・1.6	0.6・1.7	0.7・1.8	0.8・1.9
			実績	▲1.0・▲0.8	—	—	—	—
			実績	▲3.8・1.9	0.3・5.2	▲5.6・1.9	▲2.8・▲0.8	▲4.3・▲0.5
	C スポーツテスト結果(県比較;小学5年・中学2年、男女平均)	ポイント	目標	1.5・2.5	1.5・2.5	1.5・2.5	1.5・2.5	1.5・2.5
			実績	1.04・1.04	—	—	—	—
			実績	2.3・2.9	▲8.4・0.5	0.28・0.65	0.8・▲0.22	0.4・0.36
	D 自分にはよいところがあると思う生徒の割合(中学3年生)	%	目標	65.0	70.0	75.0	80.0	80.0
			実績	70.1	—	—	—	—
			実績	71.8	69.4	65.3	64.5	72.5
	E 将来かなえてみたい夢がある生徒の割合(中学3年生)	%	目標	80.0	85.0	90.0	90.0	90.0
			実績	66.8	—	—	—	—
			実績	76.5	75.7	75.9	75.2	72.5

2. 施策の目標達成のための 基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① すべての子どもにわかりやすい授業づくりの推進	児童・生徒	ユニバーサルデザイン授業を推進する。	a) 学校の授業がわかると答えた児童生徒の割合(小学生・中学生)	%	実績	80.8 60.3	79.1 69.9	79.9 58.7	80.8 71.7	88.2 79.5
② 地域力を活かした教育の充実	児童・生徒	地域の力を活かして学ぶ。	a) 学校の勉強や活動で地域の人によくお世話になっていると思う児童生徒の割合	%	実績	88.3	90.5	90.7	66.5	70.3
③ 困難さを抱える児童生徒への支援の充実	児童・生徒	個に応じた教育・支援を受ける。	a) スクールカウンセラーへの相談件数	件	実績	—	—	—	602	509
			b) 不登校児童生徒の割合(小学生・中学生)	%	実績	0.33 3.69	0.49 3.30	0.44 3.62	0.46 3.68	0.52 3.54
④ 学校の施設・設備の充実	児童・生徒	充実した教育施設・設備で学ぶ。	a) 図書充足率(小学校・中学校)	%	実績	96.9 69.6	97.4 69.6	103.3 68.5	112.5 71.7	108.1 76.9
			b) 理科備品充足率(小学校・中学校)	%	実績	27.3 27.7	29.8 26.1	34.1 36.1	36.6 35.1	38.4 36.4
			c) 普通教室のエアコン整備率	%	実績	—	—	0.0	13.0	30.4
⑤ 規則正しい生活習慣の定着	児童・生徒	良い生活リズムを身に付け、基礎体力を付ける。	a) 朝食を毎日食べている児童生徒の割合(小学生・中学生)	%	実績	—	—	—	97.5 97.7	98.5 95.7
			b) 1日1回以上、家族でそろって食事している児童生徒の割合	%	実績	H27年度より調査				78.8

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●家庭では、子どもの心身の健康を育み、生活体験を通じて生活習慣や善悪の判断等規範意識の基盤をつくる。 ●地域では、子ども達が安心して活動できる安全な環境をつくり、子ども達に多様な体験の場を提供する。 ●学校現場への地域の積極的な関わりをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒の個に応じた教育環境をつくる。 ●支援が必要な児童生徒への支援体制を整える。 ●確かな学力の定着と、社会生活における生き抜く力を育む。 ●児童生徒が安心して学習できる安全な環境をつくる。 ●教員の教育力、資質向上を図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国においては、学習指導要領が改訂され、「確かな学力の定着」「わかる授業の展開」を重点的に推し進めている。</p> <p>○国において、平成32年度より小学校5、6年生の外国語活動を教科化する方向で検討が進められている。</p> <p>○国において、道徳を教科化する方向で検討が進められている。</p> <p>○県は、全県的に算数の学力向上に取組むため平成28年度より算数授業改善推進校事業をスタートさせた。(県内で8校指定。市内では掛合小学校が拠点校として指定されている。)</p> <p>○県内の全小中学校に35人学級を導入(※小学校1、2年生についてはH26年度から30人学級編成を導入)。</p>	<p>○『夢』発見プログラムの推進を求める議会意見がある。</p> <p>○教育相談・支援が必要な児童生徒への支援体制の充実が望まれている。</p> <p>○計画的な施設整備、教育教材・備品の充実などを求める意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度 (目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○成果指標A、B(全国学力調査結果)は、小中学生のそれぞれの項目において向上・低下が見られるが、大局的に見て横ばいである。 ○成果指標C(スポーツテストの結果)は、小学生、中学生ともに向上した。 ○成果指標D(「自分にはよいところがあると思う」と答えた生徒の割合)は、キャリア教育の推進により、自己有用感の高まりを示していると考えられる。 ○成果指標E(「将来かなえてみたい夢がある」生徒の割合)は低下しており、まだ具体的な将来の夢を持っていない生徒が多いと考えられる。 ○上記により、総じて成果はほぼ横ばいと判断した。</p>	<p>○成果指標A、B(全国学力調査結果)は、小学生においては全国平均を下回る。中学生においては、国語は全国平均を上回るが、算数は下回る。 ○成果指標E「将来の夢や目標を持っている(将来かなえてみたい夢がある)」と答えた児童生徒の割合(小学生82.7%、中学生66.8%)は、全国(小学生86.5%、中学生71.7%)や県(小学生84.5%、中学生70.4%)と比較しても低い水準にある。 【出典：全国学力・学習状況調査結果(文部科学省)】</p>	<p>○成果指標Dは目標値を上回ったが、その他の成果指標は目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① すべての子どもにわかりやすい授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保幼小中高までの一貫したキャリア教育のプログラムを策定した。 ・ 師範的な外部人材の活用により、教職員の資質向上に向けた研修や、児童生徒の習熟度向上を目的とした授業を行った。 ・ 学校司書配置校を3校(小学校:2、中学校:1)増やし、配置校では学校図書館を利用した授業が出来るようになった。今後、未配置校への対応が必要である。 ・ 小学校(3年生以上)の英語活動の推進のため、業務委託により前年度から継続して指導助手を配置した。 ・ 中学2年生を対象としたカタリバ授業を実施し、学ぼうとする意欲の向上につながった。
② 地域力を活かした教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コーディネーターや地域自主組織との関わりにより、ふるさと教育の充実が図られた。
③ 困難を抱える児童生徒への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ H27年度から、認定NPOとの業務委託により、教育支援センター(おんせんキャンパス内)を核とするあらたな不登校対策支援を開始した。 ・ 5歳児を対象とした発達に関するアンケート(すくすくアンケート)を悉皆で実施し、早期から支援を行うための足がかりとした。 ・ H27年度から幼児通級指導教室に指導員を配置し、早期からの通級指導を実施した。 ・ 特に日本語指導が必要な児童生徒に対する支援について、H27年度からは就学前の子どもも対象とするなど、日本語指導支援の充実に努めた。
④ 学校の施設・設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26～27年度にかけて中学校普通教室エアコン設置事業に取り組み、7校すべての整備が完了した。 ・ 老朽化が進む学校(校舎等)の計画的な修繕を進めている一方、学校現場では突発的な修繕の対応が求められている。時代の要請や生活スタイルに合わせた改修を進めていく必要がある。 ・ 学校施設備品の充足率が低く、対応が急がれる。
⑤ 規則正しい生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夢」発見プログラムに基づき、生活リズムと食に関する取り組みを継続していく必要がある。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保幼小中高までの連携を深め、学校、家庭、地域、行政の連携・協働により一貫したキャリア教育を更に推進していく必要がある。 ○ 児童生徒が抱える困難を解決するため、関係機関との連携による相談体制の強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『夢』発見プログラムによる保幼小中高の一貫したキャリア教育を推進し、教育の質の向上を図る。 ○ 学校・地域の連携強化に努め、地域人材の活用推進による教育の質の向上を図る。 ○ 困難を抱える児童生徒への早期からの支援の充実を図る。 ○ 計画的な学校施設等の整備を推進し、快適な教育環境を実現する。 ○ 学校、家庭、地域、行政の連携・協働により、心身ともに健やかな子どもを育てる。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① すべての子どもにわかりやすい授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館司書の配置を充実させていく必要がある。 ○ 引き続き、小学校の英語活動を推進していく必要がある。 ○ 教員の授業力向上を図る必要がある(H28年度においては、学力向上指導員を2名配置)。 ○ 児童生徒の学習意欲をさらに高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業づくり研修や指導主事による学校訪問、師範的な外部人材の活用により、教職員の資質向上、児童生徒の習熟度向上を図る。 ○ 多様な外部人材の活用・連携を図る。 ○ 『夢』発見プログラムを中心としたキャリア教育を推進する。 ○ 段階に応じた英語教育を推進する。
② 地域力を活かした教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のひと・もの・ことを活かしたふるさと教育をさらに推進する必要がある。 ○ 地域人材の確保と有効な活用のため、中学校区を基本とした学校間での情報交換を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校区におけるコミュニティスクール(学校運営協議会制度)の設置に取り組み、地域とともにある学校づくりを推進する。 ○ 地域のひと・もの・ことを活かしたふるさと教育を推進し、教育の質の向上を図る。
③ 困難を抱える児童生徒への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 困難を抱える児童生徒への支援が切れ目ないものとなるように取り組む必要がある。 ○ 長期化した不登校児童生徒への対応に取り組む必要がある。 ○ ひきこもり、別室登校の児童・生徒への対応に取り組む必要がある。 ○ 日本語指導が必要な児童生徒等への支援に取り組む必要がある(H28年7月から、日本語指導支援を、多文化共生の観点から一元的に雲南市国際文化交流協会へ委託により実施)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習に困難を抱える児童生徒への早期からの支援に保幼小中連携で取り組む。 ○ 経済的な理由により就学に支障のある児童生徒に対して支援を行う。 ○ 教育支援センターやスクールカウンセラー等による相談体制の充実を図る。 ○ 不登校を出さない学校づくりを進めるとともに、不登校対応プログラムによって学校への復帰を支援する。 ○ 日本語指導が必要な児童生徒等への支援を、多文化共生社会の実現に向けた取組みとして一体的に推進していく。
④ 学校の施設・設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通教室のエアコン未設置の小学校への設置を進める必要がある(H28年度においては、全ての小学校に設置)。 ○ 学校図書、備品の充足率を高める必要がある。 ○ スクールバスの年次的な更新が必要である。 ○ 学校施設の計画的・継続的な修繕を進める必要がある。 ○ 学校給食センター整備基本構想に基づく計画的な整備が必要である(H28年度においては、基本計画を策定)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育教材や備品の充実など、学習環境の整備を進める。 ○ スクールバスの年次的な更新や通学路・周辺環境の維持管理に努める。 ○ 老朽校舎等の長寿命化に向け、計画的な改修を進める。 ○ 統合学校給食センターの建設に向け、整備計画を進める。
⑤ 規則正しい生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の基本的な生活習慣づくりを、家庭、地域と連携して進めていく必要がある。 ○ メディアとの適切な関わり方について指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『夢』発見プログラムに基づき、生活リズムと食に関する取り組みを推進する。 ○ 子どもたちの基本的な生活習慣づくりを進めるとともに、学校において授業改善や体育的行事を工夫することにより、効果的に基礎的な体力づくりを推進する。 ○ 身体教育医学研究所うなんなどの専門機関と連携し、適切な運動に親しむ活動を促進する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 17 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
	施策名	28.生涯学習の推進	主管課長名	景山 修二
			関係課	地域振興課,子ども家庭支援課,学校教育課,自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472	
	B		見込						
			実績						
	C		見込						
			実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
生涯を通じて自ら学び、人生を豊かにする。	A 日頃から学習活動を行っている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0	
			実績	30.4					
			目標		36.0	37.0	38.0	39.0	
				実績	39.6	34.2	35.5	36.2	31.8
	B		目標						
			実績						
			目標						
				実績					
	C		目標						
			実績						
			目標						
				実績					
	D		目標						
			実績						
			目標						
			実績						
E		目標							
		実績							
		目標							
			実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 学習機会の充実	市民	学習の機会を確保する。	a) 地域自主組織が独自に開催した学習機会(研修会等)の回数	回	実績	H26年度より調査			81	152
② 学習環境の充実	市民	充実した施設・設備を利用する。	a) 生涯学習環境が整っていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	実績	43.1	37.5	39.4	35.8	36.8
			b) 図書館利用者数(貸出冊数)	冊	実績	—	—	32,113 (157,460)	32,452 (159,435)	33,773 (166,530)

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●自ら進んで教養を高めるため学習活動に取り組む。 ●地域ぐるみで学習する機会や環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の自発的な学習を支援するための機会や環境の充実に努める。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○高度情報化社会の進展により、インターネットを利用した生涯学習の取り組みが増えている。</p> <p>○ライフサイクルや経済情勢などが、住民の学習意欲に影響している。</p> <p>○全ての国民が、「生きる力」や「総合的な力」を身につけられるよう、いつでも、そのライフステージや置かれた状況に応じた学習の機会が得られ、学習活動が継続でき、その成果を社会生活・職業生活に適切に生かすことができる生涯学習社会の実現が一層求められている(H25.1月 中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理)。</p>	<p>○生涯学習活動の着実な推進を求められている。</p> <p>○外国にルーツ(由来)を持つ児童生徒の日本語指導支援を含め、多文化共生に向けた取組みの充実が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標Aは、1.4ポイント低下した(ほぼ横ばい)。学習機会の提供や学習活動の継続に係る支援の取組みとして、個人ニーズの多様化や様々なライフステージに対応しきれていない面があると考えられる。一方、年代別で見ると、65歳以上の年代で大幅な向上が見られるが、地域自主組織・自治会単位で開催される研修会や出前講座に参加する人が増加したと考えられる。</p>	<p>○島根県全体で生涯学習に取り組んでいる人(趣味や教養を高めるために講座の受講、講演会への参加、習い事、自主学習などに取り組んでいる人)の割合は、H22:26.9%、H23:30.5%、H24:31.8%、H25:30.4%、H26:29.9%、H27:30.8%である。雲南市市民アンケートでは、H22:39.6%、H23:34.2%、H24:35.5%、H25:36.2%、H26:31.8%、H27:30.4%であり、比較するとほぼ同水準である。 【出典:島根県政世論調査】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自主組織が独自に開催した学習機会の回数が、前年度に比べ71回増加し、多くの市民に学習機会が提供された。 ・地域自主組織で行われる生涯学習活動に対し、地域づくり担当職員を中心に交付金の交付等の支援を行った。 ・国際文化交流協会事業では、小中学生を対象とした英語スピーチコンテストや早稲田大学留学生の受け入れ等が行われ、国際感覚を高める学習機会の提供が図られた。 ・多文化共生の推進に向け、民間団体と連携し、様々な国の文化を学ぶ講座や交流事業を年3回実施した。
② 学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書システムのデータベースサーバの更新を行い、蔵書の充実や利便性の向上など図書館の更なる充実に努めた。 ・図書館業務の民間委託(株キラキラ雲南)や加茂福祉会・NPOふれんどによる図書の返却等のサービス提供により、図書の貸出冊数が増加した。 ・「大東図書館整備検討委員会」をH27.6月に発足し、大東図書館の整備について協議を行った。 ・「掛合総合センター・掛合交流センター建設推進委員会」が開催され、掛合図書室の整備について協議を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○地域自主組織による生涯学習・社会教育円卓会議の中で、地域における学習活動の情報交換を行うなど、新たな事業展開に向けた議論が必要である。</p>	<p>○地域自主組織との情報交換に努め、交流センターを拠点とする生涯学習活動を支援していく。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 学習機会の充実	<p>○地域自主組織の生涯学習活動を充実させる必要がある。 ○国際文化交流協会と連携した学習機会の提供に努める必要がある。 ○多文化共生に向けた取組みを推進していく必要がある(H28年度においては、雲南市国際文化交流協会へ多文化共生業務を委託し、関係機関との連携強化、外国人相談窓口の設置、在住外国人のネットワーク作り等に着手。併せて、日本語指導が必要な児童生徒への支援(就学前支援・小中学校への日本語指導支援員の派遣等)を共生の観点から一元的に委託により実施)。</p>	<p>○各地域自主組織において、生涯学習活動が積極的に取り組まれるよう、研修会をはじめ様々な情報を提供する。 ○各地域で生涯学習を推進するための人材育成を支援していく。 ○国際文化交流協会と連携し、留学生の受け入れに合わせた学習・交流事業や多文化共生社会の実現に向けた取組みの推進を図る。</p>
② 学習環境の充実	<p>○交流センターなどの生涯学習施設を適正に管理していく必要がある。 ○図書館・図書室の整備・改修について、計画的に実施していく必要がある(H28年度においては、大東図書館及び掛合図書室の実施設計に着手)。 ○「雲南市子ども読書活動推進計画(H27年度～31年度)」に基づき、子どもが本に興味や関心をもち、進んで本に親しもうとする気持ちを育んでいく必要がある。</p>	<p>○交流センター整備・改修について、交流センター施設整備計画を指針とし対応を図っていく。 ○図書館・図書室の整備・改修を計画的に推進する。 ○「雲南市子ども読書活動推進計画(H27年度～31年度)」に基づき、関係機関や読み聞かせ活動に参加しているボランティアの方々と協力しながら、読書活動の推進に向けた取組みを行う。</p>

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 17 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課 主管課長名	社会教育課 景山 修二
	施策名	29.青少年健全育成の推進	関係課	地域振興課,危機管理室,健康福祉総務課,健康づくり政策課,健康推進課,子ども政策課,子ども家庭支援課,学校教育課,キャリア教育推進室

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
社会的	青少年(就学後～30歳未満の市民)	A 就学後から30歳未満の人口	人	見込 実績	(実績) 6,632 7,790	6,826 7,350	6,846 7,160	6,831 6,933	6,814 6,744	
		B		見込 実績						
		C		見込 実績						
	社会的	社会でたくましく生き抜く力を身に付ける。	A 補導人数(雲南圏域)	人	目標 実績	50 47	48	46	44	40
			B 地域の子どもの育てようと活動している市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標 実績	29.0 28.3	31.0	33.0	34.0	35.0
			C		目標 実績		27.0	29.0	31.0	33.0
					目標 実績		25.2	27.5	27.9	15.7
					目標 実績					
					目標 実績					
				目標 実績						
				目標 実績						
				目標 実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 正しい生活態度を身に付けるための家庭・地域の教育	青少年	正しい生活態度を身に付ける。	a) 親学プログラムの参加人数	人	実績	120	142	371	389	1,081
			b) 地域自主組織等における通学合宿の箇所数・参加者数	箇所・人	実績	H26年度より調査		7・91	7・70	
			c) PTA等によるメディア教育の実施箇所数	箇所	実績	H26年度より調査		22校	22校	
② 地域における交流体験・学習活動の推進	青少年	たくましく生き抜く力を身に付ける。	a) 地域自主組織等における通学合宿・キャンプの実施回数・参加者数	回・人	実績	H26年度より調査		18・416	18・292	
			b) 土曜学習等の実施回数、参加者数	回・人	実績	—	—	—	5回・中89人、高114人	高校7回103人/中学8回187人
③ グローバル人材の育成	青少年	グローバル社会に対応していく力を身に付ける。	a) 青少年海外派遣事業の参加者数	人	実績	9 (韓国)	7 (アメリカ)	7 (韓国)	7 (アメリカ)	4 (韓国) ※東京
			b) 国際交流員の訪問回数(学校訪問)	回	実績	65	63	54	53	53

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●「地域の子どもは、地域で育む」という機運をつくる。 ●地域での通学合宿や野外活動により、青少年に生き抜く力を身に付けさせる。 ●見守りボランティアなどにより、青少年が安心して健やかに暮らせる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関等とともに青少年の健全育成活動を支援、推進する。 ●有害情報から青少年を保護するとともに、犯罪被害を防止するための環境整備に取り組む。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○人口減少や少子高齢化が進み、核家族も増加傾向にある。加えて、経済状態の低迷等で、家庭のゆとりが失われ、団欒時間の減少や家庭の教育力の低下が懸念される。</p> <p>○高度情報化社会の進展により、青少年が事件や事故に巻き込まれる危険が増加している。</p> <p>○青少年の人的な成長に不可欠な様々な体験学習や、ニート(若年無業者)・引きこもり等の若者が社会生活を円滑に営む上で必要な社会的・職業的自立のための学習支援が求められている。</p> <p>○文部科学省においてH28.1月に策定された「次世代の学校・地域」創生プランにおいて、地域と学校がパートナーとなり、子ども、若者、高齢者等が地域の一員として活躍できる場を創出することが求められている。</p>	<p>○情報メディア教育に関する取り組みを推進していくための意見や情報提供が求められている。</p> <p>○民生児童委員・主任児童委員からは若者、引きこもり対策の充実要望の意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度 (目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○補導人数は、H26年度と比べ20人減少した。47人のうち、非行少年が10人で、前年に比べ2人増加となった(10人の内、凶悪犯の補導人数が前年4人から0人に減少)。また、不良行為少年が37人で、前年に比べ22人(37.3%)減少した(昨年に比べ、粗暴行為が増加)。非行少年の7割を小学生が占めており、非行の低年齢化がうかがわれる。 ○地域の子どもを育てようとしている市民の割合は、約3割。地域自主組織や自治会単位で子どもの見守りや健全育成活動に関わる大人が増えてきていると考えられる。</p>	<p>○島根県における少年の補導状況(H27年度)は非行少年及び不良行為少年の合計は1,263人(H26より497人減)であり、うち雲南警察署管内は47人であった。人口比率で考えると補導件数は比較的少ない。これは、近隣他市と比較し、非行防止教室、環境美化活動、自然体験など、地域で地域の子どもを見守る環境づくりや各種健全育成事業が盛んであるということが要因として考えられる。 【出典：平成27年少年補導のあゆみ(島根県警察本部)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を上回った。 ○成果指標Bは、目標値を下回ったものの、ほぼ目標通りの実績である。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 正しい生活態度を身に付けるための家庭・地域の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市青少年健全育成協議会における支援活動により、各団体(地域自主組織、JR木次線通学生保護会、ボーイスカウト等)が取り組む各種体験事業、合宿、交流活動の推進に結びついている。 ・雲南市青少年健全育成協議会の活動として、研修会などの充実を図る必要がある。 ・年間を通して親学プログラムに計画的に取り組み、昨年度より692人多い、1,081人の参加を得た。参加者同士の交流につながると共に、親としての役割・子どもとの関わり方について気づきを促す機会を提供した。
② 地域における交流体験・学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域自主組織による通学合宿やキャンプなどの実施により、将来、社会を生き抜くために必要な体験活動が提供されている。 ・放課後子ども教室推進事業の実施により、児童の安全で有意義な放課後の活動に結びついている。 ・地元ボランティアの高齢化、減少が課題であり、新規ボランティアの確保に向けた周知を図る必要がある。
③ グローバル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習「自分をつくる楽校」に年間を通じて取り組み、雲南の魅力発見などふるさと雲南に誇りを持つキャリア教育に取り組んだ。 ・青少年海外派遣等交流事業では、市内の中高生(H27:4名)が韓国清道郡(ちよんどぐん)を訪問し、異文化体験及び交流活動を行う予定であったが、MERSコロナウイルスの感染が韓国国内に広がったため、東京都内での韓国文化の体験・研修を行った。 ・国際交流員、市民団体との協働により、園児・児童が多文化に触れる機会を提供した。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○家庭における教育力の向上や、市民総参加による青少年健全育成に取り組み、学校、家庭、地域、行政の連携による交流・体験活動の推進を図るとともに、少年非行の未然防止やいじめ防止等に努める必要がある。</p>	<p>○引き続き、家庭における教育力の向上や、市民総参加による青少年健全育成に取り組み、学校、家庭、地域、行政の連携による交流・体験活動の推進を図るとともに、少年非行の未然防止やいじめ防止等に努める。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 正しい生活態度を身に付けるための家庭・地域の教育	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な体験を通じて、規範意識や社会性を身につけ、ふるまい推進を促す必要がある。 ○中高校生の幸雲南塾を月2回行い、学習習慣の定着、将来の進路に必要な力を育むプログラムを実施します。 ○子どもに規則正しい生活態度を身につけさせる必要がある。 ○親学プログラムをさらに充実していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識や社会性を身につけるためのふるまい推進や規則正しい生活を送るための情報モラル教育に取り組んでいく。 ○親(保護者)を対象とした参加型学習における親学プログラムの活用を積極的に行うとともに、親学の指導者を養成していく。 ○家庭や地域で、子どもたちを育む取り組みを進めるため、「うんなん家庭の日」の啓発に引き続き取り組んでいく。 ○おんせんキャンパスにおいて、支援が必要な若者(高校在校生)への対応を充実させる。
② 地域における交流体験・学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の大人が青少年の育ち・学びに関わる機会として、土曜学習等を増やすとともに、多世代交流や体験活動の充実を図る必要がある。 ○放課後子ども教室推進事業に引き続き取り組み、地域と子どもの交流、安全で有意義な活動を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活かした魅力ある体験プログラムの企画・提供を行う。 ○地域自主組織における通学合宿や放課後子ども教室・ふるさと教育など、青少年がたくましく生き抜く力を身に付ける体験活動に取り組んでいく。 ○NPO法人や教育に志のある若者等との協働による学習活動に取り組んでいく。
③ グローバル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○異文化を学ぶ機会や交流の場を提供し、コミュニケーション能力やチャレンジ精神など、青少年のグローバル資質を高める必要がある(H28年度は、プラチナ未来人材塾@会津へ中学生7人を派遣し、リーダー層の育成に取り組む)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年海外派遣及び相互交流により、異文化に触れる機会を提供し、国際感覚豊かでたくましく生き抜く青少年を育成していく。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 17 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	人権推進室
	施策名	30.平和と人権の尊重	主管課長名	陶山 清男
			関係課	学校教育課,社会教育課,自治振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市民	A 人口	人	見込(実績)	38,990	38,968	38,477	37,987	37,496	
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472	
	B		見込						
			実績						
	C		見込						
			実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
目的 平和の意義を理解するとともに、人権を守り、お互いを尊重しあう。	A 自分自身が差別や人権侵害を受けたと感じる市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	14.0	13.0	12.0	11.0	10.0	
			実績	11.9					
	B 他人の人権を侵害したと感じる市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	4.5	4.3	4.0	3.8	3.5	
			実績	4.8					
	C 平和に関する活動に参加した市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	13.0	14.0	16.0	18.0	20.0	
			実績	11.1					
	D		目標						
			実績						
	E		目標						
			実績						
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					

2. 施策の目標達成のための 基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 学校・家庭における平和・人権教育の推進	市民・児童生徒	平和・人権教育を受ける。家庭において人権を尊重し合う。	a) いじめや差別はいけないと感じる児童生徒の割合	%	実績	H26年度より調査			95.3	95.1
② 地域における平和・人権の尊重	市民	地域において人権を尊重し合う。	a) 研修会参加人数(地域自主組織向け)	人	実績	523	518	320	311	387
③ 職場における平和・人権の尊重	市民	職場において人権を尊重し合う。	a) 研修会参加人数(雲南地域同和問題企業等連絡協議会主催事業)	人	実績	105	105	117	116	110

3. 施策の役割分担

① 市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	② 行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
●平和と人権・同和問題に対しての正しい知識と理解を深め、自分の問題として捉え、暮らしの中で実践する。	●「平和を」の都市宣言及び雲南市人権施策推進基本方針(第1次改定)に基づき、平和と人権の教育・啓発活動や学習機会の提供を行う。

4. 施策の状況変化・住民意見等

① 施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	② 関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
○インターネット等による人権侵害、災害時の人権問題、性同一性障がい者等の権利など、新たな人権課題への対応が求められている。 ○人権問題に対する認識は高まっているが、社会変化に伴って、複雑化、多様化し、未解決の人権課題が依然として存在している。知的理解に留まり、人権感覚が十分に身につけていない、日常の生き方に繋がっていない現状がある。 ○障害者差別解消法に基づき、不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供が求められている。 ○H28.6月に「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(所謂ヘイトスピーチに焦点を当てた法律)」が施行されている。	○市民から、住みよい明るいまちづくりに向けて、人権・同和教育、啓発活動の取組みの継続を求められている。 ○様々な差別への啓発活動の強化を求められている。

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度(目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
---	---	---

<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○自分自身が差別や人権侵害を受けたと感じる市民の割合は、H26年度と比較し1.2%低下(成果としては向上)し、啓発活動が市民に浸透していると考えられる。</p> <p>○他人の人権を侵害したと感じる市民の割合は、H26年度と比較し、1.5%低下(成果としては向上)し、啓発活動が市民に浸透していると考えられる。</p> <p>○平和に関する活動に参加した市民の割合は、H26年度と比較し、1.0ポイント下がっているが、ほぼ横ばい。継続的な取組みが地域に根付いていると考えられる。</p>	<p>○県がH23に実施した調査(5年に一度)によると、①「過去に自分自身が差別や人権侵害を受けたことがある。」割合は、県平均27.2%、松江・安来27.4%、出雲27.8%、浜田23.5%、益田28.7%、隠岐25.0%、雲南28.0%であった。(参考:市独自アンケートでは、過去1年に受けた割合11.2%)。②「他人の人権を侵害したことがある。」割合は、県平均8.1%、松江・安来6.9%、出雲7.8%、浜田8.3%、益田12.8%、隠岐7.5%、雲南8.4%であった。(参考:市独自アンケートでは、過去1年に侵害した割合3.6%)</p> <p>【出典:人権問題に関する県民意識調査(H23:島根県)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を上回った。</p> <p>○成果指標Bは、目標値をやや下回ったものの、ほぼ目標通り。</p> <p>○成果指標Cは、目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 学校・家庭における平和・人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・永井隆平和賞(作品募集・平和式典)や永井隆記念館の活用など、「夢」発見プログラムによる平和と人権に関する取組みとして、永井隆博士の生き方を学ぶ機会が市内小中学校に浸透している。 ・「夢」発見プログラムの「平和と人権」の共通題材として、世界の平和運動の先駆者として活躍された上代タノ先生の生き方や功績を学んでおり、思いやりの心を持ち命を大切にすることの育成を目指している。 ・戦後70周年を迎えたH27年度は、「永井博士から学ぶこと～平和・未来につなごう～」をテーマとした市民による話し合い・報告会の開催、年度末で閉校した旧飯石小学校での平和学習の取組発表会の開催など、教育・啓発活動をさらに充実させ、市民の意識の高揚を図った。 ・学力・進路保障運営事業により、月例の情報交換や保護者懇談会・学校訪問等により、子どもと保護者、地域、学校、行政の交流による信頼関係の構築を図っている。
② 地域における平和・人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・定例公開講座(6回)、同和問題地域講座(4回)など、地域での研修が年間を通じ開催し、広く人権について学び、考える機会を提供した。 ・市民(2,000人無作為抽出)を対象に、人権に関する意識調査を行った。
③ 職場における平和・人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・市職員等(市立病院・広域連合等含む)、市内教職員、雲南地域同和問題企業等連絡協議会における研修会を開催し、職場・雇用環境における差別や人権侵害の予防・解決に努めている。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○研修会等を継続し、正しい理解と認識を深めていく必要がある。 ○相談機関、運動団体と連携を図っていく必要がある。 ○市民が平和の意義を理解し、実践につながっていくことが必要である。 ○市民の人権意識を把握・分析し、問題解決に向け取り組む必要がある(H28年度においては、前年度実施した市民意識調査の報告書を公表)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校、家庭、地域、職場における学習会などを継続的に実施することにより、人権・同和問題についての教育・啓発を推進する。 ○戦後70周年を経過し、引き続き『『平和を』の都市宣言』の地として、平和教育に取り組んでいく。 ○市民意識調査の結果を踏まえ、問題解決に向けて取り組んでいく。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 学校・家庭における平和・人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・PTAとの連携により、平和と人権に関する取り組みを推進する必要がある。 ○人間形成の基礎を育むために学習機会を提供する必要がある。 ○人権侵害の防止に努める必要がある。 ○家庭における子どもの人権などに関する相談体制の整備・充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○『夢』発見プログラムに基づいた平和と人権に関する取り組みを推進する。 ○幼児期から「相手のことを思いやる」「生命を大切にすること」心など、人間形成の基礎を育むために、PTA等での学習機会を提供する。 ○学校・PTAとの連携により、インターネット被害にあわないこと、SNS等の利用に関する指導を行い、人権侵害の防止に努める。 ○関係機関との連携を強化し、引き続き相談体制の充実に努める。
② 地域における平和・人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ○平和と人権について考える学習会や啓発などを行う必要がある。 ○新たな人権課題への対応に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関・地域自主組織等との連携により、平和と人権について考える学習会や、先人の生き方に学ぶための教材・施設等の活用に向けた啓発を行う。 ○永井隆記念館が老朽化しており、整備に向けて具体的な計画を進めて行く。 ○あらゆる差別や人権・同和問題とともに、新たな人権課題への対応に取り組む。
③ 職場における平和・人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ○働く女性の人権やあらゆるハラスメント、同和問題について学び、考える学習会や啓発などを行う必要がある。 ○職場・雇用環境における差別や人権侵害の予防・解決に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業者・雇用主の協力のもと、働く女性の人権やあらゆるハラスメント、同和問題について学び、考える学習会を行う。 ○相談窓口の周知と充実を図り、職場・雇用環境における差別や人権侵害の予防・解決に努める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 21 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
	施策名	31.生涯スポーツの振興	主管課長名	景山 修二
			関係課	長寿障がい福祉課,健康づくり政策課,健康推進課,身体教育医学研究所,教育総務課,学校教育課,全国高校総体推進室

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
			実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
生涯を通じて、スポーツや運動に親しむ。	A 週1回以上(1回30分以上)スポーツや運動をしている市民の割合<市民アンケート調査項目>	%	目標	41.0	42.0	43.0	44.0	46.0
			実績	36.6				
			目標		42.0	43.0	44.0	45.0
			実績	37.5	35.5	37.1	38.5	38.3
	B		目標					
			実績					
			目標					
	C		実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
目標								
			実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① スポーツや運動をする機会の充実	市民	スポーツや運動の機会を確保する。	a) [施策成果指標A] 週1回以上(1回30分以上)スポーツや運動をしている市民の割合	%	実績	35.5	37.1	38.5	38.3	36.6
② スポーツ環境の充実	市民	気軽にスポーツに親しめる環境を確保する。	a) 雲南市のスポーツ環境が整っていると感じる市民の割合<市民アンケート調査項目>	%	実績	34.2	38.0	35.7	33.8	36.8
			b) 体育施設利用者数	人	実績	222,337	259,351	266,344	273,020	253,136

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●日頃からスポーツや運動に親しみ、実践する。 ●地域ぐるみでスポーツに親しむ機会や環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツや運動の機会の提供・普及啓発に努める。 ●スポーツや運動を普及・振興する人材を育成する。 ●スポーツや運動に親しむ環境整備に努める。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○住民の健康への関心は高まり、健康維持のための運動を行う方が増え、生涯スポーツが重要視されてきている。また、平均自立期間も長く、元気で運動する高齢者も増加している。</p> <p>○人口減少等により、特に競技スポーツの団体では、構成員の減少による団体継続への影響が危惧されている。</p> <p>○市内で総合型地域スポーツクラブ等、広域的に参加できる団体が浸透しつつある。</p> <p>○スポーツ庁設置法により、H27.10月に新たに「スポーツ庁」が設置された。</p> <p>○2020年夏季オリンピック東京大会の開催に伴い、国民のスポーツへの関心が高まっている。</p>	<p>○市民や議会から、体育施設・運動機器の修繕、更新を求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○H26年度と比較し、1.7ポイント低下した。 ○年代別で見ると30代では26.5%から40.0%に向上するなど、健康志向の高まりから少ない余暇を運動に費やす人が増加したと考えられる。一方で、50歳代～64歳までの青壮年層は20%台前半と比較的低い水準であり、スポーツや運動以外の活動(例:自治会活動、農作業など)が多い年代であると考えられる。</p>	<p>○週1回以上スポーツや運動をしている市民の割合は、県平均36.4%とほぼ同水準であった。 【出典:平成27年度 島根県政世論調査】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① スポーツや運動をする機会の充実	<p>・「雲南市スポーツ推進計画(H27年3月策定)」に基づき、市民が生涯にわたってスポーツに親しむことができる取組みを推進した。 ・H25～27の3カ年にわたり「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」に取り組み、小学校へは体育コーディネーター、中学校・スポーツ少年団へはトップアスリートを派遣した。また、地域課題解決事業としてスポーツ祭りや親子バスケットボール教室等を開催し、スポーツ活動の充実を図った。(3年間延べ実績…①体育CN派遣11名、39校、16,090人 ②部活動等派遣56名、62団体、217回、③地域課題解決10回、1035名) ・体育協会等の活動を支援し、スポーツの振興を図った。 ・スポーツ少年団やスポーツ推進委員等の活動を支援し、スポーツの振興を図った。 ・幅広い世代において各自の興味関心や競技レベルに合わせて取り組める総合型地域スポーツクラブでの活動推進を図った。 ・スペシャルオリンピックス日本・島根事務局(H26.4月設立)において、陸上・水泳・バスケットボールなどの競技に取り組み、大会等に出場した。 ・全国高校総体(ボート競技 H28.7月～8月開催)の啓発活動や全日本(JARA)マスターズレガッタを開催するなど、気運の醸成を図った。 ・加茂B&Gレスリングクラブに所属している小学生が、全国少年少女レスリング選手権をはじめとする様々な全国大会に出場し、優勝をはじめ、数多くの好成績を残した。</p>
② スポーツ環境の充実	<p>・健康づくり拠点施設整備計画を策定し、基本設計を行った。 ・AEDを新たに1施設(大東ふれあい運動場)に設置した。 ・体育施設の耐震補強設計を2施設(大東体育館・吉田勤労者体育センター)において実施した。 ・三刀屋文化体育館アスファルトをはじめ、市内各体育施設の修繕を行った。</p>

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○市民が生涯においてスポーツや運動に関わる環境づくりを推進する必要がある。</p>	<p>○年齢や性別、障がい等を問わず、市民が生涯においてスポーツや運動に関わる環境づくりを推進する。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① スポーツや運動をする機会の充実	<p>○市民の体力向上及びスポーツ活動を促進する必要がある。 ○スポーツや運動の機会を提供する必要がある。 ○身体教育医学研究所うんなんとの連携により、スポーツや運動の重要性についての情報提供を行う必要がある。 ○既存の関係団体と連携し、スポーツの仲間づくりを推進する必要がある。 ○2020年夏季オリンピック東京大会の開催を見据え、市民のスポーツへの関心を高めていく必要がある。</p>	<p>○スポーツ推進計画に基づき、市民の体力向上やスポーツ活動を促進する。 ○スポーツ推進委員や地域運動指導員が中心となり、スポーツや運動の機会を提供する。 ○身体教育医学研究所うんなんとの連携により、スポーツや運動の重要性についての調査研究・情報提供を行う。 ○総合型地域スポーツクラブ、体育協会・スポーツ少年団等の既存の関係団体と連携し、スポーツの仲間づくりを推進する。 ○2020年夏季オリンピック東京大会の開催に向け、気運の醸成を図ると共に、運動やスポーツに親しむ啓発活動に取り組み。</p>
② スポーツ環境の充実	<p>○健康づくり拠点施設の整備計画を進め、市民の健康推進を図る必要がある。 ○気軽にスポーツに親しむ環境整備に努める必要がある。 ○計画的なスポーツ設備の更新を行うとともに、適切な管理に努める必要がある。</p>	<p>○健康づくり拠点施設工事を実施する。 ○スポーツ推進計画に基づき、気軽にスポーツに親しむ環境整備に努める。 ○引き続き、計画的なスポーツ設備の更新を行うとともに、適切な管理に努める。</p>

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 15 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	文化財課
	施策名	32.地域文化の振興	主管課長名	山崎 修
			関係課	商工観光課、社会教育課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市民	A 人口	人	見込	(実績) 38,990	38,968	38,477	37,987	37,496
			実績	41,917	41,159	40,548	40,055	39,472
	B		見込					
			実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
目的 文化芸術を普及・振興し、地域文化(地域の伝統文化・歴史遺産)を次世代に伝える。	A 文化芸術に親しんでいる市民の割合(市民アンケート調査項目)	%	目標	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0
			実績	41.0				
	B 地域文化を次世代に伝える活動をしている市民の割合(市民アンケート調査項目)	%	目標	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
			実績	9.9				
	C		目標					
			実績				33.6	28.3
	D		目標					
			実績	7.5	6.3	7.5	7.2	4.6
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 地域文化の保存継承	市民	地域文化を次世代に伝える。	a) [施策成果指標B] 地域文化(地域の伝統文化・歴史遺産)を次世代に伝える活動をしている市民の割合	%	実績	6.3	7.5	7.2	4.6	9.9
			b) 指定文化財の数	文化財	実績	86	86	86	86	86
② 地域文化の活用	市民	地域文化を学び、体感する。	a) 来場者数(岩倉ガイドンス・菅谷たたら山内)	人	実績	9,046	8,538	7,694	8,104	13,967
③ 文化芸術の振興	市民	文化芸術活動に親しむ。	a) 文化施設(ラメール・チェリヴァ・古代鉄歌謡館)での事業回数	回	実績	40	42	43	40	40

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●地域文化を学び、関心を持つ。 ●地域文化の保存・継承に努める。 ●文化芸術に親しみ普及に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域文化に関する理解、関心が深まるように取り組む。 ●地域文化を保存・継承し、保存団体等を支援するとともに、活用に向け取り組む。 ●文化芸術を享受できる機会の充実に努める。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○日本遺産認定に伴い、菅谷たたら山内をはじめ、市内の歴史文化にまつわる観光地を巡る観光客増加が見込まれる。</p> <p>○松江自動車道加茂岩倉パーキングエリア周辺整備により、加茂岩倉遺跡への観光客増加が見込まれる。</p> <p>○市指定文化財の中には、経年劣化等により保存修理が必要なものがある。</p> <p>○過疎・高齢化等により、地域の伝統芸能、行事などの無形民俗文化財の保存継承が危惧される。</p> <p>○市民による文化芸術活動の裾野の拡大を図ることが求められている(H23.11月に島根県文化芸術振興条例が制定)。</p>	<p>○市民の文化活動、文化財保存活動への支援が望まれている。</p> <p>○地域の歴史や文化に関して見識を高めることができる学習機会や情報提供が望まれている。</p> <p>○遺跡(周辺を含む)の適切な整備により、観光資源としての活用を図るとともに、地域の活性化につながることを期待されている。</p> <p>○文化施設の利便性の向上に向けた対応が望まれている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
○成果指標A、Bともに向上した。 ○成果指標Aについては、性別年齢を問わず多くの人々が身近な文化芸術を親しむとともに、様々な文化活動に気軽に参加できるようになったことが一因と考えられる。 ○成果指標Bについては、実績が目標値を上回ってはいるものの、無形民俗文化財の保存継承という観点に限れば、地域に古くから伝わる伝統芸能が、次代を担う若年層にとって興味・関心をひくものとなるような動機付けが必要と考える。	○他団体と比較できる資料がないため、比較できない。	○成果指標A、Bともに、目標値を上回った。

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価 (貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 地域文化の保存継承	・夜神楽のタベ・神楽フェスティバル・出雲追分全国優勝大会など、地域文化の公開・活用事業を実施することにより、保存団体の育成を図った。 ・古代出雲王国加茂岩倉まつり(春の祭り)や銅鐸出土記念イベント(秋の祭り)などを業務委託により開催し、文化財を素材とした文化財愛護意識の高揚を図りながら、地域振興にも寄与する事業を実施した。 ・菅谷たたら山内活用事業により活動団体の支援を行った。 ・菅谷たたら山内保存修理事業を継続実施した。 ・菅谷たたら山内の文化財的価値の保全に努めた(「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」がH28.4.25付けで文化庁により日本遺産認定)。
② 地域文化の活用	・市内遺跡のパンフレットを作成し、市内観光施設での配布等により情報発信を行った。 ・出前講座(歴史探訪講座)を開催するなど、市民が歴史文化に関心を持つための取り組みを行った。 ・弥生ブロンズネットワークリレー講座を、市外の関係各館と共同で開催した。 ・市内の小中学校で、児童生徒を対象とした銅鐸の鑄造体験授業を実施した。
③ 文化芸術の振興	・市内の文化施設を拠点として活動している様々な団体の支援を行った。 ・市文化協会の活動を支援し、市民の文化芸術活動に親しむ機会や活動発表の場の提供を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	○地域文化に対する市民の関心を高める必要がある。 ○地域文化や文化芸術の重要性について理解を高める必要がある。 ○歴史遺産や伝統芸能等を適正に保存・活用する必要がある。	○地域文化に対する市民の関心を高める機会の提供を行う。 ○地域文化や文化芸術の情報発信に努める。 ○文化財の保存・活用に努め、市民に対し文化財保護の啓発を進める。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 地域文化の保存継承	○指定文化財の保護・保存に努める必要がある。 ○地域文化の保存継承に努める必要がある。 ○市内に存在する文化財を総合的に保存・活用するため「歴史文化基本構想」等の策定に努める必要がある。 ○日本遺産に認定された「菅谷たたら山内」と、これに関連する文化財としての価値について、完全性、恒久性を担保していく必要がある。	○指定文化財の状況を確認し、適正な管理と保護・保存に努める。 ○地域文化の保存継承の実態把握に努め、継承者の育成を図る。 ○鉄の道文化圏推進協議会がめざす世界遺産への登録に向け、学術的な調査を実施していくための体制整備に向けた検討を進める。
② 地域文化の活用	○地域文化の観光資源化の推進を踏まえ、市内の歴史遺産について、観光部局とも協議の上、情報発信を推進する必要がある。 ○地域文化に関する興味・関心を高める機会を提供する必要がある。	○加茂岩倉遺跡、菅谷たたら山内、郡垣遺跡などの情報発信を推進する。 ○地域文化に関する理解を深め、学習し、参加しやすい文化振興事業や、歴史探訪講座等を実施する。
③ 文化芸術の振興	○市内文化施設の特徴を生かした文化芸術活動の環境づくりを推進する必要がある。 ○主体的で特色のある文化芸術活動をさらに推進していく必要がある。	○施設の専門的機能を活かした文化芸術活動の拠点形成などにより、文化活動の環境づくりを推進する。 ○引き続き、主体的で特色のある文化芸術活動の支援に努める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 28 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	産業推進課
	施策名	33.地域資源を活かした産業の創出	主管課長名	森山 幸雄
			関係課	政策推進課, 農林振興課, 商工観光課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度(見込)
市内の事業所(者)	A 市内事業所数 ※経済センサス	事業所	見込	1,915(H26)	1,915(H26)	1,915(H26)	1,915(H26)	1,800
			実績	2,222(H21)	1,966	1,966(H23)	1,966(H23)	1,915
			見込					
	B		実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
目的 新分野進出、新商品開発をする。	A 農商工連携プロジェクトによって生み出された商品数	個	目標	5	5	5	5	5
			実績	2				
			目標					
			実績	15	3	8	4	7
	B 農商工連携協議会会員	事業者	目標	74	74	74	74	74
			実績	74				
			目標					
			実績	65	70	69	74	72
	C 新産業創出補助金による新分野進出の件数	件	目標	6	6	6	6	6
			実績	8				
			目標					
			実績	2	5	5	6	12
D		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 新分野進出・新商品開発の戦略立案の支援	市内の事業所(者)	新分野に進出、または、新商品を開発できるようにする。	a) 相談回数	回	実績	H25年度より調査		270	270	210
② 新商品の開発支援	新分野進出・新商品開発を考える市内の事業所(者)	新商品を開発する。	a) 生み出された商品数 ※補助金を利用して生み出されたもの(農商工連携プロジェクトによって生み出された商品とは別のもの)	件	実績	8	13	9	12	8
③ 新商品の販路開拓支援	新分野進出・新商品開発を考える市内の事業所(者)	新商品を販売する。	a) 生み出された商品の販売額 ※補助金を利用した新商品売上を翌年から3年間調査する。	千円	実績	H27年度より調査				6,656

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●地域資源を活かした新分野への進出や新商品の開発に取り組む。 ●農業・商業・工業で連携した新分野への進出や新商品の開発に取り組む。 ●市場ニーズを把握し、販路及び販売拡大に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新商品の開発、販路開拓及びマッチングを支援する。 ●農商工連携による取り組みを推進する。 ●新分野への進出や新商品開発のための情報提供や技術修得を支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国の「まち・ひと・しごと創生」において、地方への新しいひとの流れをつくるとともに地方にしごとをつくる方針に沿った取り組みが進められている。</p> <p>○6次産業化地産地消法(H22年度施行)を受けて、県では、H26年度に島根県型6次産業ステップアップモデル事業(助成事業)が創設され、市としても取り組みを支援している。(H27は2件[竹下本店、木村有機農園]が採択され、新商品の開発につながっている。)</p> <p>○産業競争力強化法(H26.1.20施行)により、国では新たな産業創出や事業発展に向けた支援が重点的に取り組まれつつある。</p> <p>○映画「たたら侍」、日本遺産認定、トワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り観光地の決定により、雲南市の注目度が高まっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○起業家の養成・誘致による新たな仕事・雇用の創出を求める声がある。 ○豊かな食資源を活用した商品開発や販路拡大に向けた支援を求める意見がある。 ○中国横断自動車道尾道松江線全線開通による効果の期待が高まる中、道の駅「たたらばき番地」等を活用した市内商品の販売強化が求められている。

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標Aは、鍋スープ・プレミアムプリンの2品が生み出されたが、前年度より5件減少した。</p> <p>○成果指標Bは、2事業者が加入(増加)した。</p> <p>○成果指標Cは、農商工連携協議会に参画されている事業者をはじめとする8件の補助金活用実績があった。H26年度と比較し4件減少したものの、カタログギフト事業では事業者間連携によって生み出された商品が14組誕生するなどの成果が出ている。</p>	<p>○雲南市には、新産業創出に向けた連携の場として、農商工連携協議会が設置されている。近隣他市には見られない、独自の取組みであるといえる。</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を下回った。</p> <p>○成果指標Bは、目標どおり。</p> <p>○成果指標Cは、目標値を上回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 新分野進出・新商品開発の戦略立案の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ギフト商品に関するセミナーを強化し、展示会等を開催するなど、カタログギフトの商品開発につながった。 ・県の「6次産業化アドバイザー制度」を複数の事業者が活用され、商品パッケージの開発などにつながった。
② 新商品の開発支援	<ul style="list-style-type: none"> ・農商工連携協議会の5つのプロジェクトを推進し、2つの商品が開発された。 ・商品開発に関する市単独の新産業創出補助金を活用した取組みにより、8つの新商品が開発された。
③ 新商品の販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> ・都内自然食スーパーにて店頭催事を行い、販路開拓につながった。 ・商談会の出展助成を行い、6件(10社)の活用があった。 ・「出雲のみなもと雲南」ロゴを活用した「カタログギフト」を作成し、新商品を含め市内42業者・50品の売上増(約500万円)につながった。 ・新たに販路支援アドバイザーを配置し、販路開拓に係る推進体制の強化を図った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○新商品開発及び販路開拓に取り組む必要がある。 ○関係機関及び事業者間の情報交換と連携促進を図り、創業及び新分野進出等を促進する必要がある。 ○新商品開発の成果の見える化と、PRの徹底を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農商工連携協議会や地域資源を活用したプロジェクト等を核に新商品開発及び販路開拓に取り組む。 ○関係機関及び事業者間の情報交換と連携促進を図り、創業及び新分野進出等に向けた取組みを支援する。 ○市報・HPなどを積極的に活用し新商品のPRに努める。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 新分野進出・新商品開発の戦略立案の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○新分野進出・新商品開発に向けて、事業計画の立案等の支援を行う必要がある。 ○専門機関と事業者の連携を促進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、セミナー等の研修機会の提供、支援制度の紹介及び事業計画の立案の支援を行う。 ○雲南市産業振興センター(U-Biz)、しまね産業振興財団等の専門機関と事業者の連携を促進する。
② 新商品の開発支援	<ul style="list-style-type: none"> ○新商品開発の支援制度を充実する必要がある(H28年度においては、現行制度の見直しを検討)。 ○売れる商品づくりを推進する必要がある(H28年度においては、映画「たたら侍」、日本遺産認定、トワイライトエクスプレス「瑞風」の運行による観光入込客数の増加を見据え、新たな土産物開発に着手)。 ○農商工連携協議会の取組みを強化していく必要がある(H28年度においては、プロジェクトのあり方を検討)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○販路支援アドバイザーとともに(連携により)、商品の開発支援を行う。 ○新商品開発に係るより有効な支援制度の検討を行う。 ○事業者と専門家、事業者間の連携を図り、「市を代表する土産」を目指した売れる商品づくりを推進する。 ○農商工連携協議会の組織体制の強化により、更なる新商品開発を推進する。
③ 新商品の販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> ○事業者と市の連携・協力のもと、積極的な情報発信により、新商品の販路を拡大していく必要がある。 ○新商品開発の成果の見える化やPRの徹底を図る必要がある。 ○研究・開発による市産品の価値の向上や市内外発信・提供の強化促進の拠点(農産物加工、販売など、農業の6次産業化の拠点施設)を整備する必要がある(H28年度においては、検討委員会で拠点施設の整備内容の具体化に向けて検討)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○販路支援アドバイザーとともに(連携により)、販路開拓支援を行う。 ○事業者と市の連携・協力のもと、市報・HP(ホームページ)・庁舎市民広場等での紹介、イベント等による市内外への積極的な情報発信を行うほか、販路開拓の支援制度の充実を図る。 ○食の幸発信推進事業に取り組み、農業の6次産業化の拠点施設の整備(詳細設計等)を進める。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 28 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課 主管課長名	産業推進課 森山 幸雄
	施策名	34.雇用機会の充実と安定	関係課	うんなん暮らし推進課,商工観光課,人権推進室

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
市内で就労できるようにする。	求職者(就労を希望する市民)	A 有効求職者数(雲南管内) ※しまね職業安定業務統計速報	人	見込 実績	(実績) 9,254	13,000	13,000	13,000	13,000	
					11,167	11,712	11,710	11,078	10,955	
		②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
						22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
						A 有効求人倍率(雲南圏域) ※有効求人数/有効求職者数	倍	目標	0.75	0.76
		実績	0.87							
		目標		0.50	0.55			0.60	0.65	
		B 就職率(雲南圏域) ※就職者数/新規求職申込件数	%	実績	0.56	0.54	0.58	0.73	0.83	
				目標						
				実績	44.9	45.1	45.3	45.5	45.7	
		C 求人の充足率(雲南圏域) ※充足数/新規求人数	%	目標	39.3	42.7	43.2	44.7	43.3	
実績				28.9	29.1	29.3	29.5	29.7		
目標										
D				実績	27.2					
	目標									
	実績			35.8	36.8	33.4	28.7	25.7		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 求職者に対する就労支援	求職者	就労できるようにする。	a) 新規高卒者の県内就職率	%	実績	90.9	85.9	92.6	78.3	83.5
			b) 新規高卒者の管内就職率	%	実績	60.6	54.9	55.6	51.9	57.6
② 良好な就労環境の啓発推進	求職者	良好な就労環境で就労する。	a) 職場が働きやすい環境だと感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	実績	80.0	82.6	78.7	80.3	84.4

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●職業能力の向上に努める。 ●求職者は、積極的に求人情報を得る。 ●事業所は、地元採用、雇用確保及び就労環境の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●雲南公共職業安定所(ハローワーク)等関係機関や雲南市無料職業紹介所との連携によって、求人・求職情報の一体化を図る。 ●求職者等の職業能力の向上を支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国の「まち・ひと・しごと創生本部」において、若い世代、女性の就労をはじめとする仕事と育児の両立に必要な働き方実現を目指して雇用環境の整備が進められる。</p> <p>○国では、地方創生のためのしごとづくり支援策として、中央(東京23区)から地方に本社機能を移転する場合の税制優遇措置を進めている。</p> <p>○国では、消費税率10%への引き上げをH29.4月から2年半再延期することが発表されている。</p> <p>○高速道路の開通により、市内企業の設備投資及び市内への企業立地が期待できる。また、通勤圏の拡大など就労環境の変化が想定される。</p> <p>○県では、企業立地優遇制度として、雇用助成金の拡充をH28.4月から開始している。</p>	<p>○産業振興に期待する声が多く、企業誘致や雇用創出を望む質問や意見が市民・議会から寄せられている。</p> <p>○不安定な社会情勢の中、若者、女性の就労支援が求められている。</p> <p>○子育てしやすい就労環境や障がい者雇用など、雇用機会の均等・充実が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標Aは、ほぼ横ばい(0.04ポイント向上)。</p> <p>○成果指標Bは、3.0ポイント向上。自動車関連部品製造会社の企業立地やマルシェリリーズなどにおける雇用が影響していると考えられる。</p> <p>○成果指標Cは、1.5ポイントとやや向上したものの、依然として求人側と求職者側の意向が合致しない傾向があると考えられる。</p>	<p>○平成27年度(月間平均)雲南圏域の有効求人倍率は0.87で県下最低(県平均1.30、松江1.43、安来1.25、出雲1.15)である。要因として、通勤圏域である松江市や出雲市に近いことが挙げられる。(例として、松江市で離職した雲南市民がハローワーク雲南で求職活動をする場合、倍率が低くなる。)</p> <p>○一方、平成27年度(月間平均)雲南圏域の充足率は27.2%(県平均21.0%)で、近隣他市(松江市19.5%、安来17.7%、出雲市21.1%)と比べて高い傾向にある。 【出典:厚生労働省島根労働局発表】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を上回った。</p> <p>○成果指標Bは、目標値を上回った。</p> <p>○成果指標Cは、目標値をやや下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 求職者に対する就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南雇用対策協議会においてハローワーク雲南と連携し、管内企業の視察や企業情報の提供などの支援に努めた結果、雲南管内の新規高校卒業者の就職内定率は100%となった。 ・雲南市無料職業紹介所では、求職者に対して求人の情報提供や斡旋等を行った。 ・市の定住支援スタッフによるUIターン者の就労支援を行った。
② 良好な就労環境の啓発推進	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南雇用対策協議会と連携し、就職内定者向けの研修や新卒者合同研修など、就労に関する学習機会の提供を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○求人・求職者のマッチングを推進する必要がある。 ○人口の社会増に向け、多様な就労支援及び働きやすい環境づくりを推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、関係機関との連携による無料職業紹介などの就職促進を図り、求人側と求職者側のマッチングを推進する。 ○雲南市産業振興センター(U-Biz)を中心に、人口の社会増に向け、特に若者やUIターン者に向けた就労支援及び働きやすい環境づくりを推進する。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 求職者に対する就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就労希望者の雇用の場の確保を推進する必要がある。 ○雲南市産業振興センターの機能を強化し、雇用創出を推進する必要がある。 ○就労支援に関する情報の提供を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハローワークとの連携による無料職業紹介や雲南雇用対策協議会による就職促進の取り組みなどにより、新規就労者の雇用確保を推進する。 ○雲南市産業振興センターにおける経営に関するワンストップ相談対応や企業創業サポート、企業誘致活動などの機能を強化し、雇用創出を推進する。 ○引き続き、就労支援に関する情報提供を行う。 ○市の定住支援スタッフによるUIターン者の就労支援を行う。
② 良好な就労環境の啓発推進	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関と連携し、就労環境の整備を図る必要がある。 ○非正規雇用者の良好な就労環境確保に向けての啓発に努める必要がある。 ○働きやすい環境づくりを推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関と連携し、情報提供や啓発活動を行い、就労環境の整備を図る。 ○ハローワーク等関係機関との連携のもと、アルバイト・臨時・パートなどの非正規雇用の実態等を随時把握し、良好な就労環境の確保に向け啓発活動を行う。 ○ワークライフバランス等の啓発に努め、働きやすい環境づくりを推進する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 28 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課 主管課長名	産業推進課 森山 幸雄
	施策名	35.工業の振興	関係課	商工観光課,建設工務課,都市計画課,工務課,営業課,下水道課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度(見込)	
製造業事業所	A 製造事業所数 ※工業統計調査	事業所	見込	(実績)未公表	85	85	85	85	
	実績		100	99	92	92	85		
	B		見込	0	0	0	0	0	
			実績	0	0	0	0	0	
	C		見込	0	0	0	0	0	
			実績	0	0	0	0	0	
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
市内で製造拠点を新設・増設し、雇用を拡大してもらう。	A 製造品出荷額 ※工業統計調査	億円	目標	900	900	900	900	900	
			実績	未公表					
			目標	0	770	800	820	830	
				実績	856	825	900	872	926
	B 製造業従事者数 ※工業統計調査	人	目標	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
			実績	未公表					
			目標	0	3,750	3,800	3,850	3,900	
				実績	3,626	3,254	3,795	3,528	3,263
	C		目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			実績						
			目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
				実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	D		目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			実績						
			目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
E		目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		実績							
		目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
			実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 積極的な企業誘致の推進	雲南市への進出に意欲のある事業所	雲南市内に誘致する。	a)市外からの立地認定件数	件	実績	2	1	0	0	2
② 地場企業の成長促進	市内の事業拡大に意欲のある事業所	製造品出荷額を伸ばし、また、雇用を拡大する。	a)地場企業の立地認定件数	件	実績	4	0	4	2	1
③ 企業立地環境の整備	事業拡大・市内進出に意欲のある事業所	雲南市内の製造所を整備する。	a)企業団地の分譲面積	ha	実績	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが互助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●健全な経営と雇用確保に努める。 ●製造事業所は、環境に配慮した事業実施に努める。 ●市場ニーズを把握し、販路及び販売拡大に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業訪問などによる情報収集、情報提供を行う。 ●企業が進出しやすい環境を整える。 ●販路開拓と企業間のマッチングを図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○「産業競争力強化法」が施行(H26.1.20)され、今後、人材育成や、新たな事業の進出・設備投資の進展が見込まれる。</p> <p>○国では、地方創生のためのしごとづくり支援策として、中央(東京23区)から地方に本社機能を移転する場合の税制優遇措置を進めている。</p> <p>○国では、消費税率10%への引き上げをH29.4月から2年半再延期する方針が示されている。</p> <p>○県では、企業立地優遇制度として、雇用助成金の拡充をH28.4月から開始している。</p> <p>○中国横断自動車道尾道松江線の全線開通により、市内企業の設備投資及び市内への企業立地が期待できる。</p>	<p>○分譲可能な企業団地が残り少なく、早急な企業団地整備が求められている。</p> <p>○企業誘致・地場産業の振興による新たな雇用の確保が求められている。</p> <p>○ものづくり人材の確保のため、熟練技能の継承が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
○成果指標A、Bともに実績値は未公表。 ○製造業従事者数について、H25とH26の実績を比較すると、260人以上減少した。要因の一つには、電子部品・デバイス・電子回路製造業における事業縮小に伴う退職・出向により、従業員数が222人減少したことが大きな要因と考える。二つ目には、事業所数が7事業所減少したことによる約60人の減少がある。	○成果指標A、Bともに実績値は未公表。 ○製造品出荷額を比較すると、県内の最新実績額(H26)では、雲南市は926億円で、出雲市が4,100億円、安来市1,788億円、松江市1,173億円で次いで4番目に位置しており、近隣他市と比べて高い水準であるといえる。 【出典：平成26年工業統計調査結果報告書(島根県)】	○成果指標A、Bともに実績値は未公表。 ○H26年度の目標値に対し、成果指標Aは目標値を上回ったが、成果指標Bは目標値を下回った。

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 積極的な企業誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な企業誘致活動により、自動車関連部品製造会社及びIT関連会社の新たな企業立地につながった。 ・企業立地促進対策助成事業では、企業立地助成金7件(6社)、雇用促進助成金2件の利用実績があった。 ・新たに企業誘致専門員((一財)日本立地センター)を配置し、企業誘致推進体制の強化を図った。
② 地場企業の成長促進	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外への企業訪問により、情報収集を行い、企業間のマッチングに努めた。 ・雲南市企業間交流会を12月に開催し、「ICT活用による地域産業の活性化」をテーマに研修会を行った。 ・新たに事業承継専門員を配置し、事業承継推進体制の強化を図った。
③ 企業立地環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・神原企業団地及びアクセス道路の整備に向け実施設計を行った。 ・南加茂企業団地との一体的な整備に向けたアクセス道路の整備検討に着手した。 ・工業用水の安定供給を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○企業団地の整備を推進する必要がある。 ○企業団地整備に併せ高速道路など幹線道路へのアクセス向上を図る必要がある。 ○企業立地・誘致優遇制度の充実を図る必要がある。 ○地場企業への支援策の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中国横断自動車道尾道松江線全線開通の効果を活かし、神原企業団地の整備を推進する。 ○企業団地整備に併せた市道等アクセス道を整備する。 ○戦略的産業の育成のための企業立地・誘致優遇制度の充実を図る。 ○地場企業への経営相談を充実するとともに、増設・事業拡大等に係る支援を行う。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 積極的な企業誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○企業の意向等を確認するとともに、関係機関との連携により、企業誘致を進める必要がある(H28年度においても、企業誘致専門員((一財)日本立地センター)と連携した積極的な誘致活動を実施)。 ○神原企業団地への積極的な企業誘致を進める必要がある。 ○魅力ある企業誘致優遇制度の拡充が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○雲南市産業振興センター(U-Biz)の企業誘致専門員を中心として、積極的に企業誘致を進める。 ○神原企業団地への積極的な企業誘致を進める。 ○企業誘致優遇制度の支援対象業種や支援内容などの拡充を図り、企業進出を促すとともに、地場企業の経営支援を図る。
② 地場企業の成長促進	<ul style="list-style-type: none"> ○地場企業の成長促進に向けたニーズ把握やセミナー等を行う必要がある(H28年度においても、事業承継専門員と連携し、事業承継活動を実施)。 ○地場企業向けの支援策を拡充する必要がある(H28年度においては、定期的な経営相談を実施)。 ○地場企業独自の新事業展開を支援する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地場企業への積極的な訪問によるニーズ把握、企業間交流、農商工連携及び経営革新塾等セミナーなどを行う。 ○地場企業への定期的な経営相談により企業ニーズを把握し支援につなげる。 ○地場企業の増設・事業拡大等については、企業誘致優遇制度による支援を行う。 ○地場企業独自の製品開発など新事業展開を支援する。
③ 企業立地環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○神原企業団地の早期分譲開始に向け取り組む必要がある(H28年度においては、土地開発公社事業に係る損失補償を行う)。 ○魅力ある企業立地環境の提供に努める必要がある。 ○上水道や工業用水の安定供給を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○神原企業団地の造成工事に取り組む。 ○魅力ある企業立地環境の提供に向け、高速道路など幹線道路へのアクセス向上に取り組む。 ○上水道や工業用水の安定供給を行う。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 23 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	農林振興課
	施策名		36.農業の振興	主管課長名
			関係課	産業施設課、農林土木課、農業委員会事務局

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市内の農家	A 農家数(農林業センサス(H22.2月実施、H27.2月実施)より)	人	実績	3,899(H26)	3,899(H26)	3,899(H26)	3,899(H26)	3,899(H26)
	B		実績	4,545(H21)	4,545(H21)	4,545(H21)	4,545(H21)	3,899
	C		見込実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。	A 市内の農業所得総額	億円	目標	▲2.6	▲2.4	▲2.2	▲2.0	▲1.8
			実績	▲5.2				
	B JALしまね販売額(雲南市内)	億円	目標	▲2.9	▲2.8	▲2.7	▲2.8	
			実績	▲3.4	▲2.3	▲1.8	▲3.1	▲6.4
	C		目標	26.0	26.0	26.0	26.0	
			実績	23.2				
		目標	26.0	26.0	26.0	26.0		
		実績	25.7	23.2	23.6	24.9	24.7	

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 農業基盤の整備	担い手農家・担い手以外農家	農業の生産性を維持・向上できるようにする。	a) 圃場整備率	%	実績	67.6	67.6	68.0	68.4	68.7
② 農業基盤の保全	担い手農家・担い手以外農家	農業の生産性を維持・向上できるようにする。	a) 有害鳥獣駆除頭数	頭	実績	1,138	1,852	2,226	1,959	1,926
			b) 中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金制度対象面積	ha	実績	H26年度より調査		2,014.9	1,710.0	
③ 担い手の育成・確保	市内の農家	農業の担い手を育成する。	a) 認定農業者数	人	実績	78	79	79	80	78
			b) 集落営農組織数	団体	実績	—	85	79	78	77
			c) 農地集積面積(3条設定面積を除いたもの)	ha	実績	538.00	520.00	525.00	542.00	556.00
			d) 新規農業研修生数	人	実績	—	2	3	3	3
④ 安全・安心で売れる農畜産物の生産	担い手農家・担い手以外農家	安全・安心な農畜産物を生産する。	a) エコファーマー数	人	実績	96	98	97	99	95
			b) 上位等級米比率	%	実績	72.4	57.3	31.7	52.1	59.9
			c) 肉用牛飼養頭数(繁殖・肥育)	頭	実績	612・724	557・712	513・637	483・622	410・509
⑤ 農畜産物の販売及び販路拡大	担い手農家・担い手以外農家	販売額が増加する。	a) [成果指標B]JALしまね販売額(雲南市内)	億円	実績	23.2	23.6	24.9	24.7	23.2

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが互助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●農業生産基盤及び農村環境を維持保全する。 ●農業後継者の育成に努める。 ●農業生産の効率化を図り生産コストの削減に努める。 ●安全・安心な農畜産物を生産する。 ●消費者ニーズを把握し、農畜産物及び農産加工品の販路及び販売拡大に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業生産基盤の維持保全、整備を支援する。 ●新規就農者、認定農業者、集落営農組織等の担い手を育成、支援する。 ●安全・安心な農畜産物の生産、安定した農業経営と農業所得の向上を指導、支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○高齢化等により、今後さらに農業従事者の減少、耕作放棄地・不在地主の増加が懸念される。また、畜産では、繁殖農家の減少が予測される中、農家数とともに飼養頭数の確保が求められる。</p> <p>○国の米政策の見直しでは、H30年度を目途に、行政による生産数量目標の配分を廃止し、生産者や集荷業者・団体が自らが需要に応じた生産を行う仕組みになる予定であり、生産者等の経営判断がこれまでに以上求められることになる。</p> <p>○TPP合意により、今後の状況によっては、安い農産物が輸入されるようになり、国内の農畜産物の市場流通に大きな影響を与える可能性がある。</p> <p>○国では、農業競争力強化を図るため、担い手が利用する面積がH35年度までに全農地面積の8割となるよう農地の集積・集約化に向けた政策目標を立てている。</p> <p>○島根県内11JAと一部県連組織がH27.3月に「島根県農業協同組合(JALまね)として誕生し、JA雲南は、雲南地区本部としてスタートしている。</p> <p>○地球温暖化の進展によっては、米の品質に悪影響を与える。</p>	<p>○担い手の育成支援により、農地を有効活用していくことが望まれている。</p> <p>○農業従事者から、機械施設の整備や基盤整備に対する支援(老朽化によるものを含む)を求められている。</p> <p>○農産物のブランド化を目指し、産地に合った品種の選定や栽培技術の向上・普及が求められている。</p> <p>○有害鳥獣の駆除と防除対策の継続を求められている。</p> <p>○消費者からは、安全・安心な農畜産物の供給を求められている。</p> <p>○H29年度の全国和牛能力共進会への出品・上位入賞が期待されている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度 (目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○成果指標Aは、H26年度実績と比較し、やや向上したものの依然として米価下落による影響が大きく考えられる。また、経営所得安定対策のCOMの補助金がH26年度から半額になっているのも一因であると考えられる。加えて、農家数の減少も影響していることも要因と考えられる。</p> <p>○成果指標Bは、H26年度実績と比較し、農業振興商品券の販売に伴う地元産直施設での売上げが伸びたことや、関西方面の顧客への販路拡大など、一定の成果を上げていると考えられる。しかしながら、依然として米価下落による影響があると考えられる。また、生産調整の関係で主食用米から飼料用米に転換されたことも一因と考えられる。</p>	<p>○直近の近隣他市のデータは未公表のため、H27年度実績の他団体比較はできない。</p> <p>【参考】8市平均が2,709(単位:百万円)に対し、雲南市は8市中2番目の2,564である。</p> <p>※出雲市7,131、益田市2,547、松江市2,525、大田市2,363、安来市2,223、浜田市1,627、江津市694。</p> <p>【出典:平成24年度 鳥取県県民経済計算(市町村内総生産)】</p>	<p>○成果指標Aは、大きく目標値を下回った。</p> <p>○成果指標Bは、目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 農業基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・大吉田地区農業生産法人等育成緊急整備事業の採択や農地有効利用支援整備事業などにより、主に水稻の生産基盤の整備・推進を図った。 ・県営雲南北地区中山間地域総合整備事業に取り組み、圃場整備や農業用排水路・暗渠排水施設整備の実施(H24～29)により、農業生産コストが縮減され、担い手による農地集積が図られている。 ・農業用河川工作物応急対策事業により、頭首工(東分・玉泉寺)の整備・計画に取り組んだ。
② 農業基盤の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金制度及び環境保全型農業直接支払交付金制度に取り組み、農地の保全に努めた。 ・農作物被害防止対策事業や有害鳥獣駆除事業に継続して取り組んだ。
③ 担い手の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市担い手育成支援室を中心とする市、県、JA及び農業委員会の連携により、新規就農者や集落営農組織等に対する育成、経営指導等を実施し、新たに農業生産法人2法人が組織設立された。 ・農業担い手育成支援事業等により、新規就農者3名をサポートし、農業者の確保に貢献した。 ・地域貢献型集落営農ステップアップ事業等による新規法人組織に対するハード整備支援によって、担い手不足の集落サポート活動に貢献している。
④ 安全・安心で売れる農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業直接支払交付金制度の活用やエコエコ農業推進事業により、安全で良質な農産物の生産向上、環境に優しく経済的な農業生産活動に貢献した。 ・特産作物推進対策事業等により安心・安全な特産品の生産拡大に取り組み、産直会員数の増加に寄与した。 ・台湾へ3トンの米輸出を行うと共に市場調査を実施した。 ・優良雌牛の導入など和牛振興に取り組んでいるが、子牛価格も全国的な品薄感から堅調に推移しているものの、農家の高齢化や後継者不足に加え、飼料価格の高騰等により経営が圧迫されていることから、農家数・飼養頭数は減少した。
⑤ 農畜産物の販売及び販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「たたらば壱番地」内の農家レストランにおける蕎麦の消費拡大に対応した蕎麦の作付推進により蕎麦の売上げが伸びていることや、産直市の運営主体である出雲産直振興推進協議会への運営支援により産直市全体の売上げは向上している。 ・産直の母体組織である出雲産直振興推進協議会のH26年度日本農業賞「食の架け橋部門」における大賞受賞を契機に、雲南市農業振興商品券の販売に取り組んだ。 ・農商工連携協議会と連携を図り、6次産業化を進めている。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○農業・畜産の担い手の確保とともに、経営規模拡大や組織化により経営力の強化を図る必要がある。 ○圃場、農道・水路等の農業基盤の整備・保全を図る必要がある。 ○安全・安心な農畜産物の生産と6次産業化を推進する必要がある。 ○市外への農畜産物の販路拡大を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業・畜産の担い手の確保とともに、経営規模拡大や組織化により経営力の強化を図る。 ○圃場、農道・水路等の農業基盤の整備・保全を図る。 ○安全・安心な農畜産物の生産と6次産業化を推進する。 ○市外への積極的なセールスや地産地消により、農畜産物の販路拡大を図る。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 農業基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○圃場や農道・水路等の基盤整備に取り組むとともに、市単独事業によるきめ細やかな整備を図る必要がある。 ○農業生産コストの低減に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○補助制度の活用や県営事業の導入などにより、圃場や農道・水路等の基盤整備に取り組むとともに、市単独事業によるきめ細やかな整備を図る。 ○農業機械の共同化・高性能化、生産コストの低減に取り組む。
② 農業基盤の保全	<ul style="list-style-type: none"> ○耕作放棄地を減らし、農地を保全・確保する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣被害対策、耕作放棄地対策、中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金制度により農地を保全・確保する。
③ 担い手の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ○農地を集積し、経営力の強化を図る必要がある。 ○認定農業者を育成する必要がある。 ○就農希望のUIターン者や地元就農者に対する支援を行う必要がある。 ○新規就農者受け入れや軽作物振興に向けた園芸ハウスの補助施策確立を目指す必要がある(H28年度中に、雲南市園芸振興計画を策定)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集落営農・法人化を積極的に進めるとともに、農地中間管理事業を活用し、農地を集積、経営力を強化する。 ○担い手支援室を中心に、経営改善計画に基づく経営指導を行い、認定農業者を育成する。 ○就農希望のUIターン者や地元の就農者に対する支援を行い、人口の社会増につなげる。 ○雲南市園芸振興計画に基づき、園芸ハウスの補助や園芸作物の作付を支援する。
④ 安全・安心で売れる農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培技術を向上させ、エコファーマーの育成を図るとともに、環境にやさしく経済的な農業を推進する必要がある。 ○米の等級比率向上のため、病害虫防除や適地・適作により品質向上に取り組む、ブランド化を図る必要がある(H28年度に「プレミアムつや姫」の販売戦略を確定)。 ○県有種雄牛の活用と優良雌牛の導入・保留、全国和牛能力共進会の取組強化により、和牛振興を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培技術の向上やエコファーマーの育成、低肥料・低農薬栽培などの環境にやさしく経済的な農業を推進する。 ○「プレミアムつや姫」の作付支援を継続し、面積拡大を図る。 ○県有種雄牛の活用と優良雌牛の導入・保留、全国和牛能力共進会の取組強化により、和牛振興を図る。
⑤ 農畜産物の販売及び販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○販売施設の整備・充実に取り組み、農畜産物・農産加工品の販売及び販路拡大を図る必要がある。 ○商談会、国内外でのPRイベントにより、販路拡大に取り組む必要がある。 ○地産地消の推進のため、販路拡大に取り組む個人・団体に対し販売機会の情報提供等の支援を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○販売施設の整備・充実に取り組み、農畜産物・農産加工品の販売及び販路拡大を図る。 ○商談会、国内外でのPRイベントにより、販路拡大に取り組む。 ○地産地消の推進のため、市内での農畜産物販売の機会を充実するとともに、販路拡大に取り組む個人・団体に対し販売機会の情報提供等の支援を行う。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 15 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	農林振興課
	施策名	37.林業の振興	主管課長名	杉原 律雄
			関係課	産業施設課、農林土木課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度(見込)	
市内の森林	A 市内の森林面積	ha	見込	43,541	43,541	43,541	43,541	43,541	
			実績	43,803	43,799	43,803	43,535	43,541	
	B		見込						
			実績						
	C		見込						
			実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
適正に森林を整備、保全し、森林資源を活用する。	A 森林組合の木材生産量	m ³	目標	11,000	12,000	13,000	14,000	15,000	
			実績	12,970					
	B 森林組合の施業面積(間伐)	ha	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
			実績	176.5					
	C 森林組合の施業面積(新植)	ha	目標	65.9	89.3	112.4	115.0	91.7	
			実績	9.5					
	D		目標	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	
			実績	5.0	27.0	21.1	11.3	28.5	
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 適正な森林管理	市内の森林	適正に管理する。	a) 作業道の整備延長	km	実績	242.6	265.2	288.4	313.8	352.7
			b) [施策成果指標B] 森林組合の施業面積(間伐)	ha	実績	89.3	112.4	115.0	91.7	176.5
			c) [施策成果指標C] 森林組合の施業面積(新植)	ha	実績	27.0	21.1	11.3	28.5	9.5
② 森林資源の活用	市内の森林	木材資源を活用する。	a) [施策成果指標A] 森林組合の木材生産量	m ³	実績	12,016	10,932	9,038	9,890	12,970

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●森林を適正に保全する。 ●木材生産の効率性を高め、生産量の拡大に努める。 ●住宅建設等での木材利用に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●森林の保全管理を支援する。 ●木材生産の効率化と生産量の拡大を支援する。 ●公共事業等での木材利用に努めるとともに、市民の利用を促進する。 ●林業従事者の育成・確保を支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○国産の木材価格低迷、造林地への侵入竹林の拡大及び森林組合員数減少が予想される。</p> <p>○高性能林業機械の普及により施業の効率化が図られている。</p> <p>○国策定の「森林・林業再生プラン」には、施業の集約化、路網整備の促進、50%以上の木材自給率(2020年までに)が盛り込まれている。</p> <p>○公共建築物等の木材利用促進に関する法律(H22.10月施行)により、公共建築物への木材利用が期待される。</p> <p>○東日本大震災以降、再生可能エネルギーとしてのバイオマスのエネルギー利用への関心が高まっている。</p> <p>○H24.7月から施行された固定価格買取制度(FIT制度)により、近隣バイオマス発電所への市内未利用木材の供給が始まっている。</p> <p>○森林環境税(国税)の導入が検討されている。(※島根県ではH17年から「水と緑の森づくり税」制度が実施されている。)</p>	<p>○木材関連事業所から、公共施設等への県・市産材の利用促進が求められている。</p> <p>○市民及び事業者から路網整備に対する支援の継続が求められている。</p> <p>○侵入竹林や森林病害虫対策が求められている。また、市議会からは行政支援を求める意見がある。</p> <p>○素材生産事業者から、高性能林業機械に対する導入支援の継続が求められている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標A(木材生産量)はH26年度に比較し、約30%の増加となったが、バイオマス需要によるC材(チップ等)の生産量と林業公社の収穫事業が影響したと考えられる。</p> <p>○成果指標B(間伐)は、約2倍に増加した。この要因には、森林整備加速化・林業再生事業の最終年度であったことが、間伐事業の促進に繋がったと想定される。</p> <p>○成果指標C(新植)は前年度に比較し大幅な減少となった。この要因には、植栽が必要な伐採跡地が少なかったことが考えられる。</p>	<p>○直近の近隣他市のデータは未公表のため、H27年度実績の他団体比較はできない。</p> <p>【参考】8市平均が371(単位:百万円)に対し、雲南市は8市中3番目の427である。 ※益田市837、出雲市440、松江市326、大田市317、浜田市284、安来市193、江津市142。 【出典:平成24年度 島根県県民経済計算(市町村内総生産)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標を上回った。 ○成果指標Bは、目標を大幅に上回った。 ○成果指標Cは、目標を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 適正な森林管理	・森林組合等との連携のもと、森林の適正な管理を進めた。
② 森林資源の活用	・市民参加型収集運搬システムによる林地残材の利用促進が図られた。 ・国(国土交通省)のサステナブル建築物等先導事業(省CO2先導型)により新たに1施設(市役所新庁舎)木質チップボイラーが稼働した。 ・バイオマス関連整備事業の一環として、バイオマス用の林地残材のストックヤード及び市産木材の利用促進のための中間土場として活用する木材流通拠点施設の整備を進めた。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	○循環型林業の推進を図る必要がある。 ○林道、森林作業道等の路網を整備する必要がある。 ○未利用間伐材等の収集によるエネルギー利用を図る必要がある。 ○市産木材の供給体制を確立するとともに、市産木材の利用を促進する必要がある。	○循環型林業の推進を図る。 ○林道、森林作業道等の路網整備を推進する。 ○未利用間伐材等の収集によるエネルギー利用を推進する。 ○市産木材の供給体制を確立するとともに、市産木材の利用促進に努める。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 適正な森林管理	○森林管理における施業の効率化を図る必要がある。 ○森林保全に携わる事業体の担い手支援や新たな担い手の育成を図る必要がある。 ○適切な保育管理を行う必要がある。	○高性能林業機械の導入を積極的に推進し、施業の効率化を図る。 ○技術講習会等を開催し、森林保全に携わる事業体の担い手支援や新たな担い手の育成を図る。 ○適切な保育管理に努める。
② 森林資源の活用	○市民参加による森林バイオマス事業の推進を図る必要がある(H28年度においても「山村活性化支援交付金」を活用した取組みを実施中)。 ○計画的な熱供給施設の整備を推進する必要がある。 ○公共施設や住宅への市産木材利用を促進する必要がある。 ○特用林産物の利活用を推進する必要がある。	○市民参加による森林バイオマス事業の推進を図る。 ○計画的な熱供給施設の整備を推進する。 ○公共施設や住宅への市産木材利用を促進する。 ○しいたけなどの特用林産物の販売を促進する。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 28 日
 更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合 計画 体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	商工観光課
	施策名		38.観光の振興	主管課長名
			関係課	政策推進課、地域振興課、産業施設課、文化財課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市外の人・市民	A 日本の人口	千人	見込	(実績) 127,110	126,193	125,739	125,236	124,689
			実績	128,057	127,799	127,515	127,298	127,083
	B		見込					
	C	実績						
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
市内観光地を訪れ、市内で消費してもらおう。	A 観光入込客数 ※当初、H31の目標値を130万人としていたが、清風荘の整備等を見据え、150万人に上方修正する。	万人	目標	130.0	148.0	148.0	148.0	150.0
			実績	148.3				
	B 観光消費額	百万円	目標		92.0	95.0	97.0	100.0
			実績	88.5	95.0	96.6	143.8	137.7
	C		目標	4,300	4,300	4,300	4,300	4,300
			実績	4,023				
			目標		4,003	4,133	4,220	4,351
			実績	3,771	3,715	4,192	4,396	3,852
			目標					
			実績					
		目標						
		実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 観光情報の発信	市内外の人	観光情報を得てもらおう。	a) 観光協会HPの年間アクセス件数	件	実績	62,000 (推計)	81,186	182,922	493,289	689,902
② 観光資源の充実	観光客	魅力ある観光商品を提供する。	a) [施策成果指標A] 観光入込客数	万人	実績	95	96.6	143.8	137.7	148.3
			b) [施策成果指標B] 観光消費額	百万円	実績	3,715	4,192	4,396	3,852	4,023
③ 受け入れ体制の充実	観光客	気持ち良く観光してもらおう。	a) 観光ガイド実績(件・人数)	件・人	実績	H26年度より調査			57・977	37・722
			b) 観光セミナー実績(実施回数・参加人数)	回・人	実績	H26年度より調査			2・21	5・88
④ 受け入れ施設の充実	観光客	受け入れ施設を整える。	a) 誘導サインの整備件数(※観光誘導サイン整備計画に基づく設置数の累計)	件	実績	H26年度より調査			0	4
			b) 観光施設や宿泊施設の老朽対策費(修繕含む)	千円	実績	H26年度より調査			29,844	31,728

3. 施策の役割分担

① 市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	② 行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●おもてなしの気持ちを持って観光客を迎える。 ●地域資源への認識を深める。 ●魅力ある観光関連商品の開発や情報発信に努める。 ●観光協会や観光事業者等の連携強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●雲南市の情報を発信する。 ●観光客の受け入れ環境を整備する。 ●魅力ある観光関連商品の開発を支援する。 ●関係団体や他圏域と連携し、広域的な観光振興を図る。

4. 施策の状況変化・住民意見等

① 施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	② 関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○鳥根県が古事記、日本書紀、出雲國風土記など神話や伝承を題材とした観光振興を進めている。引き続きそうした取り組みと連携した広域的な観光振興策が求められる。</p> <p>○JR西日本によるトワイライトエクスプレス瑞風の立ち寄り観光地が決定し、受け地整備(トイレ・ガイド等)が急がれる。</p> <p>○中国横断自動車道尾道松江線的全線開通効果を観光振興に最大限活かしていく必要がある。</p> <p>○尾原ダム(さくらおろち湖)の周辺整備、菅谷たたら山内の保存修理及び映画「たたら侍」の撮影セットを活用したイベント(出雲たたら村)の開催により、観光客の増加が期待される。</p> <p>○民間事業者による新たな観光商品(モノ・ツアー等)の開発が進んでいる。</p> <p>○菅谷たたら山内をはじめとするたたら製鉄に関連するストーリーがH28.4月に日本遺産認定されたことに伴い、観光入込客数の増加が見込まれる。</p>	<p>○中国横断自動車道尾道松江線を活用した観光振興策の実現と国道54号沿線の活性化策の両立が求められている。</p> <p>○たたらばき番地など道の駅を拠点とした観光案内や情報発信の充実が求められている。</p> <p>○神話や銅鐸、たたら、桜、さくらおろち湖など地域資源の積極的な観光活用により、交流拡大や産業振興につなげる施策展開が求められている。</p> <p>○市有観光施設の老朽化対策が求められている。</p> <p>○一般社団法人化した雲南市観光協会に、雲南市の観光振興のかじ取り役としての役割が期待されている。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

<p>①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。 	<p>②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	<p>③目標達成度 (目標値との比較など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
<p>* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)</p>		
<p>○H27年の観光入込客数は、対前年比7.7%・10.6万人の増加。観光消費額については、県の観光動態調査結果をもとに算出しているが、H27年は、4,023百万円となり、H26年の比較では、4.4%・171百万円の増加となっている。</p> <p>○中国横断自動車道尾道松江線の全線開通の効果により、観光入込客数及び観光消費額が増加したと考えられる。</p>	<p>○対前年比の観光入込客数は、県平均は▲0.1%となっている。県全体では、対前年比▲8.4～7.7%となっており、雲南市は7.7%(第1位)である。観光入込客数(実数)は8市の中では第4位となり、順位は昨年度より2つ上がった。</p> <p>○H27観光入込客数は以下のとおり(出雲市1,250万人、松江市1,062万人、浜田市183万人、雲南市148万人、大田市138人、安来市129万人、益田市98万人、江津市28万人)。</p> <p>【出典：島根県観光動態調査結果】</p>	<p>○成果指標A(観光入込客数)、については、目標値(130万人)を上回る成果(148.3万人、+18.3万人)であった。</p> <p>○成果指標B(観光消費額)については、目標値(4,300百万円)を下回る成果(4,023百万円、▲277百万円)である。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 観光情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・広島地区観光情報発信事業実行委員会参画事業(島根ふるさとフェア等)や観光宣伝事業などによる広島圏域への情報発信により、観光入込客の増加が図れた。 ・歴史に関する雑誌への広告掲載(神話・たたら等)を行った。 ・「安全安心な食と農」をはじめとする雲南の幸を集め総合的にPRし、さらなる雲南の魅力の情報発信を行った。 ・映画「たたら侍(仮)」の支援連絡会に参画し、映画製作・PRの支援を行った。 ・絵本「やまたのおろち退治」を作成した。
② 観光資源の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社)雲南市観光協会により、体験プログラム等の商品化を行った。 ・市内観光事業者と連携し実施した「ご縁と癒しの周遊バスツアー」や「たたら体験バスツアー」により、県外観光客の増加が図られた。 ・尾原ダム周辺施設を活用したスポーツイベント(トレイルランニングレース、ランニングバイク大会等)や音楽イベント(ダムRock Fes.)などに取り組み、交流人口の拡大が図られた。
③ 受け入れ体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市観光振興計画を策定(H28. 3月)した。 ・JR西日本による豪華寝台列車トワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り観光の誘致を進めた。 ・観光ガイド研修によりガイドのスキルアップを図った(雲南市観光協会主催)。 ・雲南市観光協会を法人化し、観光の専任職員を配置した。
④ 受け入れ施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国民宿舎「清嵐荘」の改築整備に向けた基本設計を行った。 ・市内3つのICから観光客をスムーズに誘導するため、観光誘導サインの整備に着手した。 ・国(国土交通省)による雲南吉田チェーンベースのトイレ整備に併せ、トイレから道の駅「たたらばき番地」への通路屋根の整備を行った。 ・市内観光施設の小規模修繕を行った。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○H27年4月に設立した(一社)雲南市観光協会が市内全体の観光プロモーションの中心的な役割を果たしていくために機能を強化する必要がある。 ○観光地の認知度を高めるとともに、地域資源を活かした観光商品の充実を図る必要がある。 ○受け入れ体制の充実及び観光施設の老朽対策の計画的な推進を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観光振興計画に基づき、関係団体との連携による着実な事業推進を図る。 ○雲南市観光協会職員のスキルアップや取組事業(ガイド・ツアー事業など)の充実を図る。 ○市内外の旅行事業者との連携により、観光PRや観光商品の開発に取り組む。 ○観光ガイドの養成、市民グループ等との連携支援及び観光施設の老朽対策の計画的な推進を図る。
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 観光情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ○菅谷たたら山内をはじめとするたたら製鉄に関連するストーリーの日本遺産認定や「出雲たたら村」におけるイベントを活用し、継続的且つ効果的な情報発信を行う必要がある。 ○雑誌等を活用してターゲットを絞り込んだ効果的な情報発信により認知度の向上を図る必要がある。 ○観光案内施設の機能充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マスメディア・ホームページを活用し、ターゲットに合わせた情報発信を行う。 ○県外での観光宣伝や雲南市PR大使の協力による雲南ファン獲得を図る。 ○道の駅など公共施設での観光案内機能の充実を図る。
② 観光資源の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活用した観光商品の充実を図る必要がある。 ○地元特産品などの開発を支援する必要がある(H28年度においては、映画「たたら侍」、日本遺産認定、トワイライトエクスプレス「瑞風」の運行による観光入込客数の増加を見据え、新たな土産物開発に着手)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○神話、たたら、遺跡、桜、滝、螢及びさくらおろち湖周辺などを活用した観光商品の充実を図る。 ○旅行事業者との連携を強化し、観光商品の充実を図る。 ○安全・安心な「食の幸」を活かした特産品づくりや販売などの支援を行う。
③ 受け入れ体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○菅谷たたら山内をはじめとするたたら製鉄に関連するストーリーの日本遺産認定やトワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り地決定を契機として、観光ガイドの養成、スキルアップを図る必要がある。 ○市民グループ等による観光・交流の受け入れ体制を支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(一社)雲南市観光協会を中心とした観光ガイド養成に取り組む。 ○地域自主組織等による観光交流メニューづくり(ふるさと案内人・視察受入など)を支援する。
④ 受け入れ施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路など幹線道路や観光地へのアクセス道に観光誘導サインを計画的に整備する必要がある。 ○観光客の受入環境を計画的に整備する必要がある(H28年度は、トワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り地へのトイレ等の施設整備や観光地における公衆Wi-Fiの整備を実施)。 ○国民宿舎「清嵐荘」の実施設計及び管理運営実施計画を策定する必要がある。 ○観光施設や宿泊施設の老朽対策を計画的に推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観光誘導サインの整備は、「観光誘導サイン計画」に基づき、引き続き道路管理者(国・県)と連携を図りながら計画的な整備を進める。 ○国民宿舎「清嵐荘」の実施設計及び管理運営実施計画の策定を行う。 ○既存宿泊施設の利用率向上に向け誘客強化に努めるとともに、ニーズに応じて観光施設や宿泊施設の小規模修繕工事を行う。

施策マネジメントシート1 〈平成27年度実績の評価〉

作成日 平成 28 年 6 月 28 日
更新日 平成 28 年 8 月 24 日

総合計画体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	商工観光課
	施策名		39.商業の振興	主管課長名
			関係課	産業推進課・都市計画課・建築住宅課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①対象(誰、何を対象としているのか)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
市内の商業事業者	A 卸・小売業事業者数	事業者	見込	(実績) 484(H26)	400	400	400	400
			実績	603(H21)	435	435(H23)	435(H23)	484
	B		見込					
			実績					
	C		見込					
			実績					
②意図(どのような状態にするのか)	④成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
目的 A) 売上を伸ばす。 B) 経営が安定する。	A 卸・小売業年間販売額(暦年)	百万円	目標	37,000	37,000	37,000	37,000	37,000
			実績	43,151(H26)				
			目標					
			実績	58,537(H19)	37,431	37,431(H23)	37,431(H23)	43,151
	B 地元購買率 (市民アンケート調査項目)	%	目標	87.0	87.0	88.0	88.0	88.0
			実績	80.4				
			目標		82.0	83.0	84.0	85.0
			実績	83.4	84.9	88.6	86.7	83.5
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
D		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

2. 施策の目標達成のための基本事業(目的・指標及び実績)

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
① 地元購買の喚起と活性化	市内の商業事業者	活性化と売り上げを伸ばす。	a) [施策成果指標A]卸・小売業年間販売額	百万円	実績	37,431	37,431(H23)	37,431(H23)	43,151	43,151(H26)
			b) [施策成果指標B]地元購買率	%	実績	84.6	88.6	86.7	83.5	80.4
② 経営支援の充実	経営規模が小さい事業者	経営力を高める。	a) 金融支援策の活用件数(保証料補助金)	件	実績	H26年度より調査			88	84
			b) 商工業活性化事業の利用件数(空き店舗・家賃・移動販売・県補助)	件	実績	H26年度より調査			14	34
			c) セミナー等の開催回数・参加者数(対象:商工会会員)	回・人	実績	H26年度より調査			18・213	10・303

3. 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ● 地元での購買に努める。 ● 商業事業者は、魅力ある店舗づくりや顧客等のニーズ把握に努め、販売拡大に取り組む。 ● 商業団体・組合等は、組織の強化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業事業者の経営支援を行う。 ● 新規の創業支援を行う。 ● 地元購買を喚起する。 ● 商店街の賑わい再生に向けた事業展開を支援する。

4. 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～H29年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<p>○人口減少・高齢化から事業者の後継者不足は年々深刻化し、購買層にも変化が生じてきている。また、無店舗地域の発生が懸念される。</p> <p>○JR木次駅前の旧サン・チェリヴァがH27.4月に閉店したが、H28.3月にマルシェリーズショッピングセンターとして再オープンした。</p> <p>○国では、消費税率10%への引き上げをH29.4月から2年半再延期することが発表されたが、引き上げ後の影響が懸念される。</p> <p>○雲南市地域経済振興会議での継続的な検討により、地域商業の振興が求められている。</p> <p>○中心市街地活性化基本計画認定後、計画に基づく活性化事業の展開が見込まれる。</p>	<p>○中国横断自動車道尾道松江線の全線開通に伴う市内への誘導促進策を求められている反面、高速道路無料区間沿線の商業活性化を求める声がある。</p> <p>○地域経済の活性化や既存商店街の賑わいづくりを目指した取り組みが求められている。</p> <p>○観光振興と商業振興の一体的な施策展開を求める市議会意見がある。</p> <p>○空き店舗の活用や後継者育成・リーダー養成を図るための施策展開を求める市議会意見がある。</p>

施策マネジメントシート2 〈平成27年度実績の評価〉

5. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察、振り返り評価

①時系列比較 (H26年度とH27年度の比較)	②他団体比較 (近隣他市、県・国の平均との比較など)	③目標達成度 (目標値との比較など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した。 <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった。 <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった。
* 背景・要因 (根拠となる実績値、判断理由など)		
<p>○成果指標A(卸・小売業年間販売額)は、名簿や調査方法の違いから、結果として集計対象等が異なっているため、単純には比較できないものの増加傾向がうかがえる。</p> <p>○成果指標B(地元購買率)は、3.1ポイント減少した。</p>	<p>○卸売・小売業では、8市平均が27,446(単位:百万円)に対し、雲南市は8市中7番目の8,616である。 ※松江市84,520、出雲市59,875、浜田市23,848、益田市16,336、大田市10,653、安来市10,140、江津市5,580。 【出典:平成24年度 島根県県民経済計算(市町村内総生産)】</p>	<p>○成果指標Aは、目標値を上回っている(※但し、H26年度実績は「経済センサス基礎調査」の数値(売上額)なので、「経済センサス活動調査」の数値(販売額)結果の公表後に修正する)。</p> <p>○成果指標Bは、目標値を下回った。</p>

6. 事務事業の貢献度総括

基本事業名	取り組んだ事務事業の貢献度評価(貢献した事務事業、課題のある事務事業)
① 地元購買の喚起と活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・国の経済対策事業を活用し、昨年度の倍額(2億4,000万円)のプレミアム商品券補助事業に取り組み、地域経済の活性化と市内事業者の経営支援を図った。 ・引き続き商工振興巡回支援活動補助事業により軽トラック市の開催(H27年度:4回)及び各種研修会の開催支援を行った。 ・地域経済振興会議を設置し、地域経済の振興発展に向けた検討を実施(H26~H27年度:11回)した。 ・地域商業等支援事業補助金(県補助)を活用した新規開業(15件)が多く、地域商業の活性化と地元購買力の喚起につながった。 ・老朽化した施設改修を行い、JR木次駅前のマルシェリーズショッピングセンターを再オープン(H28.3月)した。 ・中心市街地活性化基本計画の策定に向け、商工会・まちづくり会社・民間商業者を含め、雲南市中心市街地活性化協議会を発足し、関係者との議論が深まっている(H28年度中に計画認定を目指している。)
② 経営支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済振興会議を設置し、地域経済の振興発展に向けた検討を実施(H26~H27年度:11回)した。 ・商工業振興補助事業により、引き続き経営安定化に向けた経営指導事業に取り組みとともに、引き続き専門家派遣事業を実施し、小規模事業者の経営支援を図った。 ・商工業活性化支援対策補助事業により、店舗改装助成(13件)、空き店舗活用時の家賃助成(5件)、移動販売車改造(0件)を実施した。 ・県の補助事業を活用し、小売店等持続化支援(一般枠:14件、特別枠:1件)、旧制度による家賃補助(1件)など、助成を行った。 ・事業者の資金繰り対策として引き続き保証料補助によって経営支援を図った(H27年度:84件)。

7. 今年度の取組・今後の課題と次年度(平成29年度)の方針

区分	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
施策	<p>○中心市街地を中心として、それぞれの地域の特性や役割に応じた地域商業の活性化を図る必要がある。</p> <p>○魅力ある商店街づくりに向け、経営支援の強化や新規の創業支援を行う必要がある。</p>	<p>○中心市街地を中心として、それぞれの地域の特性や役割に応じた地域商業の活性化を図る。</p> <p>○魅力ある商店街づくりに向け、経営支援の強化や新規の創業支援を行う。</p>
基本事業名	今年度の取組・今後の課題	次年度の方針
① 地元購買の喚起と活性化	<p>○雲南市中心市街地活性化基本計画に基づいた賑わい創出に取り組む必要がある(H28年度中に、中心市街地活性化基本計画の認定を得る)。</p> <p>○既存商店街における空き店舗の活用を行い、地域商業の活性化と維持に取り組む必要がある。</p> <p>○移動販売の推進及び支援を行い、中山間地域や無店舗地区における商業機能の維持を図る必要がある。</p>	<p>○雲南市中心市街地活性化基本計画に基づいた賑わい創出に取り組んでいく。</p> <p>○引き続き、市外への消費流出の抑制を図る事業に取り組み、地元購買の喚起と活性化を図る。</p>
② 経営支援の充実	<p>○市民・事業者・行政とが一体となった商業振興に努める必要がある。</p> <p>○商業団体等と連携し、商業事業者への経営指導、経営支援、金融支援などの情報提供に努める必要がある。</p> <p>○商業団体等と連携し、商業事業者によるインターネット等の情報通信網を活用した魅力ある商品の情報発信に努め、顧客の獲得や販売力の向上を図る必要がある。</p>	<p>○雲南市中心市街地活性化基本条例に基づく地域経済振興会議の議論を継続的に行い、市民・事業者・行政とが一体となった商業振興に努める。</p> <p>○産業振興センターの機能として、後継者・事業承継対策を推進していく。</p>